

令和4年度指定文部科学省事業

新時代に対応した高等学校改革推進事業
(普通科改革事業)

事業成果物

第1年次

熊本市立必由館高等学校

目次

I 研究概要

- 1 研究開発の概要
- 2 研究開発概要図

II 事業の概要

- 1 事業の実施日程
- 2 管理機関による事業の実施体制や管理方法
- 3 コーディネーターの配置および活動内容
- 4 運営指導委員会の体制および取組
- 5 コンソーシアムの体制および取組
- 6 管理機関による支援体制
- 7 成果達成・普及のための取組
- 8 評価分析

III 事業の詳細

- 1 運営指導委員会・コンソーシア会議
- 2 学校設定教科「必由学」の設置に向けた取組
- 3 外部有識者による講演会
- 4 職員研修
- 5 視察研修
- 6 学校改革プロジェクトチームの取組

IV 評価分析

- 1 成果目標の達成状況
- 2 Ai Grow（評価分析ツール）の概要
- 3 評価分析を踏まえた次年度の取り組み

V 実施事業一覧

VI 新学科カリキュラムマネジメントロジック案

VII 成果概要図

I 研究概要

1 研究開発の概要

令和4年度指定文部科学省事業新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革事業）の委託を受け、令和6年度新学科の開設に向け、熊本市立必由館高等学校普通科改革に取り組む。

(1) 学校名・設置（予定）年度・設置する学科の種類

学校名	熊本市立必由館高等学校
所在地	熊本県熊本市中央区坪井
学科の種類	地域社会学科
設置年度	令和6年度

(2) 現在の設置学科・コース 募集定員

学科	コース	クラス数	募集定員
普通科	普通	6クラス	40名×6クラス=240名
	国際コース	1クラス	40名×1クラス=40名
	芸術コース	1クラス	40名×1クラス=40名
	服飾デザインコース	1クラス	40名×1クラス=40名
	計	9クラス	360名

(3) 新しくの設置する学科・コース 募集定員（学科コース名は仮称）

学科の名称	コース	クラス数	募集定員
文理総合探究科	文理コース	7クラス	35名×7クラス=245名
	芸術コース	1クラス	30名×1クラス=30名
	生活デザインコース	1クラス	30名×1クラス=30名
	計	9クラス	305名

【熊本市立必由館高等学校】地域社会にかかる新学科を設置（令和6年度予定）

教育理念： 自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校を目指す

革新的な教育活動の実践

《育成する資質・能力》

- I 多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- II 社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- III 分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- IV 自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

《特色・魅力ある先進的な教育の取組》

- ① 少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組み
多様な生徒へのきめ細かな指導、支援を実現
1 クラス30人または35人の少人数によるクラスを編制
生徒が主体的・協働的に学ぶことのできる授業づくり
- ② 「学校設定科目 必由学」の新設
持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育み、「Well-being」としての社会情緒的能力などを醸成
- ③ 熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実
市役所の全面的な協力体制のもと、市立ならではの教科等横断的・探究的学習を行う。
- ④ 探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し、表現する力の育成を目指す。
- ⑤ 生徒・教師が主体的に学校づくりに参画する Agency School
生徒が授業づくりや校則の策定・見直しなど、生徒が学校創生に参画
教育実践及び教育的効果を構造的に国内外に還元するとともに、自らの学びは自らが創る Agency Schoolを目指す。

様々な教育活動を支援

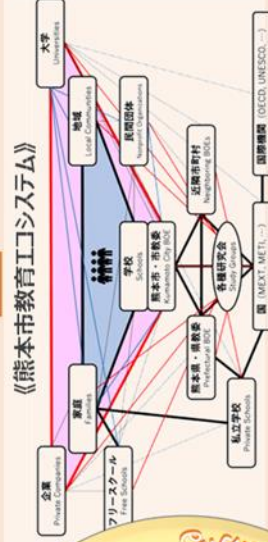


連携協力体制

《コンソーシアム》

ESD×キャリア教育 STEAM×ICT

熊本市教育エコシステムから、より中核的に本校の教育活動を支援する。



広報活動



熊本市教育委員会主催の教育イベントである「Kumamoto Education Week」において、本校生徒による先進的な取組に関するプレゼンテーションやコネクター等によるパネルディスカッションを行い全国に向けて本市の先進的な取組を積極的に発信する。



※令和3年度の「Kumamoto Education Week」の内容はコチラ⇒

Ⅱ 事業の概要

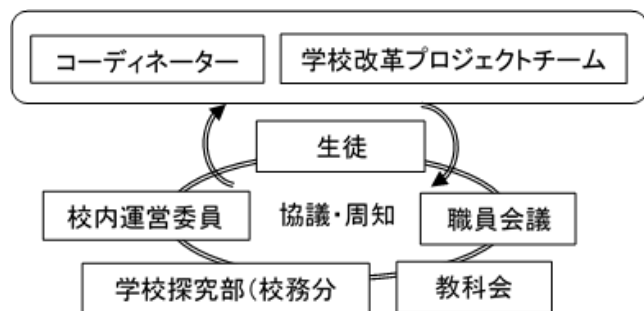
1 事業の実施日程

事業項目	実 施 日 程					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教育課程編成			1回		1回	1回
コーディネーター研修		2回			1回	1回
運営指導委員会				1回		1回
コンソーシアム会議					1回	1回
探究的学習の充実に向けた取組	・国際サステイナブル会議(福岡) ・GoGreenプロジェクトin熊本参加		・探究学習発表会 iMovie活用	・Kumamoto Education Weekでの発表	・国際サステイナブル会議(東京) ・観光庁発表	・熊本市内フィードバック「探究のタネを探す」
「市立高等学校・専門学校改革検討会議」	1回	1回	1回		1回	2回
他都市先進校視察訪問	北九州市教委	兵庫御影高校 京都開建高校 京都市教委校			長崎松浦高校 福岡八幡高校	京都開建高校
外部講師招聘 (運営指導委員・コンソーシアム構成員・職員対象)				3回	1回	1回
外部講師招聘 (生徒対象)		1回	2回	1回	1回	1回
資質・能力の変容の調査・検証			Ai GROWの実施	現状の検証	分析	

2 管理機関による事業の実施体制や管理方法

ア 実施体制

コーディネーターと学校改革プロジェクトチームにおいて関係機関の協力の下、事業計画案を作成し、その後、校内運営委員会、職員会議、学校探究部等で校内での協議及び周知を行った。



3 コーディネーターの配置および活動内容

ア 熊本市教育委員会学校改革推進課教育審議員が熊本市立必由館高等学校のコーディネーター業務及び授業づくり等に指導・助言を行った。

イ 必由館高等学校においてはコーディネーターとして次の3点に取り組んだ。

① 学校でのコーディネーター業務

- ・本校が策定するカリキュラムの支援、事業実施体制の構築、年間指導計画の策定支援、評価方法の設計

- ・学校改革プロジェクトチームと協力して、運営全体のマネジメントを行い、事業計画策定のサポートと評価、カリキュラム作成

② カリキュラム開発業務

- ・探究的な学習と育成したい資質・能力を融合させ、導入・知識・推測・理解・知識理解の統合・考えのまとめ・成果へとつなげるためのカリキュラムについて、学校との協議・調整

③ 地域等におけるコーディネーター業務

- ・行政や企業など外部機関との調整協議、地域資源や課題の把握、分析、人材バンクの構築等を行う。初年度においては、企業、行政、大学等の教育機関等で構成するコンソーシアムが十分に機能するよう、各団体との連絡・調整等

4 運営指導委員会の体制および取組

(1) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
熊本大学 特任教授	前田 康裕	教育学・ICT教育 著書「マンガで知る未来の学び」等多数。
熊本大学教育学部教授	宮瀬 美津子	生活科学一般
Y's READING 代表取締役 放射線専門診断医 医学博士 熊本大学医学部 臨床教授	中山 善晴	プレゼンテーション教推進 経済産業省「地域未来牽引企業」選出 高等学校キャリア教育等に貢献
九州地方ESD活動センター	澤 克彦	全国的なESD普及活動
熊本市立中学校長会代表	田口 恵子	熊本市立桜山中学校長 市立高等学校専門学校改革検討会議メンバー
必由館高等学校	東 英一	PTA 会長

熊本市教育委員会	松島 孝司	熊本市教育委員会 教育次長
----------	-------	---------------

(2) 運営指導委員会の取組

事業に関わる各機関に、下記の項目について専門的知見から指導・助言を行った。

- ・教科等横断的・探究的な学びを充実し、幅広い進路選択に対応する教育課程について
- ・グラデュエーションポリシー(ICTを活用した情報活用能力等含む)の検証について
- ・市立高校と市立専門学校、大学間の連携強化(探究的な学びの共同実施、単位認定等)
- ・市が所管する地域資源や人的ネットワークを活用した教育方法について
- ・学校改革に資する人事交流・人材活用等について
- ・運営・検証に生徒が主体的に関わる Agency School(OECD連携)について

5 コンソーシアムの体制および取組

(1) コンソーシアムの体制

所属	氏名	主な実績
熊本県立大学 教授	飯村 伊智郎	ICT 教育
九州地方ESD活動センター	澤 克彦	全国的なESD普及活動
熊本市政策企画課	迫本 昭	政策企画課長
熊本商工会議所 副会頭	毛利 浩一	産学官連携
熊本市現代美術館 副館長兼事務協局長	岩崎 千夏	地域創生 (芸術)
熊本市教育委員会 学校改革推進課課長	松永 直樹	管理機関の課長
熊本市教育委員会 学校改革推進課教育審議員	上野 正直	管理機関の教育審議員

(2) コンソーシアムの取組

コンソーシアムは、学科改編に伴う事業計画や実施方針などについて学校改革プロジェクトチームと定期的に意見交換を行う。協議において出た意見などを踏まえて検証授業等を実施し、事業計画の見直しを行った。スクールエージェンシーとし

での意識変革のあり方を協議した。

6 管理機関による支援体制

「総合的探究学習の時間」において、TTとして実際に授業を行い、あわせて指導・助言を行った。

7 成果達成・普及のための取組

(1) 熊本市教育委員会主催の教育イベントにおいて全国へ発信

・熊本市教育委員会主催の教育イベントである「Kumamoto Education Week」において、本校生徒による先進的な取組に関するプレゼンテーションやコーディネーター等によるパネルディスカッションを行い全国に向けて本市の先進的な取組を積極的に発信した。

(2) 研究成果発表の場を広げる取組

・生徒が主体的に学びの成果を発表する取組として、国内外の高校生や学生と研究課題や研究成果に関する意見交換会や成果発表会を行った。
・校内成果発表会に県内小中高校生・教職員や関係機関の職員等を招いて、成果の普及・共有や提言・実践の場として活用した。

(3) 熊本市内フィールドワーク

・「文化財」「環境」「観光」「福祉」などの単独の分野だけの課題や取組ではなく、それぞれが関りあっているということに気付くことのできる大変充実した機会となった。

(4) 外部有識者による講演会の実施

・高校生が社会の一員として地域（熊本市）の課題を自分事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながら、解決していくための資質能力を育むことを目標として実施した。日常の生活の様々なところに課題があることを知り、今後の探究学習に役立てていく。

(5) 視察研修

・先進的な取組を数多く取り入れている教育委員会や高等学校の視察訪問をとおして、本校の探究活動や地域連携のあり方また学科改編に向けた取組について参考とする。

(6) 学校改革プロジェクトチームの取組

・学校内に、学科改編の事業実施主体となる学校改革プロジェクトチームを設置した。学校改革プロジェクトチームは、目的に沿った事業計画を作成し、職員

(校内運営委員会、職員会議、学校探究部、教科会)へ提案し、協議を行い、意見としてまとめた。

・学校改革プロジェクトチームの構成員：校長、教頭、教職員4名程度

8 評価分析

本委託事業における取組をとおして、生徒及び教員の資質・能力の変容や、教育活動の教育効果を正確に測定し、可視化することで、客観的な評価分析を行うため、AiGROW（IGS（株））を活用した。

(IGS（株）：Institution for a Global Society 株式会社)

Ⅲ 事業の詳細

1 運営指導委員会・コンソーシア会議

趣旨

これからの10年を見据えた魅力ある学校（自らの学びは自ら作る Agency School）を目指し、必由館高等学校の現状、課題を踏まえ課題解決に向けた取組を協議する。

協議（指導・助言）の柱

- ・生徒の学びの姿勢の確立、職員の指導力向上
- ・探究的学習（学校設定教科「必由学」、総合的な探究の時間）の充実
- ・学科、コースの特色を活かした教育課程
- ・令和6年度学科改編に向け、改革を先取りした取組

(1) 第1回運営指導委員会

ア 実施日時：令和5年1月18日（水）15：00～17：00

イ 出席者：前田 康裕、宮瀬 美津子、中山 善晴、澤 克彦
田口 恵子、東 英一、松島 孝司

ウ 次第

- | |
|-----------------------------------|
| 1 必由館高等学校校内見学 |
| 2 開会 |
| 3 熊本市教育委員会あいさつ 教育次長 松島 孝司 |
| 4 熊本市立必由館高等学校 校長あいさつ 校長 城野 実 |
| 5 出席者紹介 |
| 6 日程説明 |
| 7 協議事項 |
| (1) 高等学校改革推進事業内容説明（事務局） |
| (2) 必由館高等学校における課題及び課題解決に向けた取組（校長） |
| (3) 必由館高等学校普通科改革に向けての指導・助言 |
| 8 その他・諸連絡 |
| 9 閉会 |

エ 協議録

委員1

芸術とか文化的なところが、充実している印象が残った。これから先テクノロジー（技術）的なところに、学校としてどのぐらい介入していこうと考えているのか。

城野校長

パイソンをやりたいという思いはある。1年生の必由学の中で学習することを検討している。

委員1

ノーコードプログラミング（コードを書かずに、プログラミングをつくる）が身近になってきている。私自身、医療系のベンチャー企業を立ち上げる中

で、そのような製品の開発も行っている。ノーコードプログラミングを通して学校教育、探究教育とテクノロジーを繋げ、熊本市の課題を解決するなどの取組が今後盛んにできるようになるのではないかと。そのような取組については、弊社もどんどん協力していきたい。予算の関係もあると思うが、協力できる地域企業などを巻き込んで、そこはボランティアでやっていただけたらと思う。そのために文化、芸術の発表の場として、なおかつベンチャー企業を育成する、スタートアップする、プレゼンできるようなところとして、校舎の1階の空間はとてもよい。また、そこに地域企業が集まってきて、交流することもできる。課題を解決するための次の時代のテクノロジーに身近に触れられる。強みとして「ここ必由館にはあるんだ」的なものを取り入れるとよいのではないかと。

委員2

「学びをいかに充実させるか」ということが1番大事であると思っている。必由館はテクノロジー的なところに課題がある。中学校を併設していない高校は、大学受験のほうにしか目が行ってない。そういった意味で情報Ⅰは充実させる必要がある。質問、情報Ⅰは、専任の先生がいるのか。

城野校長

教諭が1名いる。市が提携を結んでいるLIFE WITH TECのコンテンツを用いた授業を行っている。

委員2

Chromebookも使えるし、MacBookも使えるといった、中学校から少しレベルアップしたようなものが複数あるなど、子供が自分の学びタイプに合わせて選べる環境をつくることもいいのではないかと。

上野コーディネーター

同感である。今年度1年生の探究の時間1コマで授業を受け持っている。Chromebook、MacBook、iPadそれぞれの強み・弱みを検証するという事でNTTからiPad30台、MacBook1台を借りることができた。

城野校長

課題として、パソコン室が1教室しかなく、大学入試共通テストの情報Ⅰについて模擬試験も何も出来ないことがある。コール室をパソコン室に変えることやマックの導入も考えてはいるが予算がない。本会においてアドバイスをいただくと予算要求しやすくなる。

上野コーディネーター

例えば札幌市においては、北海道大学と連携してポスドクが教えに来る。東京都内の私立高校においては大学生がチューターとして教えに来る。このような指導システムをつくるべきだ。

松島次長

皆さんにご意見いただきたいことがある。「子供たちが卒業するときに、どのような進路を選んでいくのか。例えば市役所との連携、具体的な、卒業後のイメージ（大学入試共通テスト、総合選抜型入試）もある。どこにどう焦点を当てていくのかと。もちろん全部焦点をあてなければいけないのだが、実現するためには相当なマンパワーも必要であるし、カリキュラムも考えなければいけない。しかし、そこを考えておかないと、「あれそんなはずではなかった」となってしまう。校長が台湾との交流を積極的に行っている。台湾に行きたいという生徒が出てきても当然だろう。そういう自由度のある学

校に当然なるはずであるが、それをどこまでどう広げるのか。ご意見をいただきたい。

委員3

令和6年度から、変わるということであるが、中学3年生の保護者むけの1回目の説明会が6月か7月ぐらいにある。「どこが変わったの、どこが今までと違うの」と聞かれたときに、どう受検生に返せばいいのか。企業、市役所、大学との連携もどういうものなのか。

中学校でも、探究的な学習を、熊本大学前田先生に教わりながら行ってきたが、全職員でやっていくというのは相当難しい。先生たちが何をすればいいかがわかってない。分かるまでに、かなり時間かかる。職員研修をしっかりとっておかないといけないと思う。

委員4

大学教育もこれから変わらなければいけない。そこで求められているものと高校で求められているものは一緒である。DX教育では、熊大でも文理融合型の学科を作ることになっている。

私たちも、「こういうことをやるんだ」と決まってから少しずつ情報をもらっているような状況である。高校でもしっかりと固まってしまう前でよいので、ここはもう変わらないというところの中から少しずつ情報公開していきながらも、入試はどう変わるのか、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、どういう進路想定にするかを、がっちり固めていくやり方がよいと思う。

進路に関して、今後こういう力がついたらこういうところへの進路先を新しく開拓していきたいという、先生方の思いを、入学時点から卒業時点までトータルでコンセンサスを得ていくことも必要である。

アウトプットというところで、AIによる診断もあると思うが、学校家庭クラブで最優秀賞を取られていた。今学校が変わろうとしている、先生が変わろうとして研修受けている、その先生たちの変化が、学校家庭クラブ本プロジェクトの探究的な学習の最たるものであり、そこにもう既に結果としてあらわれ始めていると思う。どれだけ深い学びが出来たかっていうのは、インプットよりもアウトプットの方がみとることができる。

今、様々な分野でアウトプットを、生徒たちが披露する場面があると思う。今年は、SDGsに関する高校生選手権（こういうふう提案して、社会が変えられるのではじゃないか）も熊本で始まっている。そういった場（お金はかからない）を活用しながらアウトプットの部分をみとっていく。

総合的な探究の時間については指導と評価の一体化のための資料を活用してもよい。先生たちがアウトプットをどうみとっていくかという研修もこれから必要になってくると思う。

城野校長

アウトプットに関しては、この3年間で生徒たちが大きく変わってきた。制服検討委員会で生徒たちは「自分たちの声が生かされた」という実感を強く持った。そのことで昨年度、市教委の学校改革に対して生徒会長が声を上げた。先輩たちが起こしたこれらの行動を見てきたことで、その言葉の端々に生徒たちが責任感を持ち始めたことを感じる。部活動にも成果が出ており、学校家庭クラブ本プロジェクトの最優秀賞、保健部会優秀賞、日本教育新聞では1年目は最優秀賞、4年連続優秀賞をいただいた。日本教育新聞の作文は情報の授業や国語の授業の中で取り組んでいる。これらをどうやって全

体で実施していくのかについては、必由学としてやっていくものもあるし、国語や日本史の時間にやっていくものもあると思う。我々が求める生徒、育てたい生徒として「社会に出て、就職しても進学しても、学び続けることのできる生徒」というところは間違いない。変わったところは何かと聞かれば、「学び続けることのできる生徒を育てるための時間を、捻出して、学校の中で組織的に取り組む学科にしていく」としか言いようがない。

委員 5

幾つかのコンセプトがこのプロセスには必要であり、必由館がどのような状態でありたいのかということのデザインが欲しい。そこをつくっていくのが運営指導委員会、コンソーシアムなのかと思う。

学校の中での評価軸としては外側にどれだけインパクトの手応え感があったのかということが、総合的にどのように見えてくるか。実際、私たちと一緒に活動している必由館の生徒が実行委員として「こういうことやりたい」と投げかけてくる。学校を軸としながら、ネットワークの外でどんな反応があったのか、コミュニケーションがあったのかというところを往復作用的にとらえていくことで、この学校のインプットがどうアウトプットとして広がったかっていうところが初めて見えてくる。プロセスのデザインとコンセプトのデザインの両方議論していくことが必要だと思う。

個人的な経験として大学入学時に男女共学になる、その1期生の経験があった。その時は、どんなことをしているのかわからない、でも、何となくおもしろそうだというオーラがあった。イチかバチかでも行こうと思った。必由館でも生徒たちは新しいカリキュラムの雰囲気だけを嗅ぎとり、どんどんエントリーをしてくるだろう。何かわかんないけどおもしろそうだとするところをどんな形で、魅力として出し切るかということが重要である。だから緻密に「これが固まりました」では手後れで、固まらないけど、「なんか出そうとしているぞ」というところをどれだけ、今年発信していけるかが、令和6年度からの入学生徒のモチベーションだとか、自分たちが当事者と一緒につくっていけるんだという、探究ネイティブのような、生徒達同士のコミュニケーションが生まれるのではないか。そこは期待として高いと思う。

委員 6

必由館の現状の課題で、学習意欲や学力に生徒間の差が見られるとあるが、新しいカリキュラムを取り入れることでその差が埋まってくるのかとは期待している。それがどのくらい、魅力あるものになってくるのかを、保護者としては知りたい。危惧するのは人・物・金。予算をとって、色々ものを入れても、その後それを生かす人材をどう確保するのか。そこがうまくはまらないと、難しくなってくるのではないか。

委員 1

子供たちの将来の道で、今まではなかったが今後出てくるだろうというのが、「社会課題を解決する社会起業家」。大学進学や就職とは違った形である会社・ベンチャー企業をつくるなど、新しいジャンル領域がこれから注目されてくると思う。そこも考えておく必要がある。

(2) 第1回コンソーシアム会議

ア 実施日時：令和5年2月8日（水）15：00～17：00

イ 出席者：飯村 伊智郎、澤 克彦、毛利 浩一、迫本 昭、岩崎 千夏
松永 直樹、上野 正直

講師 福岡教育大学 副学長 教育学部教授 石丸 哲史 氏

ウ 次第

1 講演 演題「必由館高等学校改革に向けてE S Dの役割」 講師 福岡教育大学 副学長 教育学部教授 石丸 哲史 氏
2 開会
3 熊本市教育委員会あいさつ 学校改革推進課 課長 松永 直樹
4 熊本市立必由館高等学校 校長あいさつ 校長 城野 実
5 出席者紹介
6 日程説明
7 協議事項 (1) 高等学校改革推進事業内容説明（事務局） (2) 必由館高等学校における課題及び課題解決に向けた取組（校長） (3) 講演の質疑応答、必由館高等学校普通科改革に向けての指導・助言
8 その他・諸連絡
9 閉会

エ 講演

(ア) 演題「必由館高等学校改革に向けてE S Dの役割」

講師 福岡教育大学 副学長 教育学部教授 石丸 哲史 氏

(イ) 講演

〈E S Dの背景〉

E S Dとは社会的、課題を解決するための教育。ソーシャルビジネとは社会的課題を解決するためのビジネス。ウェルビーイングはE S Dが目指す一つの方
向性である。昨年9月、国連の教育改革サミット岸田首相「現在の世界は新型
コロナウイルス感染症、気候変動、経済格差等様々な地球規模の課題や、ロシ
アのウクライナ侵略に見られるような権威主義の台頭など様々な課題に直面し
ています。こうした課題に正面から向き合い、より豊かな社会を構築するた
め、私は、課題解決と経済成長を同時に実現しながら、強靱で持続可能な社会
に変革する新しい資本主義の実現を目指しています。これは国連が進めるSD
G sの理念とも重なるものです。新しい資本主義においては、人への投資をそ
の中核に位置付け、一人一人の能力を最大限に引き出し、デジタルトランスフ

オーメーションやグリーントランスフォーメーションといった大きな変革の中で、創造性を発揮できる人材育成に取り組みます。また、日本が提唱した持続可能な開発のための教育ESDは、持続可能な社会の作り手を育む教育であり新しい資本主義の実現に向けて、極めて重要です。引き続き、全力で推進し、世界をリードしてまいります。」実はESDは我が国が提唱した持続可能なための教育。2019年ユネスコの総会で、「持続可能な未来を形づくる上で必要な知識や技能や態度や価値観を養う」SDGs目標達成のための教育でもあると定義している。

〈ESDで重視する観点〉

- ・持続不可能な状況を理解し持続可能な開発に係る課題を教育や学習に導入する。（社会課題に必要なそれぞれのコンテンツ：気候変動や、防災や減災、生物多様性、貧困の撲滅、持続可能な商品など）
- ・批判的な思考、将来像を描く態度、協働による意思決、に必要な資質・能力を育む。（資質・能力、コンピテンシー）
- ・「持続可能な社会づくりのための人づくり」がESDであり教育がこれを担う。

〈持続可能性を意識することの必要性〉

・今、持続不可能な社会（学校が廃校、人口減少社会、高齢化、空き家や空き地の増加、廃屋、シャッター通り商店街、VUCA）になってきている。これまでのフォーキャスティング的ものの見方（現在から未来を見る見方、ではこれまで続いてきたからこれからも続くだろうという思い込み、未来がどうなるかということを考えない）では持続不可能な状況になる。そこで、バックキャスティング的なものの見方が重要になる。持続可能な社会に向かうためには、まずは今がどういう状況なのか、持続不可能な現状をまずしっかりと認識し、問題意識をもって、どうすればいいのかという課題に向かっていくということが重要。問題とは、持続不可能な現状認識して問題意識を持つこと、課題とは、どうすればこの問題を解決することができるのかというタスク。問題の認識と、課題の設定は課題解決学習の中でも重要である。

〈ゴールの設定〉

SDGsで持続可能な開発目標（ゴール）をはっきりさせたことは持続可能性に向かっていく上で効果的であった。同じゴールに向かっていける人づくりをどうしていくかというところに教育の意味がある。ESDにとってSDGSのおかげでより教育の手法が明確になったと言ってよい。

〈国立教育政策研究所「ESDのフレームワーク」〉

持続可能な社会づくりに関わる課題を見出すため視点

I 多様性 II 相互性 III 有限性 IV 公平性 V 連携性 VI 責任性

多様性のある社会が、持続可能な社会だと言える。だから六つの多様性を理解することは持続可能な社会実現のために必要である。「持続可能な社会ってどんな社会なのか」ということを、六つの構成概念から社会像を、一人一人の生徒が言えるようになることは大変重要である

〈ゴールへの向かい方〉

- ・並走型：みんな一緒に向かっていく。微力ながら私もやりますよ。僕もやりますよっていう、みんなで向かっていこうという方向。
- ・バトンタッチ型：自分はここまでしか出来ない。でもここから先はああいう人たちにお願いしてやってもらえる。
- ・コレクティブインパクト：同じ業界の方ではなく、様々な世界で活躍されている方が、集まりつながる。

〈エデュケーション 2030 が目指す三つの力〉

- ・新たな価値を創造する力
- ・責任ある行動をとる力
- ・対立やジレンマに対処する力

〈エージェンシーについて〉

エージェンシーとは、変化を起こすために、自分で目標を設定し振り返り、責任を持って行動する能力である。このエージェンシーが「新しい価値を創造し、責任ある行動をとり、対立やジレンマに対処する力」の原動力となる。

〈生徒を「ガチ」にさせる 生徒のエージェンシーを育む〉

生徒が「ガチ」になりさえすれば、色々なパワーが発生してくる。「ガチ」にさせるための手段の一つがESDの実践である。生徒を「ガチ」にさせるために、具体的な事例、事情や場面や、持続不可能な場面を取り上げ、示すことも重要である。また「こういう方向もあるんじゃない」「いやこういう方法もあるんじゃない」という考えを引き出す「批判的に考える力」「代替案を出す力」また、関わり、つながり、結びつきを「多面的総合的に考える力」も持続可能な社会というものの全体像を見るために必要である。生徒をガチにさせる重要な主体は教師・同級生・保護者・コミュニティー。エージェンシーのもと「見通し行動を振り返り、まず見通しを持って行動して、行動した後に必ず振り返る」というサイクルでウェルビーイングに向かっていく生徒を育成すること重要。バックキャスト的に考えると、持続可能な社会、ウェルビーイングに向かっていく上では、「今どういう状況なのか、どうすればいいかを考えながら、見通しを持ってやってみよう」そして「私たちがやったことはどうだったのか。本当によかったのかと振り返る」さらに「この部分がちょっと無理があったのではないかな。じゃあこうすればいいよね。」と持続可能な方法に向かっていくということが重要。

「ガチ」になるというのは、学習意欲を高めていくこと。重要なのは動機付け。これをE S D的に考えると「このままでは持続不可能だ。どうすればいいんだろうか」というところが、動機付けになる。そして、E S Dの学びがあってその後、レリバンスという自分も持続可能な社会の形成に貢献できるだという、いわゆる自己有用感が得られるようにならないといけない。E S Dを通しての動機付けとレリバンスが、また新たなE S Dの学びになる。レリバンスとは学習の動機づけや興味関心のようなものとは異なり、子供が優位性を認識できるものであり、自分だけでなく社会にとって意味があるから取り組みたいという知的挑戦を後押しするものである。実感や認識、そういったことが生徒をガチにさせるのではないか。

〈日本財団「18歳の意識調査」〉

「自分も大人と思う」「自分は責任ある社会の一員だと思う」「将来の夢を持っている」「自分で国や社会を変えられると思う」「自分の国に、解決したい社会課題がある」「社会課題について家族や友人など周りの人と積極的に議論している」全て意識の割合が低い。つまり、ガチになれてない

〈E S Dとキャリア教育〉

E S Dが全部キャリア教育を引き受けるのではなく、キャリア発達への貢献もE S Dにはできるのではないか。E S Dというのは、キャリア発達の処方箋の一つである。

〈体験を体感で終わらせない〉

キャリア教育の中に職場体験があるが、体験させると言いながら体感で終わっている。成功も失敗もしないようなものは体験ではない。体験が体験で終わらないためには、目標が重要である。また、キャリア発達に役立つロールモデルとして、SDGsに向かっている人の行為や方向性を見いだすということも重要ではないか。

〈生徒をガチにさせる大人のかかわり方「0から8」〉

0段階では、全然若者が関与していない。少しずつ若者の登場機会あるいは参画機会というものがオープンになっていく。5段階ぐらいから大人がプロジェクトを主導し意思決定を行うのではなく、若者も参画してくる。そして8段階では若者が主導し大人とともに意思決定を共有する。

〈北海道夕張高校の「ガチ」になった生徒〉

人口減少、少子高齢化、財政難は、先に夕張が抱えたただでこれから日本のいろんなところで抱える課題である。見方を変えれば夕張市は課題先進地域ではないか。人口減少については「道外に人が出ていったということは、日本中に、夕張ファンがいる」、高齢化については、「豊富な経験に裏打ちされた知恵という資源が多い」と捉えることができる。課題を自ら認識し、自ら題解決に向かっ

ていく。ウェブ上でクラウドファンディングを出し予定の3倍集まった。まさに持続不可能な状況を認識した上での持続可能性の追求だ。そしてクリティカルシンキング、物のとらえ方を、現象をどう解釈するかというのはこういうところじゃないか。

〈最後に〉

持続不可能性に気づくか気づかないか。持続不可能な状況見て問題と思と思うか思わないか。どうすればその問題を解決できると考えるか、考えないか。課題解決する方法を思いつくか思いつかないか。課題解決に向けてやるかやらないか。すなわち気づくか気づかないか。思うか思わないか。考えるか考えないか。思いつくか思いつかないか。やるかやらないか。生徒自身に、しっかりと認識をさせる、教師もそれを見とる、こういったところが、重要ではないかと思うし、ESDを可能にしてくれるものである。

オ 議事録

上野コーディネーター

スクールコーディネーターとして、学校長の意見等をもとにどういう具合に学校をよりよい方向へ導くか。ゴールを見据えていく。熊本市からも全庁的な協力が得られることになっている。JICAとは連携協定を結ぶ。来年度JICAからコンソーシアムの構成員になっていただく。コンソーシアムの知恵を借りながら、子供たちをコンフォートゾーンから、ガチの学びができるようなゾーンにさらにはグロースゾーン、成長できるゾーンに。ひいてはそれがキャリアにつながる。熊本愛を持った人材、国際的に活躍できる人材を育てたいと思う。

データサイエンス分野の学びを学科・コース・文理を問わず全生徒対象に学ばせたいと考えている。

委員1

熊本県立大学の現状。文学部、総合管理学部、環境共生学部と学問領域を三つ備える。令和4年度の入学生から、文学部の日本語文学科、英語英文学科、環境共生学部、総合管理学部の学生はデータサイエンス入門（2単位）とデータサイエンス演習（2単位）必修科目。データ駆動型の社会に対応できる学生を輩出するという方針。今年1年で、入門科目の各学部の理解度を把握できる。入門科目をどのレベルに設定するかそこで検討。

データサイエンス演習：3分の2が講義科目。3分の1がグループを組んで統計的なアプローチ、機械学習的なアプローチでデータ分析に当たる。

令和5年度の前期までで全学部の状況が見えてくる。高校でどういったことを学んでおいて入学してもらえるといいのかが見えてくる。大学としては、データ思考を学部関係なく学ばせる、高校と同じ考えと認識している。

委員2

経済界では、なかなか理解が難しいです。

上野コーディネーター

デジタル人材が不足をしている。

委員1

3つのDXがある。教育DX、研究DX、事務系DX。

令和4年度、デジタルイノベーション推進センターが新設。センター長をしている。そこでは教育DXを進めている。

学生の学びのビヘイビア（行動、態度）を、データとしてとり、それを分析し、可視化し、フィードバックするための基盤を3月末までに構築。授業が展開していけば学生の学びのデータが上がってくる。それからの分析ということになる。分析を、学生の学びだけではなく、先生が次年度の講義にフィードバックするようなそういう使い方とかも、想定している。

上野コーディネーター

高校生たちの出口を想定し、今のニーズも踏まえてカリキュラムを作っていくというのが高校の悩みである。

ぜひとも、高校生のうちから教育とかカウンセリングとか、人と関わるような人を育てるような何かを求めていきたい。

城野校長

毎年15人程、本校卒業生が教育実習に来る。本校にいる講師20人の中から毎年5、6人が教員採用試験に合格している。先生と生徒の距離感が近かきや、教えたという気持ちが継続できるような環境があり、先生への憧れにつながっている。講師も生徒も学んでいると感じている。公務員も、毎年、市役所（宇土市、合志市、熊本市など）4、5人ずつ合格している。

講師

教育学部の状況として、

- ・教員志望者が少なくほとんど採用試験に合格するが、採用2年目の教員はドロップアウトをしていく。
- ・ブラックなイメージが志望者を少なくしている。
- ・教育実習後、二つのタイプに分かれる
「やっぱり、適してないと思う」のか「自分はやろうと思う」のか。
- ・教師の魅力発信は大学としても責務。

・教わっている立場から教える立場へっていう転換、ロールモデルの転換も重要じゃないか。

その高校の中でも教わっているではなくて、教える立場になるような場面というのを設定すると、「ガチ」になる生徒が出るのではないか。

城野校長

芸術コースでは、現在、熊本市民病院等に作品を飾らせていただいている。これを探究的な学びで、それぞれの施設にあったものを、描かせて飾る。音楽系と書道系が一緒になって書道パフォーマンスを施設など行う。3年生の選択の授業、探究の中で、地域と関わるようなことをやくなど考えていきたい。3年生になったら、自分たちで計画して、相手と話し合い進めていくという経験をさせていきたい。生徒の成長にとって大きいなと思っている。そめにいろんなところに協力をいただければと思っている。

上野コーディネーター

3月3日4日に、探究のタネを探そうということで市役所のいくつかの課にヒアリングに行きます。

委員3

熊本市役所行政の営みを、生徒育成に向けた素材・フィールドとして活用いただけることはありがたい。アプローチの方法として、manifestoは市長が取り組むことをまとめたものであり、いわゆる手段である。探究型学習として手段が並べてあるものからスタートすることがふさわしいのか。なぜその手段に至った経緯であるとか、複数あるある課題の解決策の中で、なぜこの手段が最適だと思ったのか。そういう方が、生徒の探究型学習にふさわしいアプローチなのではないか。取り組むことが目的・成果になってしまいがち。精緻な現状分析、現状認識をした上で、何が課題なのかを見定めた上で、それに対しての解決手段が最適なものとはどれかっていうのを選びとれる力をつけることが重要だと思う。そういった視点でアプローチすると良いのではないか。いろいろ協議した上で、お話、アプローチする方がよいのかと思う。

松永課長

少し試行錯誤をさせてもらえたらと思う。学校側からすると、今までちょっと何か足りなかった。私も、環境局にいたとき、「各校からこういうことを教えてほしいとか、やれないか」といわれたとき、それをこなすだけになってしまう、ただ体験をするというだけになりがち。そこから広がりもないよ。それだとおもしろくない。私たちの学びにもつながるような何かを子供達とやれたらと思う。ちょっとは失敗してもいいかなと。

委員1

行動しないとわからない。大きいものを一気にやろうとするのではなく、アジャイル的に、動かしていきそこでうまくいかなかったところから学んで、次に進んでいくというのがいい。

委員4

発表が目的になりがちです。御用聞きを高校生がするのであればそのスキルの方を磨くべきであっても、解決することを、目的化しないようにしないと、多分間違える。アートはその考え方に、使うべきである。芸術として絵を書くといったアウトプットも大切ではあるが、考え方もスキルである。そこを学校で育ててほしい。

大多数の落ちこぼれが優等生の後ろを唯々諾々として行って終わりとなるのでは。

E S Dの考え方は共感できる。一人一人の航路をどうつくっていくかを必由館が考えれば、もっと魅力的な学校になるような気がする。例えば、自分をうまくアウトプット出来ない人でも、きちんとすくい取れるというような、学校になったら、愛着が湧くなと思います。考え方によって楽しくもつまらなくもなる。先生たちが教えていて楽しい。その楽しさが伝染するような学校になって欲しいと思います。

委員5

従来の市立高校の発想の呪縛がまだまだ見える。例えば学科コースの編成について文理探究というところ、もう既に線が引かれたものとして見てしまう。アルチザンとアーティストとビジネスなんですけど、今、VUCAに対応するためには、この3つが混ぜ混ぜになった人材が求められている。従来、自分たちが学んだ学校のスタイルを前提に、これからどうしようとしてしまっているところのギャップが生徒との温度感の違い、先生の中のもどかしさになっているのかなど。

ある程度、両輪、三輪車となる委員会だとかその関係者が大卒をしっかりと合意して、半煮えだけどやっていくぞという覚悟を持っていかないと進まないだろう。しっかりと計画に基づいてとなるといつまでも進まないだろう。

既に今年度から実施されている研修、講義によって、どういった反応だとか変化の兆しがあるか共有しながら、全体について、議論していく必要がある。

委員2

実習的なところで教育に貢献している。フードパルでは5月に「花と食の祭典」を実施する。そこで農業高校の生徒に花苗の販売であったり、加工食品の販売だったり実習を行っている。どんどん売れるグループもある中で、売れないグループもある。そのグループは、いろいろ自分たちで考えて、移動販売をする。そういう場を与えられると工夫するものだなと。それが経験になって、

自信になっていくのだろうなど。そういった場の提供というのは、世の中に出る、前のステップとしては、意味があるという気がしている。

上野コーディネーター

貴重な御意見、協議ありがとうございました。

引き続き、やわらかく進めていく、アジャイル的に進んでいく。柔軟なカリキュラムが実は非常に価値のあるということを感じた

本日は、ありがとうございました。

(3) 第2回運営指導委員会、第2回コンソーシアム会議（合同開催）

ア 実施日時：令和5年3月7日（火）15：00～17：00

イ 出席者：宮瀬 美津子、中山 善晴、澤 克彦、田口 恵子、東 英一
毛利 浩一、岩崎 千夏
松永 直樹、上野 正直

講師 東京大学公共政策大学院教授 社会創発塾塾長 鈴木 寛 氏

ウ 次第

1 講演

演題「学科の特徴を生かしたカリキュラム編成」

講師 東京大学公共政策大学院教授 社会創発塾塾長 鈴木 寛 氏

2 開会

3 熊本市教育委員会あいさつ 教育次長 松島 孝司

4 熊本市立必由館高等学校 校長あいさつ 校長 城野 実

5 協議

講演の質疑応答、必由館高等学校普通科改革に向けての指導・助言

6 その他・諸連絡

7 閉会

エ 講演

(ア) 演題「学科の特徴を生かしたカリキュラム編成」

講師 東京大学公共政策大学院教授 社会創発塾塾長 鈴木 寛 氏

(イ) 講演概要

これからの大学入試について、一般入試は7割残る。残り3割は、高校生の時に探究を徹底的にとことんやってきたことを評価する選抜（総合型選抜等）となる。そして大学に入ったら、社会に出たら、それをどんどん加速し進化させていけるよう、高校と大学が一体になった



高大全体改革を推奨していく。この新しい改革をどこから初めて行ったらいいのか。

高校は、ある意味で明治以来、熊本の場合は江戸時代以来、ある種の秩序が残っている。今、明治維新以来150年ぶりの大きな改革の時期にある。150年ぶりに大学入試が変わる。40年ぶり、あるいは50年ぶりに高校・大学の秩序・順番が大きく変わる。必由館高校の校地内に明治期に文部大臣として大改革に携わった井上毅の碑があった。文科省に関わっていたこともあり必由館との縁を感じている。井上先生の魂を引き継ぐこの地で21世紀の必由館高校の教育改革を始められるのは大変おもしろく、楽しく思っている。熊本は日本の教育改革をやる上でも非常に重要な場所である。

1995年から「すずかんゼミ」をやっている。1993年から2年間、山口県庁に、当時通商産業省から出向し課長をやっていた。その間20回、松下村塾に行った。そのあとも年数回、これまで50回ぐらいは行っている。松下村塾は物すごく狭い（八畳〜十畳）。松陰先生が教えられていたのは僅か2年余り、塾生92名。この2年間で若者をその気にさせ日本が変わった。明治維新は日本だけではなく、トルコ、インドなどの非西欧諸国に勇気を与えた。そういう意味では世界の歴史も変えた。教育には、力がある。そして若者の力は無限であることを痛感し大変感動した。それまでは経済が大事だと思っていたが、大事な人はづくりだと思い「すずかんゼミ」を始めた。ゼミからはITベンチャー、バイオベンチャーへ数多くの人材を輩出することが出来た。すしラーメン陸軍（学生ユーザー 高校生9割が知っている 650万人が登録）の登録者は日経新聞、産経新聞をはるかに超えて、もうすぐ朝日新聞に追いつこうかとしている。セクシーゾーン、大河ドラマ若手俳優、Jリーガー、パラリンピアン、シンガーソングライター、ラッパー等、一方で海上自衛隊の沖縄基地のPPSDCの飛行隊長など、バラエティーに富んだ教え子に恵まれている。

私は役人を13年、政治家を12年やり、今は教員をやっている。この三つの仕事の中で年を重ねるごとに楽しくなってくるのは、圧倒的に教員だと思っている。教員というのは、仮に私が退職しても、教えた生徒は教え子になるので、老後こんなにもいい仕事はないと思っている。今若い先生方にとって学校現場は厳しい。それは事実だと思う。ぜひ、管理職は若い先生方に「もうちょっと頑張れ」「10年、20年後、教え子が育ちその活躍を見る事ほど楽しいことはない。」と伝え広げて欲しい。

それから今、高等学校の公共の教科書を執筆している。仕事の2割ぐらいが、海外で仕事。OECD経済協力開発機構、PISA調査（15歳の学力調査）を始めたアンドレシュライヒャー局長とは25年の付き合いである。ハーバード大学のヘルナンドヘイマンズ教育学部の教授とは一緒に4冊の本を書いた。ある意

味で日本を客観的に見ることができる。日本の教育は他国と比べても相当すばらしいと痛感をしている。

今日強調したいことは、2016年日本で開催されたG7。その時、私は倉敷教育大臣会合で議長代行を担った。そこで「倉敷宣言」を起案した。当時、オバマ大統領が「STEM（サイエンス：科学、テクノロジー：技術、エンジニアリング：工学、マスマティクス：数学）の充実を唱えた。確かに、アメリカはその分野が弱い。私はそこに初めてもう一つ「Aアート：芸術」を足した。国際文書としては倉敷宣言で初めて「STEAM」が明記された。なので、必由館高校が芸術に力を入れているというのは大変うれしく思う。皆さん考える以上にこれからアートが大変重要になる。

今の15歳の現状、OECD「PISA調査」によると2003年に読解力が下がったが2012年には総合No. 1にカムバックしている。このことはぜひ保護者、地域、世の中に対して発信していただきたい。「日本というのは、15歳まではいいらしいよ」ということを。現状としては数学、科学は1番、2番だが、読解力がちょっと下がり始めている。理由は明確で、日本の15歳は、記述式の無回答がほかの国に比べて多い。自分の意見を、表現、表明することを、怖がっている率がほかの国に比べて非常に高い。日本人は相当優秀だが、自分の意見を言うことが出来てないために損している。論述と記述に難がある。したがって今回の大学入試改革では、全ての国立大学の2次試験で記述、論述を導入した。したがって、高校での指導でも、記述、論述を大変大事にするようになってきている。その影響が中学校にも出てくるだろうから、少しずつ改善をされていくのではないかと思う。ただ、書きたいこと、言いたいことがなければ書けないし言えない。そういう意味で探究は重要。探究で言いたいこと書きたいこと見えてくる。

数学はすごくいい。日本は、レベル4が42%いる。アメリカは25%。これから、AI（人工知能）が重要になる。人工知能を使いこなす。あるいは、人工知能が出来ないことをやるのが人間の仕事になる。数学は人工知能を使いこなすための機械とのコミュニケーションツール。数学ができる日本は非常に良いことである。しかし、これが高校生になり、文理選択により文系を選んでしまうと、高校2年生で数学を捨ててしまう生徒もでてくる。とても残念。この理由の一つが、大学入試にある。今回の入試改革の最大の功労者は、早稲田大学。早稲田大学が入試で、文系も数学を必修にした。早稲田は受験生が多いこと、また予備校の私立文系コースは早稲田文系を念頭に置いているケースが多いことから早稲田が数学を入れたことで、文理分断がかなり改善されると期待できる。また、協働的問題解決能力も日本の15歳世界でトップである。小中学校の先生、数学と理科の先生、自信を持って、頑張ってくださいと思う。

一方、問題が二つある。英語とIT。文部科学省は、民間の英語の試験の調整をしてCEFRALのA1レベルを50%以上を目標にしている。熊本市は56.3%。全国平均47%。突出して高いのが、福井県が85.8%、さいたま市が86.3%。この違いは、その地域の教育委員会と教員がどれだけ頑張るか。さいたま市の教育長は元高校英語教諭で、指導主事で教育委員会に引っ張られ教育長になった。1人、あるいは一つのチームが本気になって、10年やればここまでやれる。本当に現場の皆さんの努力、蓄積は非常に重要だと思っている。さいたま市の改革の一つとして「さいたま市立大宮国際中等学校」の設立がある。ここは国際中等学校で、中高一貫で、英語に特化して、中学高等学校の6年間、どういうふうに、英語を磨いていったらいいを、確立をして、そのカリキュラムとかノウハウを市内の全部の中学校、あるいは小学校に展開した。その結果86.3%。要するに1校（大宮国際中等学校）を、シンボリックな拠点にして、そこで試行錯誤、トライアンドエラーを繰り返し、そこでの蓄積を横展開している。

さいたま市の好循環

市の教育力向上⇒若い世代の市への転入増⇒固定資産税増⇒教育へ投資
京都市、御所南小学校（日本初のコミュニティースクールの中の一つ）。マンションのチラシに、「御所南小学校校区」と書くとマンションが10%ぐらい高く売れる。いかに教育がよければ人が集まる。

そういう意味で、まさに熊本市立必由館高等学校が、きちっとしたビジョンと目標を持って、戦略的にそれに向けてやっていけば人も集まる。今、テレワークができるようになり、Iターンが増えている。どこでも仕事できる。そうなったときに、Iターン先として熊本市が選ばれるための市のパワーアップ・魅力アップを学校が担っている。さらに市内の全部の小学校全部の中学校にいろんな波及効果がある。

日本国政府は、熊本に賭けている。半導体関連で4000億円熊本に投資をする。政府だけで4000億、全部で1兆円、熊本に投資する。通産省が、熊本の半導体で日本を浮上させようと決めた。これから50年間、あり得ないぐらいの追い風吹く。しかしそれがうまくいくか、あるいは失速するかは、教育にかかっている。世界中、日本中から優秀人材が熊本に引っ越してきてくれるのか、そのポイントは教育である。熊本は食、自然、観光に恵まれている。あとは教育が、東京都、あるいは大阪に並ぶ、あるいはそれ以上になれるかどうか。熊本が、教育の町として浮上できるかどうか。そのかぎはもちろん、小学校、中学校、高等学校、全体にあるのだが、実は支点はピンポイント、必由館高校にあると言っても過言ではない。

大学の状況を見てみると、日本の大学も最近頑張っている。世界大学ランキング（世界3万大学の、トップ5%のランキング）2016年度、トップ5%の

大学は41校しかなかった。今116校に増えている。熊本大学も入っている。地方国立大学でも十分素晴らしい。地方国立大学出身者からはノーベル賞が出ているが東京大学理科三類からは出ていない。大学ではなく学習者本人の問題である。日本は余りにも、大学入試のちょっとした差を気にし過ぎ。しかし、心配なこともある。15歳では相当良かった日本の子供たちが22歳、23歳になると、論述的な記述力、わかりやすく話す力、英語力、チームワーク実社会とのつながりが駄目になる。そこで、今回の教育改革は、小学校にプログラミング、英語が入った。中学校の教育はほとんど変えていない。なぜならば中学校はうまくいってるから。だけど高校は相当変えた。3分の1から2分ぐらい。大学入試も相当変えた。問題は、高校と大学にかなり集中している。我々が学習指導要領あるいは高校大学の改革をする上で京都大学溝上先生の「どんな高校生が大学や社会で伸びて、どんな高校生が伸び悩んでしまうか」という研究を参考にした。

もちろん受験勉強を否定するわけではないが、溝上研究によると、「キャリア意識」「他者理解」「計画実行力」「コミュニケーションリーダーシップ力」

「社会文化探究心」などは高校2年生までにやっておかないと手後れになるとある。大学に入ってからでは遅い。25%はリカバーできるが75%はもう遅い。だから、受験勉強をやりつつも、「キャリア意識」「他者理解」「計画実行力」「コミュニケーションリーダーシップ力」「社会文化探究心」をちゃんと高校のときにやっておかないと、せつかく18歳、19歳で、志望校に入ったけど、そのあとほとんど伸び悩む若者を量産したら元も子もない。だったら、もう世界大学ランキング5%あるいは10%の大学に入れば十分なので、将来、社会に出てから伸びる子を育てよう。そうすると、受験一辺倒の今の高校の学びを相当変えないといけない。そこで、一言で申し上げると、高校で「探究学習をしっかりと行い、キャリア意識が高く、対人関係、自尊感情が良好なタイプの多くは部活を行っている」人は伸びる。高校の時にいろんな地域の方々と交わって、

「いろんなキャリアがあるんだなあ。世の中にこんな仕事があるんだなあ」と高校生が実感していくことが、重要であると溝上研究の論文が明らかにしている。そういう意味では、熊本はベストかなと思った。今日、商工会議所の副会長がお見えになっている。一高校に商工会議所副会長が来ることは東京や大阪ではあり得ない。これだけでもうすばらしい。例えば東京で教育委員会のある部署行って、何か協力してくれと言っても追い返される。実は都会は探究がやりにくい。都会にはいいところ（いろんな仕事あり、いろんなキャリアに触れる）がある一方で、地元の方が、高校の教育にたいしてすごくサポートしていただける。地方はネタはいっぱいある。協力者もいっぱいいる。ただこれまで指導する人がいなかった。しかし、今1人1台パソコンが入った。オンラインでメンタリングできるようになった。この好機を、ぜひものにしていただきたい。

日本の問題として「自己肯定感が低い」ということをずっと言われてきた。子供時代に、絶対的な自己肯定感を持っていると、いいところも悪いところもちゃんと自分で受け入れられる子供が育つということがわかっている。文部科学省は、2万人以上の子供に対しゼロ歳から18歳まで追跡を調査した。小学校の頃に体験活動の機会に恵まれると、高校のときに自尊感情が高くなって、そしてさらに大学社会に行ったら伸びる。そこは、家庭の経済状況は関係ない。要するに親がやれない場合は、地域あるいは学校がサポートすればカバーできる。やはり自然体験も社会体験も文化体験も遊びも読書もお手伝いも、バランスよくやらないといけない。どれかに偏ると駄目。熊本だと、地域コミュニティーがあって、学校と地域が一緒になって、そして文化的なものも十分ある。こういったものが、非常に重要になってくる。

これからの社会どうなるのかと、このことを想定しながら私たちは学習指導要領をつくってきた。三つキーワードがある。一つ目は、「VUCA」。不安定で、不確実で、複雑で曖昧な社会。要するにこれから一寸先はやみの時代、何が起こるかわからないそういう時代になる。コロナ禍、ウクライナ戦争を予想した人はいない。半年後のことはわからない。そういう時代がこれからは続く。そういう中を子供たちは4生き抜いていかなければいけない。二つ目は幸福の再定義、「ウェルビーイング」。今までは経済重視だった。しかしそれちょっと違うんじゃないかと言われ始めた。そこで出てきたのがこのウェルビーイングという考え方。ウェルビーイングの4つの要素「経済」「自然」「人間」「絆社会関係」の内「自然」「人間」「絆社会関係」は地方に残っている。さらに、熊本には「経済資本」も充実するチャンスがある。これをちゃんともものに出来るかどうかはまさに、人的資本についての人材政策にかかっている。三つ目は、「シンギュラリティ」。AI人工知能が2040年代半ばに、人間の知能を上回る。こういうことを前提に私たちは、教育改革やってきた

2021年はウェルビーイング元年と言われる。3か月に1回GDW（グロスドメスティックウェルビーイング）を発表している。神奈川県が1位。熊本県は17位、沖縄7番。沖縄は経済は低いけど、自然、あるいは社会関係性が高い。熊本もトップファイブに入るポテンシャルを持っていてそのことを意識するかどうか。もうちょっと寛容さを持てば、特に女性の生き方、働き方に対する寛容性を持てば熊本はウェルビーイングをあげることが出来る。

AIの進化により知識を覚えるとは必要なくなる。重要なことは、質問する力、あるいは問題を発見する、あるいは問題を設定する力。問題解決は、AIにやらしてもらえばいいけど、問題を発見したり、問題を設定したりするのは人間の力。だから探究ということになる。49%の仕事がAIに置き換わる。銀行とか公務員はいらない仕事になる。一方で残る仕事もある。アロマセラピスト、犬訓

練士、ゲームクリエイター、工業デザイン。マイケル・オズボーン氏いわく「マークシートで測られる能力は全部、AIにとってかわられる。マークシート型能力育成は、将来の失業者を量産しているのと同じ。」大変ショッキングなメッセージである。ではこれから何が残るのか。芸術、哲学、神学、人間とのコミュニケーション。（ネゴシエーション、サービス、説得、他者理解）。

6割は、今は存在しない新しく生まれる仕事につく。なので誰もが起業家になれる。学問の原理原則（STEM）を学び、様々な仲間と非連続的なイノベーションを起こせる力を身に付ける。1番大事なことは夢中力、まさに探究心。小中であげられるかどうか。地方（熊本）は、まだ自由時間と自由空間に恵まれている。そこでチャンスということで、シュライヒャー氏を熊本に連れてきた。聞いていただいたと思うが、1番大事なものは、スチューデントエージェンシー（能動的で責任感のある行動能力）の育成。まさに個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングをやる。そして、これからはPDCAではなく、AARサイクル

（Anticipation：予測 Action：実行 Reflection：振り返り）を回す。だから探究が重要。大事なものは態度とか価値、その中で最も大事なものは、対立やジレンマを克服する力。なぜプロジェクトベースドラーニングをやるか。プロジェクトの中で板挟みと想定外を、中学生高校生のときから体験して、頑張っ、諦めず、仲間と一緒に何かを生み出す。こういう成功体験を積んでおくということが非常に重要である。文部科学省でも「個別最適化された学び」「文理分断からの脱却」の必要性は共有している。これからは、どんな課題も文系と理系、芸術系など、違う才能を持ったいろんな人がいて、その人たちが仲間、チームで取り組んで、何か問題が解決出来たという経験を、高校ときからできることは最高の教育になるのでは。必由館高校には分野の異なるコースがある。これはチャンス。そういった背景があって、2020年から理数探究と総合的な探究の時間が入り、暗記科目だった社会は、公共と歴史総合と地理総合が入った。歴史暗記力である歴史思考力（何で歴史を学ぶか）プロジェクトやれば、必ず想定外（コロナ、ウクライナ戦争等）に出くわす。そういうときに、先人たちは、どう乗り切ってきたのか。その人たちの物語を教わることでヒントと知恵と勇気をもらうために歴史を学ぶ。しかし、カリキュラムだけ変えても、大学入試が変わらなかつたら変わらない。そこで大学入試を変えた。国立大学の個別入試での論述式を全部入れた。それから1番のポイント、国立大学の定員の3割を総合型選抜にした。特に大阪大学とか名古屋大学とか東北大学が3割、筑波大学が5割、総合型選抜になる。であるので、必由館高校で3年間、探究を一生懸命打ち込んで、そこから、国立大学の総合型選抜にアプライできるようになってきている。最近難関大学に、総合型選抜のルートで入学してくる生徒が増えてきている。このことは必由館でも目指せる。あとは皆さんが高い志を持たないといけない。私が実行

委員長を務めているマイプロジェクトアワードは今年で10年目。参加者は10年前18人、去年1万6千人、今年は総合型選抜が国立大学の3割になったこともあり7万人。7万人の高校生が探究に打ち込んでいる。この背景にある学習理論は、高校生の場合、講義では5%しか学力が定着しない。用具、視聴覚教材、実験教材（結局は受け身教育ではあるが）で30%。グループ討議になると50%。探究を通じた学習になると75%学力が定着する。1番いいのは、他人に教える。であるからチームで仲間に、後輩に、高校生が中学生に、中学生が小学生に教えるとか、これが実は1番効果があることが、学習理論でも明らかになってきている。これからのよい学校というのは、講義中心から「一対一の重視」「地域との協働によるプロジェクト学習」、これが非常に重要になる。

学校の最上位目標に、スチューデントエージェンシー、あるいはコエージェンシーを置くべきである。実は、教員の仕事として、一対多のレクチャーをやることは引き続き重要かもしれないが、もっと大事なことは、一人一人の生徒への個別指導と個別面談をいかに多くやるかということ。しかし教員は今でも多忙である。そこでデジタルを使い放課後の対話のための時間を確保する。あえて、議論を承知で申し上げると、授業準備の時間を減らしてでも一対一の時間を増やすべきだと思っている。必由館の少人数学級はそういう意味でも素晴らしい。

デジタル自学自習教材の活用について岐阜県と取り組んでいる。3割はついていけない生徒がいる。だったらその3割を重点的に教員が机間指導で、一人一人に5分とか10分とか向き合っていくって、生徒の意欲づけ動機づけし、人間としての教師の役割を果たす。生徒のキャリアに沿った最適の学びを一緒に相談しながらデザインしてあげる。これはAIでは出来ない。人の心に、火をともし。心を駆動するエンジンをかけてあげられるのはやはり人間である。エンジンがかかっちゃえばいい教材もいっぱいあるし、道具もいっぱいあるし、NHK for Schoolも素晴らしいものがある。それとそこで培った力が世の中にどれだけ通用するのか。地域コミュニティー、民間企業、農協、漁協とか地域総がかりですねPBLを支援していただく。これはまさに今日のコンソーシアムの皆さんの御支援、関りである。熊本は日本で1番のポテンシャルがあるなあというふうに思っている。そういう中で田園と都市とデジタルのシームレスな連携協働をこれから実現していくということになるか思っている。

「学科の特性を生かした学び」のために、これまでの蓄積がある国際・芸術・服飾デザインコースの流れを強化していけばいいと思う。熊本が半導体産業の世界的拠点になる、この千載一遇のチャンスを絶対に生かす、もう絶対このチャンスを逃さない。グローバルコミュニケーション能力とSTEAMを身に付けた、卒業生が、熊本で学ぶのもいい、一旦は県外、あるいは一旦は国外で学んで、もう1回地元に戻ってくることをイメージする。ほかの県は帰ってきてても仕事がな

い。しかし熊本県はこれから山のように仕事がある。英語さえできれば仕事はある。熊本がSTEAMをやれば日本有数のウェルビーイングの地域になる。世界中あるいは日本中から集まってくる人たちを歓待する心はもう出来ている。あとはコミュニケーション能力が育てば、海外から国内から、人材がどんどん集まってくる。天草、阿蘇、有明海もある。

そういう中で、必由館高校で今進めている文理融合と、まさに、この文科省がいちばん重要だと言っている総合的な探究、理数探究と文理探究の文理融合、さらにはSTEMにAを合わせた、今の流れを最も先取りした必由館高校のカリキュラムを創っていけば、日本に先駆けたパイオニアとなる。あとは、どれだけ志を高く持つか。これだけのポテンシャルはもう二度と来ない。ここで、それをゲットせずして誰がやるのか。

今、本当に動乱期です。私も微力であるが、最大限お手伝いしたい。ぜひ皆さんの奮闘を期待したい。

オ 議事録

上野コーディネーター

今年度の狙い。学校の思いを受けて、どのように子供たちにとって意義のある、カリキュラムをつくるのかというところで、ご指導ご助言等をいただいた。本日は鈴木先生のお話も踏まえて、意見交換会をお願いしたい。

まず城野校長から、熊本市が示しているスクールミッションを受けて、現在の構想とスクールポリシー（どのような生徒を育てるのか、どのようなカリキュラムで行きたいのか）について伝えていただきたい。



城野校長

スクールポリシーについては、今、学校の先生方の思いの共有を校内でやり始めたところ。方向性の確認を行っている。大学入試の大きな変革への対応や、10月のICT学習支援教材（映像教材）導入など、こういう方向に進めたいと自分の意思でやっている。市立高校に期待される生徒像に対しては、これであれば大丈夫だということまであと一歩整理をして、教職員の思いを一つにしてやっていければとは思っている。探究についてはこの1年、いろんな生徒発表の機会や活動を通して、いろんな経験は出来ている。生徒たちの成長した姿を見ることができた。卒業式の後に「いろんな経験をさせてもらってありが

とうございました」ということを校長室に言いに来る生徒・保護者もいた。そういうところは、大事にしていきたい。スクールポリシーについては今、改めてつくり直して、今月中に報告できればと思っている。

上野コーディネーター

学校長がキーワードされているのは、「自走する高校生」。必由館高等学校の探究部の先生方も、学校の時間の中または時間外で探究の学びを深めるための非常に実践的な取組をされている。今後、学校全体にそういう機運が高まってくればいいかなと思っている。先週の金・土曜日1泊2日で高校生が、「探究のタネを探そう」をテーマに、事前に市長のマニフェストを読んで市役所の各課に質問、また企業の方々との意見交換会を行った。その中で現代美術館にもお世話になった。

委員1

現代美術館へは高校生14名と、先生方7名、委員会の方2人が来た。現代美術館のお客さんのいるスペースで、「今日、午前中にどんなところに行って、どんなことを学んできたのか」を聞いて、先生がたにも一緒に入ってもらって、先生たちは、「必由館高校をどうしたいのか」というような話を、生徒の前で語ってもらった。やはり高校生はまだ15、16年しか生きてない。社会のことをほとんど知らない中で、全然違う世界を見る機会は大切。それは意外と先生方も同じで閉ざされた世界の中で日々過ごしている気がしていたので先生方から外に出るといことも教育においては大事なのではないかと。鈴木先生からアートの重要性を言って頂いた。アートでは人と違うことが当たり前である。社会の中もそういうものであることが子供たちにインプットされることにおいてアートが重要になる。芸術の技術・実技も大事だが、人と比べるのではなく自分をしっかり持つことができるようになるための考え方を高校の授業の中で学んでいけば、ウェルビーイングにもつながる。熊本の幸福度も上がる。

委員2

服飾デザインコースにかわり生活デザインコースができる。ウェルビーイングの視点から家庭科の視点から高校生としてこれからの日本に必要な力をつけて欲しい。私の専門は家庭科である。家庭科においてウェルビーイングは古くから大事にされているが、世の中はそちらに向かっていない部分もある。「人が一生において自分の能力を発揮しながら充実した生活を送っていく」これは職業生活のベースにもなる。よく考えてカリキュラムを作っていただければと思う。

上野コーディネーター

市内小中学校においては「幸せって何だろう」ウェルビーイングをキーワードに授業が進められている。

委員 3

講話の中で、日本の15歳が「記述式の無回答が多い」「意見が言えない」とあった。この件については以前から思っているのだが、私たちの子供の頃というのは、学校が終わった後、年齢の上の子から下の子まで一緒に遊んでいた。いろいろ勉強になった、遊びが楽しいということはもちろん、その中で、相手の気持ち読むとか。遊びの中に学びがあるということも、とても重要なことではないか。先生から一方的に話とか指導を受けるだけじゃなくて、行動しながら勉強する。それは世の中に出て役に立つものである。私、フードパークという工業団地の中におり基本は物づくりをしている。物づくりが基本であるがそのまた基本は農業（養蜂業）である。一つのものをつくるということは、ただ組合せればよいといった機械的なものではないので、非常に幅広い知識だったり、洞察力だったりが大事になってくる。「無回答が多い」「意見が言えない」などは経験が足りないからで、その辺をどうカバーしていくかということは、とても大事なことだろう。教育の根源ではないか。これからの教育には必要ではないか。

上野コーディネーター

高等学校のカリキュラムにも異世代間交流を取り入れていけたらと考えている。

委員 4

VUCA時代で先が見えないような世の中において子供たちがどういうふうな力を身につけていくか、「自走する高校生」「自走する力」はとても大事だと思う。社会課題を見つけるという視点を持つことがとても大事だ。国語、数学、理科など一般的な科目だけではなくて、何が必要で、どこに課題があるのかということ、高校生の時から目を向けていくということはずごく大事だと思う。社会課題に挑戦していくような人材に育てていくには、そういう課題を持った人たちと交流する場というのがすごく大事だし、その中では自分を表現するというのはとても大事である。これは教育が機会を与えないとなかなかそれに触れることは出来ないので、カリキュラムの中に取り組みで欲しい。もし、技術がなければ自分で見つけ出す、ベンチャー企業の本質とかを、子供たちに教えてあげるのはすばらしくいいことじゃないかなと感じた。

上野コーディネーター

プレゼン教育を地元で、小学生とかにもやられているがどのようにお考えか。

委員 4

プレゼンテーション教育は大事だと思っている。自己表現をすることは、機会がないとか出来ない。自己表現をするときに、周りの人が温かい気持ちで心しつかり受け止めてくれると本人はすごくうれしいし、もう1回プレゼンテーシ

ョンやりたいという気持ちになっていく。その成功体験を自己表現の場で与えていくことによって、子供は何か発信していこうという思いになっていく。

上野コーディネーター

私も感情を伴って自己表現するのは大事であると思う。インプレス（印象）をエクスプレス（自分の感情で表現）する機会をが大事になってくる。

委員 5

今、生徒たちが持つ、「正しく答えなければならない」ということに対する恐怖心、何かあったときに叩かれる姿を大人を通して見てるので、それに対する鋭敏な防衛本能をいかに解いてあげるか。少なくともこの学校の中では大丈夫だよという環境を作っていくことにトライしていかなければならない。先週、県立高校50校が、グランメッセで、スーパーハイスクールを開催した。県立高校だけではなく市立も私立もいろんな学校が横断的に一緒に学べる場を提供すべきだという思いを持った。その中ではいわゆる従来の国研や文科省の指定校だけでなく様々な学校の生徒たちが、非常に多様な探究を行い、その発表を行っていた。このように1人ずつに因数分解されたときに初めて創発されるインスピレーションといったものを、たまたま学校という枠組みでは議論してるけども、もっと個人に寄り添う形でチャンスを広げるような、ダイナミックスを持たないといけない。生徒一人一人に対するポテンシャルを我々も一緒に、どう引き出し、引上げながらやっていくのかということが問われているということを、講話にあったが「チャレンジは、我々委員が同時に求められている」ということをひしひしと感じた。

上野コーディネーター

持続可能な社会のつくり手としての資質・能力をどう育むか。子供たちも一緒に、まちづくりとか人づくりに向かっていくことが大事かと思う。ESDもカリキュラムの柱になるのではないか。

委員 6

最初の会議では、聞いたことのない横文字もわからずに参加していたが、今日、何となくではあるが、こういうことだったんだなっていうのが理解出来た。熊本市子供たちは、そういった教育をずっと受けていて、その中で必由館高校を選んでいるということだったが、熊本市以外の中学生、小学生、保護者がどのくらいこのすばらしいカリキュラム、活動、取組を理解して必由館高校を選んでいるのか分からないところがある。もっと小学校、中学校の先生を通して必由館の取組を発信していくともっと生徒たちの主体的な活動につながっていくと思う。

上野コーディネーター

広報戦略は重要である。4月から、コーディネーターとして各中学校はもちろん、高校、自治会の各地区（熊本市外も）に足を運ぶ。

委員7

桜山中学校はSTEAM教育モデル校として今年度取組んできた。鈴木先生が、STEAMのAを提起されたということに感動した。この1年試行錯誤でSTEAM教育に取り組んできた。コンセプトは「自分のため 人のため 社会のため」とした。STEAM教育とは何か、探究とは何かについて自分自身、これだと言える自信がなかった。講演を聴いて、探究的な学習とはこういうものなんだということが理解できた来年度は自信持って、モデル事業に取り組むことができる。生徒との対一の時間と探究的な学習を両輪で取り組んでいきたい。必由館の改革では先進的な改革をされているので、必由館の取組をモデルにしながら中学校でも探究的な学習を進めていきたい。

上野コーディネーター

Kumamoto Education Weekでは桜山中学校の皆さんも活躍していた。来年度からJICAと熊本市が連携協定を結ぶ。これは高校改革等に資するもの。これからの国際理解、国際教育、多文化共生、ESD教育の推進等を狙っている。

委員8

皆様のお話を聞きながら、鈴木先生の講話を聞いて、自分の高校生を思い出した。高校1年生のときの英語の先生が、「何になるにしても日本一になれ」という話を、真に受けて、私は当時、動物園の飼育係になりたかったので、その夕方そのまま上野動物園に飛び込んでいった。結局、飼育係ではなく、野生動物の環境を守るための森林について勉強する学校に行き、森林を通じて世界の環境を守りたいという思いからJICAという道を選んだ。これからカリキュラムを変えられることはもちろん大事であるが、先生自身がどう変わるかもすごく大事なのかと思う。先生は、子供たちに一番近くに寄り添う大人。その大人が、魅力的に、学校をこんなふうに変えたいという思いをもって子供たちに接していかないと、カリキュラムだけ変わってもどうなのかなと思う。私も一緒に勉強したいなというふうに思っている。海外に行くと、子供たちの自己肯定感がすごく強い。なぜだろうと思っていた。答えはないのだが、自分が周囲から愛されているということを感じている子供が多い。例えばブラジルはハグの文化。親とも近所とも先生ともハグし合いながら、子供たちは実感として、大人から守られている大人から愛されているという気持ちを持つようになる。当然いじめもあります。深刻にならない。自分に対して自信があるので、人に何を言われようと、もちろん傷つきはすると思うが、でもへっちゃらというところがある。途上国にもいっぱい良いところがある。JICAでの経

験もお伝えしたい。行動、自己肯定感、先生方も、一緒に変わっていったらなというふうに思っている。

上野コーディネーター

子供たちが主体的に進んでいくためにも、来年度は鈴木先生が顧問しておられます、生徒会支援委員会等とも協力していきたい。子供たちが主体的に、意見を言え、それを実現させる。熊本市の高校生たちは、そこは強みである。JICAとの連携では、いろんな国のいろんな若い人たちとの意見交換会等を期待している。

松永課長

高3、中3、小6の親。今年度は仕事・子供会会長・部活動の保護者代表を引き受けていたので実際ちょっと大変だった。課題発見能力・対立に向き合う力、耐える力がないとその先の課題解決能力にはたどり着かないだろうなあと思っている。今はまだ答えがない問題、あるいはそもそも答えがない問題に対して考え続ける力を持ってもらえたらと思っている。簡単な課題はこれまでに解決されてきている、今、残っている課題はこれまで解決されなかったもの。新しく今から解決策を考えていかなければならない課題。課題に苦しみながらも向き合う力が身に付くとよい。そのための探究学習。失敗してもいいからチャレンジする。失敗も学び。これまで熊本市としてそのような場の提供をしてこなかったという反省がある。これから熊本市が全庁、全力を挙げて、子供たちをバックアップしていく。今、チャンスだと思っている。市立高校に予算がどんどんついている。先日の「探究のタネを探そう」という企画では、行政職員が、子供たちと話をする場があった。非常に熱心な議論が出来ていた。子供たちに熱い思いを持って話をしてくれた。市の行政の意識も変わってきている。課題の発見について、一つの発見がその先に、いろいろつながっていくイメージ。1人が見つけたとしても、ほかの人たちがどうやって課題解決をしていけばいいんだろうかということでチームもしくは同時多発的に考えていける土壌がつかれるといい。

中学校の卒業式に参加をした。マスク着用は個人の価値観・判断に任されていたが、着脱状況から中学生は自分で判断しているのではなく雰囲気に対応していると感じた。その姿を見る中で自分で考える機会が今まで余りなかったんだろうと思った。そこを必由館では新しい学びの形を提示できれば、小学校中学校への波及効果があるのではないか。「必由館、千原台高校は何だかおもしろそうだ」と感じる保護者、中学生もいる。実際、受検にもつながっている。何となくおもしろそうだ、何かチャレンジ出来そうだっていう雰囲気がどんどん伝わっていく。口伝えの伝播力は大きい。千原台高校は高校入試（後期）の倍

率が県下1位になった。必由館も面白いチャレンジを続けていけば結果につながると思う。

上野コーディネーター

探究で生徒たちを外に出していくことで、レジリエンス力、自己表現力がついてくる。

講師

必由館高校には注目し期待している。校長先生には頑張っていたきたい。

「エラーなくラーンなし」AARサイクル。完全なプランは無理である。状況は変わる。日本の失われた20年30年間、なぜ変われなかったのか。これまではプラン⇒リプラン⇒リプラン・・・で、DOをしなかった。大事なチャンスがあったのに、あるいは重大なリスクがあったのに何もしなかった。そこを変えることが重要。とにかく、やりながら、直す。一般普遍解はない。常に個別暫定解である。今日はこれが正しいとしても、明日はもう分からない。それは暫定解だから。だから、前言撤回をどんどんやる。それは逆に言うと、間違いは当たり前で、むしろそれを立て直すスピード、そこに費やすエネルギーがすごく重要となる。しかし、これは、日本の教育文化を180度変えないと出来ないことなので、保護者も地域社会もそこを見守っていただかないといけない。教員だけでは出来ない。その文化をどうつくるかが重要だと思う。結局その文化をつくってきたのは、マークシート型教育である。自己肯定感が持てないのも、それが原因だと思っている。要するに、東京の場合は小学校3年生から毎週末にテストをやらされる。そこで×をいっぱいつけられる。昔は東大生といえば鼻持ちならないやつが多かったが、今、東大生の自己肯定感が低くなっている。なぜかといえば、彼らは×を累積で一番多くつけられてきたから。どれだけおおらかに、寛容精神を持って、チャレンジしていることをみんなで見守って応援してあげることが、結局はポイントなる。熊本から新しい教員の文化を使ってつくっていただきたい。

2 学校設定教科「必由学」の設置に向けた取組

(1) 探究的な学習の時間での取組

日時	授業内容	振り返り	使用教材
10月21日	【テーマとスケジュールをきめる】 テーマ紹介とプレゼンを聞いて、人吉・球磨についてのウェビングマップをつくる。	人吉・球磨について全く知らない生徒も多く、熊本市以外の魅力に気づき、外の世界を知ろうとするきっかけとなる授業であった。	人吉・球磨に関するパンフレットやチラシなど。
10月28日	【地域を知ろう】 街ワンカードを用いて、人吉・球磨のまちづくりについてのアイデアを出す。	街ワンカードを使いながら、枠にとらわれることなく自由に意見を出していた。非常に面白く、独創的なものが多かったように思う。	街ワンカード（西日本シティ銀行）
11月4日	【考えを整理する】 実際に人吉・球磨に行った体験を、ワークブック等を活用しながら、Google スライドにまとめる。	体験して「楽しかった」で終わらせるのではなく、何が心に残り、どこをおすすめしたいのかを、文章を書くことを通して整理している様子だった。	Google スライド
11月11日	【観光コンテンツを考えよう】 論文を作成し、レスポンスブルツールリズムに基づく観光プランを作成する。	初めての論文作成で、なかなか文章化するのが難しい様子だった。論文の書き方をもう少し丁寧に説明すべきだったように感じている。	Google ドキュメント
11月18日	【観光コンテンツを考えよう】 論文を作成し、レスポンスブルツールリズムに基づく観光プランを作成する。	ストーリーや構成を生徒に伝えていく中である程度文章がまとまってきた。レスポンスブルツールリズムの意味を深く考えることができた。	Google ドキュメント

12月2日	【セグメントを考える】 外部講師である中川典彌氏から 動画編集に関する知識や 操作方法を教えてもら い、動画作成にとりかか る。	「動画を通して人を楽し ませる」という根本的な 意義を知り、動画を作成 する意欲が湧いていた。	外部講師に よる講話
12月9日	【セグメントを考える】 動画のコンセプトや構成 を考え、何を動画の柱に していくのか決定し、動 画制作を進める。	写真や動画の素材を厳選 し、ストーリーを考えな がら制作を行った。どう やったら良い動画が出来 るか、頭を悩ませながら 取り組んでいた。	imovie
12月16日	【実証事業をやってみ る】 作成した動画の中間発表 を行い、フィードバック をもとに動画をブラッシ ュアップする。	上野 正直審議員や日本 旅行の方からのフィード バックを受け、構成や BGM、動画を入れるタイ ミングなどを工夫しよう とする意欲が湧いてい た。	imovie
1月13日	【プレゼンする】 完成した動画をもとに、 プレゼン資料を作成す る。	球磨・人吉で何が印象に 残ったのかを再度精査 し、自分なりに考えたこ とや学んだことを整理し ていた。	iPad、 chromebook
1月18日	【プレゼンする】 プレゼン発表の中間報告 を行い、フィードバック を通してプレゼンのブラ ッシュアップを行う。	実際にやってみて、思っ たよりも話せないことに 危機感を覚え、一生懸命 練習していた。その結 果、なるべく原稿を見ず にやることができた。	iPad、 chromebook

次頁以降の取組により探究的な学習に必要な資質・能力のブラッシュアップを図った。

(2) 「くまもと幸福論」 中高生パフォーマンス Well-being2030

ア 日時 令和4年8月19日(金)

イ 場所 熊本教育センターに TED 特設ステージを設置

ウ 概要

現代社会において「世界標準」と言われる TED のプレゼンテーション。その TED から正式にライセンスを得た TED×Kumamoto からプレゼンテーションの指導を受け、この発表につなげた。最初は、TED×Kumamoto のプレゼン指導(学校では学ぶことのないシナリオ作成・話し方・動き方の練習)に戸惑い、時には涙を流す生徒もいたが、2ヶ月間の指導を乗り越え、それぞれの思い込めたプレゼンテーションを為し終えた彼らの成長には目を見張るものがあった。

また、国公立大学入学総合選抜型試験においてこの経験を活かし、合格を勝ち取った生徒もいた。

Speaker (3年生) 「新しい人との関りから得られるもの」
(3年生) 「悩みで時間を無駄にしないためにできること」
(3年生) 「苦手なものをモチベーションに」
(3年生) 「行動を起こす「誰か」は自分」
(3年生) 「「言葉の凶器」を減らすためにできること」

(3) Kumamoto Education Week 2023.1.21-29 での発表

ア 日時 令和5年1月21日(土) 15:00~16:30

イ 場所 蔦屋書店 熊本三年坂店 地下 イベントスペース

ウ コメンテーター

熊本大学大学院教育学研究科 特任教授 前田 康弘 氏
横浜創英中学・高等学校校長補佐/新渡戸文化学園ラーニングディレクター
山本 崇雄 氏

エ 参加高等学校

熊本市立必由館高等学校、熊本市立千原台高等学校、ルーテル学院高等学校
熊本中央高等学校

オ 内容

タイトル「どぎゃん！高校改革～高等学校の今と未来～」

「球磨人吉の観光・復興」について必由館高等学校が発表。豪雨災害を受けた球磨人吉地方を「観光の力で復興していきたい！」という生徒の願いを自作した「PR 動画」で提案した。動画の作成にあたっては、必由館高校の卒業生で、プロ

の映像クリエイターとして活躍されている中川典彌氏にゲストティーチャーとして指導していただき、生徒の思いが表れた動画を作成することができた。

〈その他の高校の発表〉

ルーテル学院高等学校

校内に「ルーテル区役所」という部署をつくり、様々な社会課題の解決に取り組んでいる。「鉄道高架下の有効活用」「屋台などの飲食店」、「スケートボードの練習場」、「水族館」、「鉄道博物館」などのユニークなアイデアが提案された。

千原台高等学校

「阿蘇も、私も、この先も ～持続可能なツーリズムを目指して～」というテーマで発表。

熊本中央高校

「中央盛り上げ隊（CMT）」というクラブを立ち上げていて、「様々なボランティア活動などに取り組んでいきたい！」という意気込みを語ってくれた。

公立、私立の枠を越えたイベントにより、お互いの交流も深まることが期待できる。このイベントをきっかけに、今後、各学校と連携した探究学習のあり方も模索していきたい。

(4) GO GREEN プロジェクト in 熊本

～創造的復興に向けたレスポンシブルツーリズム～

ア 日時：令和4年10月29日（土）・30日（日）

イ 会場：熊本城ホールシビックホール

ウ 主催：Go Greenプロジェクト in 熊本実行委員会

（熊本県・熊本県観光連盟・日本旅行）

エ 共催：日本みどりのプロジェクト推進協議会

協賛：日産自動車株式会社

協力：株式会社肥後銀行

後援：環境省、熊本市、人吉市、阿蘇市、球磨村、熊本県教育委員会

熊本市教育委員会

オ 参加対象者

〈シンポジウム〉

観光関連事業者、自治体関係者、観光を目指す高校生・大学生

サステナビリティに興味関心が高い方、教育関係者（観光人材育成）

国立公園オフィシャルパートナーシップ企業

<エクスカカーション>

阿蘇エリア：熊本市立千原台高等学校生徒・教員

人吉エリア：熊本市教育委員会・熊本市立必由館高等学校生徒・教員

※その他、連携大学・連携企業・自治体関係者

カ イベント開催趣旨・イベントアウトライン

モノからコト、そしてトキへ、そして発信によってソーシャルに自分を表現することを求める消費者が増えています。国内外でSDGsへの取り組みがスタンダードになる中、A f t e r コロナの時代に「イノベーション（変化）」と「サステナビリティ」はあらゆる分野で不可欠です。UNWTO（国連世界観光機関）も提唱する「サステナブル・ツーリズム」は今や、社会全体が必要とし続けるものとなりました。この循環型ツーリズムを国内外に発信するため、我が国を代表する優れた自然の風景地として地域社会にとって重要な資源となっている国立公園・国定公園を生かした商品造成を進めています。地域に根差し、世代やセクターを超えたコラボレーションから生まれる内外のつながりは、ツーリストに環境問題への意識を高め、ライフスタイル変革を促します。



熊本県は2016年に熊本地震、2020年に人吉球磨豪雨水害と度重なる自然災害が発生し、観光産業においても大きな影響が生じました。「Go Green プロジェクト in 熊本」では被災観光地の創造的復興を目指し、世界的に広がるレスポンシブルツーリズム（※）の考え方を取り入れ、自然環境に配慮し、地域経済に貢献した新たな観光プログラムを造成し、国内外へ発信していきます。

※レスポンシブルツーリズム：責任ある観光。観光地の自然や文化、地域社会を守るため、旅行者も一定の責任を担う新たな観光のありかた。

取組例：観光地の自然環境への負荷軽減に配慮した旅行商品を利用する等

キ シンポジウム・アウトライン

13：00～13：05 主催者開会挨拶 Go Green プロジェクト in 熊本
実行委員長 原山明博

13：05～13：10 日本みどりのプロジェクト推進協議会会長挨拶

阿部守一氏

13:10～13:20 来賓挨拶環境省九州地方環境事務所

所長 築島明氏

13:20～13:50 基調講演株式会社美ら地球 代表 山田拓

13:50～14:30 講演熊本県

副知事 木村敬氏※オンライン

14:30～14:40 休憩

14:40～15:20 スペシャル対談

阿蘇市長 佐藤義興氏

日産自動車株式会社常務執行役員 神田昌明

株式会社日本旅行椎葉隆介（ファシリテーター）

15:20～15:40 熊本県の高校生が考える観光復興

熊本市教育員会教育審議員 上野正直

熊本市立必由館高等学校 生徒2名

熊本市立千原台高等学校 生徒2名

15:40～15:45 総括熊本県副知事木村敬※オンライン

ク 基調講演「After コロナ時代に期待されるツーリズム」

～将来を見据えて取り組むレスポンシブル・ツーリズム～

株式会社美ら地球代表 山田 拓氏

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により国内外の観光需要は消失し、訪日外国人旅行者数は2019年の3188万人から2021年には25万人に減少、日本人を含む旅行消費額は27.9兆円から9.4兆円に減少しました。コロナ禍を契機として観光地を取り巻く状況にも様々な変化が見られ非接触型サービス向上やワーケーション、オンラインツアー、マイクロツーリズムといった新たな旅行形態に対する注目が高まっています。

観光は成長戦略の柱であり、地方創生の切り札と期待され、「稼げる地域・稼げる産業」を実現することが今後、重要となってきます。

地域・産業・住民のいずれもが観光による地域活性化に取り組み、観光客に責任のある行動を呼びかけ、ひとりの観光客に対して、より深く関わられるようになればリピーター化につながり、安定した経営となります。2025年の万博を見据え、日本の素晴らしい観光資源を世界に発信するために、「レスポンシブル・ツーリズム」の考えを取り入れた観光を実現していきましょう。





コ スペシャル対談「国立公園を目指すサステナブルツーリズム」

阿蘇市長 佐藤義興氏

日産自動車株式会社常務執行役員 神田昌明氏

株式会社日本旅行 椎葉隆介氏（ファシリテーター）

<阿蘇市キーワード>

#阿蘇市の位置と阿蘇くじゅう国立公園、#阿蘇地域世界農業遺産（2013年5月認定）、#ユネスコ世界ジオパーク（2014年9月認定）、#阿蘇地域の世界文化遺産登録に向けて、#2016年熊本地震、#国道57号北側復旧ルート、#サステナブルツーリズム、#サステナブル・ブランド国際会議阿蘇シンポジウム概要、#With コロナ/After コロナ期における阿蘇市誘致ロードマップ、#2022年版「世界の持続可能な観光地100選」に2年連続で選定、#地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化への取組み、#阿蘇地域通訳案内士制度の確立 Aso city（2019年6月観光庁同意）、#自然体験活動促進計画の策定・認定に向けて

<日産自動車キーワード>

#EV普及に向けた、#日産のカーボンニュートラル戦略、#日産のEV開発の歴史、#バッテリー性能の進化と安全性、#ライフサイクルでのEVのCO2排出優位性、#日産のEVラインナップ、#日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」、#ブルー・スイッチ活動の拡大#阿蘇市様でのEV優遇策&地域活性化、#阿蘇市様×日産グループ、#「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する包括連携協定」、#ブルー・スイッチ動画

<対談内容>

阿蘇市「世界の持続可能な観光地トップ100選」に選ばれて地域の変化はありましたか？

→外的な変化としては、現在の新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年は訪日外国人旅行者の来訪が皆無であり、具体的な手応えを感じるには至っておりません。一方、内的な効果としては大いにあったと感じています。

日産自動車：阿蘇市様との包括連携にて日産自動車として今後、力を入れていきたいことは何か？

→電源の無い場所でもEVを一緒に持ち込めば観光地化できる、というのも一つのポイントだと思う。阿蘇くじゅう国立公園を含めて、日本の魅力的な国立公園をいかにPRするか、盛り上げていくか、日産としても貢献していきたいと思っている。

阿蘇市：市長が考える観光復興とは

→阿蘇への交通インフラは、ほぼ復旧されてきたところです。目的地となる中岳火口は、先の噴火の影響により、現在は急ピッチで復旧を進めております。間もなく見学できる体制を整えたいと思う。あとは、なんととっても阿蘇神社の楼門の復旧であろうと思っています。

2023年12月までには完成の見込みと聞いております。その完成に合わせて、現在は阿蘇神社周辺再開発整備を進めているところです。

日産自動車：阿蘇市長の話を受けて

→EVは災害時に電気を取り出せるため、観光のみならず防災対策にも活用できる。EVをもっと利用しやすいよう充電スポット、レンタカー等の体制を整えていきたい。

阿蘇市・日産自動車：学生へ激励。

サ 熊本県の高校生が考える観光復興

熊本市教育員会教育審議員 上野正直

熊本市立必由館高等学校 生徒2名

熊本市立千原台高等学校 生徒2名

<阿蘇は君たちに何を語ってくれるだろうか？>

阿蘇のフィールドワークに行ったときには、台風の時期だったため大観峰に行っても雨が降り、霧がかかり、景色も見られずに終わってしまいましたが、その経験から、阿蘇における観光は熊本市内よりも自然の天候に影響されやすいことがわかりました。

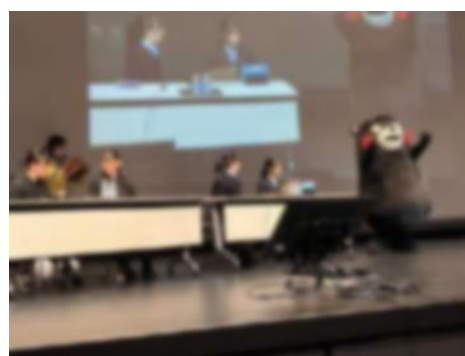
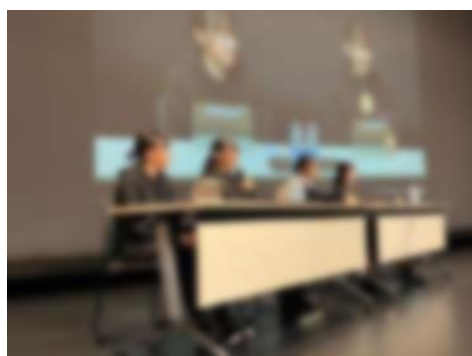
阿蘇は、晴れているイメージが強く、インターネットで調べても晴れている景色ばかりでしたが、あえて天候の悪い日の様子を知れたことで、日頃の阿蘇の雄大さを改めて感じることができました。

今回の活動では、世界有数のカルデラの真の姿、そこで生活する方々の様子や声、そして大自然の豊かさやそこから受ける楽しさを五感を使って感じたいと考えています。以上です。(熊本市立千原台高等学校生徒)

<球磨川は君たちに何を語ってくれるだろうか？>

風光明媚で豊かな自然と優れた歴史文化が根付く球磨川や九州最大の鍾乳洞である球泉洞があり、それぞれがその地域の魅力を語りかけてくれます。どのような人々が住み、どのような活動を行っているかを知り、地域の活力の源を探してきたいと思っています。

学校の仲間と共に、訪問し、情報を共有しながら探究していきたいと思っています。(熊本市立必由館高等学校生徒)



シ エクスカーション・アウトライン (人吉・球磨)

「Responsible Tourism in Hitoyoshi&Kuma」熊本市立必由館高等学校
～球磨川の恵みとリスクコントロール令和時代の観光を発見する旅～

人吉・球磨エリアは清流として名高い球磨川とともに発展し、清流に育まれた歴史と文化は貴重な観光資源として多くの人を魅了してきました。令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けましたが、球磨川流域の「命」と「清流」を守り、創造的復興に向けて取組を進めています。

地域の恵みの背後にある災害リスクを意識しながら観光復興に取り組む人々との交流を通し、新しい観光の「カタチ」を考えます。

10月29日

16:00 熊本城シビックホール発

17:30 体験&座学人吉・球磨の恵みを生かした夕食
農村レストラン&農泊ひまわり亭

19:30 ホテル (ホテルサン人吉)

本田代表との交流会

(かけがえのない郷土の食文化や“もったいない精神”を時流に合った手法で次世代へ)

20:30 街ワンカードによる学習

10月30日

08:00 座学：人吉球磨防災学習プログラム

一般社団法人人吉温泉観光協会

令和2年7月豪雨災害の経験をもとに作成した防災学習プログラム
「ホテルサン人吉の事例」

09:30 体験&座学：製材加工場（最新製材機械）見学

球磨村森林組合

球磨村で伐り出された木材が製材され製品になり出荷されるまで

10:10 体験&座学：球泉洞見学・探検コース

球磨村森林組合 ～森林組合の仕事とSDGsへの取組み～

11:10 座学：球磨村での脱炭素への取組み

球磨村森（しん）電力

11:40 体験：あゆの塩焼き&昼食球

磨村森林組合

13:30 体験：くまがわラフティング

「HASSENBA HITOYOSHI KUMAGAWA」球磨川くんだり株式会社

18:00 熊本市内到着

ス 生徒の感想（人吉・球磨エリア：熊本市立必由館高等学校）

・朝の散歩では青井阿蘇神社と人吉駅に行きました。青井阿蘇神社ではサウンドスケープを行いました。1分間目を閉じて静かに音を聞くことで人吉の自然を感じることができました。

・人吉駅では実際の線路を見に行ったり、外観を見たりしました。また駅弁もあり、栗ご飯や鮎寿司を買って実際に食べてみました。また朝ということもありとても霧が濃かったです。その霧からも自然を感じることができたと思います。

・球泉洞では実際に洞窟内を探検しました。洞窟内は綺麗なライトアップがされていました。ライトアップがないところも洞窟そのものの迫力と美しさを感じることができました。途中急な階段がいくつかあって少しきつかったけどその分たくさんの貴重な体験ができたと思います。



ひまわり亭 本田代表

・HASSENBA ではラフティングを体験しました。ラフティングを通して人吉の自然の豊かさを肌で感じることができました。また、ボートはみんなで息を合わせて漕がないとうまく進みませんでした。このことから誰かと一緒に行動したり活動したりすることの難しさや重要さを改めて感じました。

・今回人吉・球磨を体験して、熊本市内に住んでいる時には味わえないものを感じることができました。また、これから私たちはどのように社会と関わっていく必要があるのか、復興にはどんなことが重要なのかを学ぶ時間になりました。この2日を通してとても貴重な体験ができたと思います。この経験をこれからの探究の時間に生かしていきたいです。



サンホテル人吉 村田社長



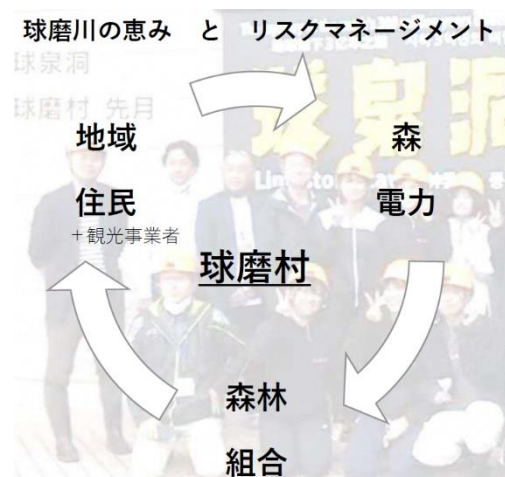
球磨村森電力 中島社長

セ Go Green プロジェクト in 熊本を実施しての成果

2022年9月より熊本市立必由館高等学校、熊本市立千原台高等学校にて観光をテーマとした授業を展開、観光について、訪問する地域のことを学んだ上でエクスカッションに参加した。学びを深めるとともに、今後、地域のプロモーション動画を作成するなどして関連地域ともに活動を行っていく。

テーマである「レスポンシブルツーリズム」の考え方が少しずつ浸透してきている。熊本県には「サステナブル観光地100選」に阿蘇市と小国町が選ばれており先進地域と評価されているが、観光客と共創しながら取り組む旅行（観光）の在り方を発信できたことは成果。今後、さらに普及・啓発に努め、実践していくことが重要となってくる。

2020年7月の豪雨で被害を受けた球磨村で森林組合が従来取り組んでいた球泉洞を活用したプログラムに加え、製材所の視察、2022年からスタートした球磨村森電力とも連携し、滞在しながらより深く地域のことを学び、知ること



ができる新しい探究学習のプログラムの基礎ができた。

ソ 次年度以降の取組について

今回、参加した生徒が高校1年生ということもあり、次年度以降この経験を活かし、新たなプログラム造成に取り組んでいく。また、探究をより深化させるために大学等とも連携し取組を推進していく必要がある。

(5) 東京研修

ア 参加日時 令和5年2月14日(火)～15日(水)

イ 参加者 熊本市立必由館高等学校
教諭 森田 勇 (学校探究部部長)
教諭 池田佐貴子 (学校探究部)
教諭 黒岩義史 (学校探究部)
生徒 2名

熊本市教育委員会

指学校改革推進課 教育審議員 上野 正直
主任指導主事 佐藤 宏一

第7回サステイナブル ブランド国際会議への参加

ア 場所：東京国際フォーラム、東京 JP タワー

イ 実施内容

(ア) 研修概要

〈1日目〉

①他県高校生の探究の発表を聴講

モーダルシフトを推進するための高校生のアイデアを聞いた。具体的にはロゴを考え直し、企業と連携してアプリ開発を行うなど、企業と組みながら実現可能なアイデアを出していた。同じ高校1年生が登壇しており、1年生とは思えない発表だったため、同じ学年だった生徒は刺激を受けていた様子だった。

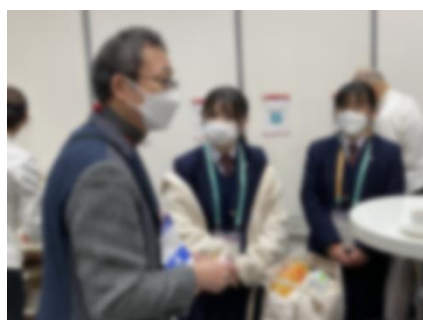


②パネルディスカッション「自治体と企業による共創事例」の中で登壇された熊本県副知事木村 敬 氏より、熊本市立高校の取り組みを紹介いただいた。



③企業人との交流

食事後、株式会社インテージの方から話しかけられた。高校1年生から参加していることに非常に驚いており、期待の言葉をかけられた。サステナブル・ブランド国際会議に参加している企業の意識が、ビジネス目的のSDGsから、本当に環境を良くしていこうとする動きになっているなどの話を聞くことができた。



〈2日目〉

①第3回 SB Student Ambassador 全国大会への参加

- ・福井県立武生東高等学校(福井県越前市) : 「越前文化を多文化共生に」

データを元に考察しており、企業と協力して取り組んでいるところが印象的だった。

フィードバックとして、防災の視点を盛り込むことを提案されていた。

- ・大手前丸亀高等学校(香川県丸亀市) : 「電車 de キャンプ」

一人当たりの費用まで計算しており、JR 四国との連携が出来そうなプランであった。間伐体験やクラフト体験、初心者でもキャンプが出来るような企画をしていた。実際に竹中工務店の話を聞き、電車の燃料に間伐で伐採された木材を使ったり、電車の内装のデザインに木材を使ったりするなど、SDGsの達成目標と絡めていた。

フィードバックとして、CO2を排出する企業が削減目標をきちんと達成できるような税クレジットの仕組みなどを取り入れると良いといった提案をされていた。

- ・雲雀丘学園高等学校(兵庫県宝塚市) : 「商店街の活用と地域活用について」

商店街の人通を増やすために空き家を学生に向けてリフォームして寮を作ることなどを提案していた。学生と商店街を共生させることで、双方にメリットがあるこ

とを発表していた。組んでいる企業はないものの、実現すれば商店街の活性化につながる面白い取り組みであると感じた。

フィードバックとして、日本旅行が北海道でやっている共有のワーキングスペースをつくる活動をしていることを取り上げ、アドバイスしていた。

・豊島岡女子学園高等学校(東京都豊島区)：「オーストラリア先住民(アボリジニ)との融合によるカンタス航空のSDGsの達成」

大きく、①アボリジナルアートを飛行機のデザインにすること②機内の包装もアボリジナルアートのことに③昆虫食をスナック菓子にし、高校生が審査員であるコンテストを開催して、

No.1のものを機内食として採用すること、の3点を挙げていた。

フィードバックとして、自分たちが出来ることという切り口で提案をしていることを評価していた。昆虫食に関しては、どういふストーリーで食べるようになったのかという経緯を含め、昔と今、どう融合できるかを考えてほしい、とのことだった。また、アボリジナルアートのカップをお土産として持ち帰ることを提案していた。



・宮崎第一高等学校(宮崎県宮崎市)：「うんち県 MIYAZAKI」

宮崎県農業振興課の取材を通してバイオマスリサイクルという考え方を知り、牛糞由来の油で石鹼をつくることでエネルギーを生み出す仕組みを提案していた。将来的には20%以上の使用率にしたいという展望も述べていた。実際に、調理実習後の廃油から石鹼を作ってみて、ほとんど違和感のない使い心地であったことも報告していた。

・北海道岩見沢農業高等学校(北海道岩見沢市)：「北の雪から～北海道における自然エネルギーを活用した野菜類周年栽培技術の確立～」

もみがらの活用を行っており、もみガラ燃料の暖房のシステムを提案していた。実際に北海道電力と協力して作成に当たっており、他のコンテストで受賞していた。実業系高校の強みを生かした発表であったように思う。

・東北高等学校(宮城県仙台市)：「クリーンなエネルギーを自給自足から」

振動電力を学校に取り入れることで、学校で使う電力を自分で賄うという取り組みをしていた。ロンドンオリンピックの事例を紹介しており、身近な環境から発想しているテーマであった。

総括として日本旅行より、「自分たちのやりたいことを大事にしながら、社会に貢献していくことがこれからの時代に求められる。」と話し、今後の企業の在り方についての考えを述べていた。

観光庁 未来の観光人材育成事業 成果報告会での発表に向けての練習

ア 場所：Apple 本社（東京六本木）

イ 実施内容

Apple 本社にて成果報告会で発表するプレゼン練習を行った。本人たちの感想として、「緊張して、視線がキョロキョロしてしまった。」（田尻）や「伝えたいところは前を向いてやりたい。」（中根）などがあつた。Apple 本社の方からは、以下のようなアドバイスを頂いた。

- ・身振り手振りも重要で覚えた方が良い。
- ・イベントの運営者の視点からすると、発表者ノートを読むことで時間設定ができるため、原稿は発表者ノートに入力したほうが良い。また、iPhone で原稿を読むことができるため、原稿を読んでもスマートに映ることができる。
- ・水の音のスライドでは場所の写真を入れたい。どんな場所で録音したのか気になるし、本物の音かどうかの確証が持てない。
- ・写真のサイズは一緒が良い。
- ・スライドは基本的に読ませたらダメ。写真の上に文字を入れる時は、写真は補助要素になるため、黒い図形を入れて透明度を落とすと文字を載せることができる。
- ・写真の上の文字は白か黄色が良い。
- ・メインとなるヒーロー画像は何度も使わない。プレゼンで使う画像は1個にした方が良い。
- ・ネタを被らせないことで飽きがない。料理で例えると前菜の画像、メインディッシュの画像、デザート画像など、それぞれの画像の役割がある。
- ・映像は目一杯スライドを使った方が良い。



- ・空気を作る前に、相手に投げかけたり、簡単に発表するメンバーの紹介をしたりすると空気が和らいで自分のペースで発表が出来る。例)「熊本に来られた方、何人いますか？」
- ・複数のプレゼンターがいるのは飽きないため、非常に良い。
- ・見せる資料と渡す資料を分けた方が良い。その場でインプットしてもらうのがAppleの方針ではある。
- ・画面の比率は16:9で作った方がいい。その理由としては余白が作りやすく、余白の意味を持たせることができるからである。

観光庁「未来の観光人材育成事業」成果報告会での発表

ア 場所：日本旅行本社ビル

イ 実施内容

・観光庁 白鳥参事官の挨拶

観光立国の復活がテーマであり、コロナ前に戻すだけではなく、より持続可能なものにしなければならない。観光教育のつながりを大切にしていきたい。

・日本旅行 椎葉 SDGS 推進チーム本部長の挨拶

未来の観光人材育成のためには、先生と共創すること、今年度から導入された総合的な探究の時間と連携していくことが重要。さらに、生徒のイベントやコンテストなど発表の場の設定、海外との連携が大切。

・大聖寺実業高校（石川県加賀市）の発表

文化・観光施設への来場者を増やすことを目的として設定し、資源を魅力的にPRし、拡散していくためのイベントを企画。

・加賀市役所の報告

市民、特に高校生は地元を知らない生徒が多く、こういうフィールドワークを通して、地元に着住するのではないかと期待を寄せていた。

・熊本市立必由館高等学校の報告

『高校生と取り組む被災地の創造的復興～熊本版レスポンシブルツーリズムの幕開け～「球磨人吉の観光・復興」』

これまでの観光ではない、そこでしか経験できないもの学べないことを観光資源としていくことが重要であることを生徒自身が実感できたと述べていた。

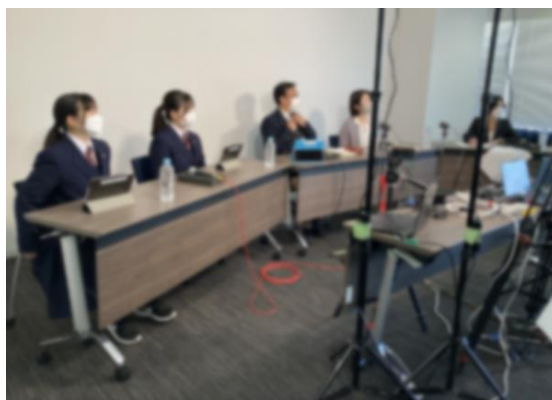
・株式会社くまもとDMCの報告

観光人材になるには、「知って好きになって、魅力作りに関わりたくなくて、発信したくなる」というサイクルをいかに回していくか。

・パネルディスカッション

モデレーター：日本大学 国際関係学部 国際総合政策学科
教授 宍戸 学 氏

学校がどのように観光教育とつながっていくかというテーマのもとでパネルディスカッションが行われて、探究コーディネーターの活用や日本旅行と連携、プロデュース・ディレクター・プレーヤーこの3つの役割が大事であるなどの意見が出た。



また、今回の事業を通して大聖寺実業高校の谷内先生は、生徒のマインドが「千葉＝ディズニーランドしか興味がなかった」から「観光ってなんだろう」という風に分の中で考えるように変化したこと大きな成果だったと言われていた。一方で学校外での活動としてフィールドワークを行うには、交通が不便であるなどが課題として挙げた。そこをむしろチャンスにして事を起こすべきということで、大学生などを巻き込みながら、1か月間泊まり込みでフィールドワークをするなど地域住民と一緒に事を起こすことなどの提案も出された。日本大学の宍戸教授は観光教育を軸に高校と地域をつなげて、地域起こしをしていくことが重要であると議論をまとめ、パネルディスカッションを終えた。

内田洋行オフィスの見学

オフィス内での机やスペース、未来の教室を見学した。未来の教室では実際にオンラインで大阪とつなぎ、遠隔操作でスイッチを付けたたり消したりするなどを行い、近未来的な施設を十分に味わうことができた。



生徒・職員感想（一部）

・特に印象に残ったのはSB 国際会議だった。各都道府県の人が出て、発表がそれぞれユニークで面白かった。中でも大手前丸亀高等学校(香川県丸亀市)の JR 四国と協

力して盛り上げるという発想はなるほどと思った。また、宮崎第一高等学校(宮崎県宮崎市)の「うんち県 MIYAZAKI」も面白く、自分たちも石鹸を作りたいと思った。この発表を熊本に置き換えた時に、まだ開発が進み切っていない西区などを活性化出来ればいいなと思った。Apple では、スライドの作り方がとても参考になった。表紙の文字の色を白にしたいと思った。正直 iPad は返したくないくらい便利で、classroom も見やすいと感じていた。内田洋行オフィスの未来の教室は、動くイスが良くて、学校のイスも変えたいと思った。

・発表をやってみて、リモートだから緊張しないと思ったけれど、焦りが出てきた。文章が飛んでしまったので、次に発表する機会があった時には、どうしたらいいのか対策を考えたい。どこみていいか分からなくなったので準備不足だったと思う。内田洋行オフィスは楽しかった。木の使い方やデザインが面白かった。自分で使うところは自分で作るという発想も納得した。最新技術にあふれていて、感心するところに行く場所行く場所にあり、飽きなかった。こういう場所で働いてみたいと思った。

・黒岩義史教諭(引率者)

10/29.30 でフィールドワークに行った人吉・球磨の活動を受けて、高校生が自分たちで考えたことを発表する集大成の場が持てた。未来の観光人材育成事業は本校としても初めての取り組みであったが、生徒は教員・外部講師のサポートを受けながら、よく頑張り最終的には論文、スライド、動画の3つを完成させた。観光における新しい価値観を実感する時間になった。この実績を通して、たくさんの生き生きとした大人と関わり、人生に対する希望を持って、将来を考える機会になれば良いなと思う。今の学校教育から一步離れた広い視点で見ることができたことで、今後総合的な探究の時間の在り方や、高等学校での学びの在り方を今一度見つめ直していこうと思った。

(6) 熊本市内フィールドワーク

「私たちの『熊本市』を知り、探究のタネを探す旅」

ア 参加日時 令和5年3月3日(金)～4日(土)

イ 参加者 学校探究部 教諭 古川かおり 教諭 清家有希 教諭 黒岩義史
教諭 嶋田誉志

生徒 14名

ウ 概要

〈3月3日(金)〉

9:00～11:00 研修①熊本市役所訪問

- ・政策企画課
 - ・廃棄物計画課
 - ・ごみ減量推進課
 - ・高齢福祉課
 - ・健康づくり推進課
 - ・観光政策課
 - ・スポーツ振興課
 - ・教育委員会指導課
 - ・学校改革推進課
- 11:00～12:30 研修②講話（熊本市現代美術館）副館長 岩崎千夏氏
- 13:30～15:00 研修③熊本市の施設体験（熊本城）
熊本城総合事務所濱田氏 他2名
- 16:00～18:00 研修④熊本の企業人からの講話（パネルディスカッション）
株式会社 ON-do 中川有紀氏
くまもと城下町 古町案内人 古町小町瑠璃氏
(三浦瑠璃様)
スタートアップハブくまもと 田中伴茂氏
株式会社カラーズプランニング 古池泰士氏
- 20:00～21:00 研修⑤1日目の振り返り

〈3月4日（土）〉

- 9:00～11:00 研修⑥熊本市の施設体験（水前寺成趣園、ジェーンズ邸）
・出水神社 ・文化財課
- 13:00～15:00 研修⑦研修のまとめ

「探究のタネを探す旅」と題して、参加した生徒とともに5回の事前学習を行いながら計画を進めてきた。生徒は、市長マニフェストから様々な疑問を出し合い議論を深めながら質問事項をまとめた。熊本市役所の関係各課の方々には、市が行政としてどのようにまちづくりに関わっているのか、政策や課題などを丁寧に説明していただ



いた。行政としての取組を知ることにより、自分たちの町を俯瞰してみる経験ができたと感じる。また、その他の研修でも、研修②④では、それぞれの分野で活躍する大人と対話を重ねることにより、新しい視点や価値観に出会う機会となった。研修③⑥では、熊本市が持つ文化的財産をどのようにして守るのか、どのように受け継いでいくのかを考えさせられた。今回の旅では、「文化財」「環境」「観光」「福祉」などの単独の分野だけの課題や取組ではなく、それぞれがかかわりあっているということに気付くことのできる大変充実した学びとなった。

エ 生徒の感想

(ア) 各研修の感想

○廃棄物計画課・ごみ減量推進課

・今回、初めて窓口以外の施設に入りました。私のイメージと結構違って、一つの課に少数の職員の方しかいなくてびっくりしました。市役所には200課あるので少数という点にはすぐに納得できました。2つの



課の方から話を聞きましたがどちらの課とも市役所の方だけでは解決できないとおっしゃっていました。市民一人一人の意識が大切ということがわかりました。

・熊本に住み続けているのに熊本についてあまり詳しく知らないんだなと実感しました。環境について伺いましたが、お二方とも一人ひとりが取り組むことで持続可能な社会につながると話されていてとても印象に残りました。未来の皆が資源を使えるようにこれからも脱プラスチックや食品ロス削減の活動を続けたいと思いましたが、自分ごととして環境問題に取り組めるようになりたいし皆がそうなれるようになってほしいです。

・食品ロスには前から興味があったので、興味があることについて、さらに熊本という自分が住んでいて身近なところについて知ることができたのでよかったなあと思います。話を聞いて、課題はあふれるほどあるが、市役所のそれぞれの課で対策もしてあることがわかりました。だから、私もできることは絶対にしようと思いました。「ひと手間かければ、環境のためになる」言われたので、そのひと手間を大切にしようと思いました。熊本は自然環境に恵まれていると聞き、熊本に住んでいてよかったなあと思ったし、熊本っていいなあと改めて思いました。

・環境について授業で学習していても、身近に知らなかったことが沢山ありました。熊本市はごみ問題やプラスチック問題の対策をしても、上手く発信できていないことや、コストの問題も大きいことに気づくことができました。その課題について意見を少しだけだけれど伝えられて良かったけれど、したいけどできないもどかしさも感じました。また、料理で出る生ゴミや食べ残しを捨てずに肥料にできる機械のことを知って家族に伝えて、自分でもやってみたいと思いました。

○高齢福祉課・健康づくり推進課

・今の医療は人口減少社会によって人手が不足していることが分かった。ま

た、行動変移のために高齢者を対象としたアプリを使うことによって、健康寿命と平均寿命の10年の差を埋めることが大事だということが分かった。人々が使いたいと思えるアプリの開発に加え、健康も同時に守っているから凄いと思った。少子高齢化問題によって労働者の不足や経済に課題が出てきている。医療関係は、1つも不足せず全ての分野に励むことが大事だときいて、やはりみんなの力によって熊本、日本は作られているんだなと感じた。

・市役所に訪問してまず健康ポイント事業についてわたしはこれが一番住民のやる気がでて健康の近道になるのでどちらにも得があり健康を促すことができるので最も効果的だと思いました。また平均寿命と健康寿命に10年も差があるという事実を知らず、少しでも改善するためにも健康ポイント事業はとても役に立つと思いました。

・現状の課題と将来の課題について細かく資料を用意して下さり、今の私達に求められている事を学ぶ事ができました。また健康増進についてアプリを開発して取り組んでいることは知らなかったもので、ぜひ私も取り組んでみたいと思いました。自分の進路について改めて考える事ができたので良かったです。



○観光政策課・スポーツ振興課

・熊本市が取り組んでいる観光事業と、スポーツ関係の活動について聞きました。観光は何のためにあるのかという疑問に対して、観光客が食やアクティビティに興味を持ち、お金を使うことで、飲食店や宿泊施設、交通機関にお金がまわるので、観光は他の分野の利益にも繋がっていて、地元の経済を發展させるのに貢献していることを知りました。地元の人々の暮らしがより豊かになるので、観光は観光にくる人々のためだけのものではなく、私達のためのものでもあると思いました。

・実際に市役所で働いている人の話を聞いて感じたことがとてもたくさんありました。特に私はスポーツ復興課の方からのお話が私が知らなかったことをたくさん知れて面白かったです。観光政策課の方のお話もコロナ化や熊本地震での観光への影響を具体的な数字とともに知ることができて良かったです。また、私たち若い世代が熊本の魅力を積極的に発信していくことで地域に貢献できると思うので自分ができることは取り組みたいなと思いました。

・私は市に住んでいても市役所には行く機会がなかったため初めて市役所を訪れました。私は観光を主に話を聞き、スポーツと深い関係があることが初めて

の気付きで、よく熊本市が主催するイベントなどに参加するのですが、そういう企画などを観光政策課の方が取り組まれている、イベントを主催する意図、大変さを学ぶことができました。私は企画をされている方々に直接感謝を伝えたいと思いました。



・スポーツ振興課の方がおっしゃっていた「一億円より一人を大切にする」という言葉が一番印象に残りました。観光において利益を考えると、「観光客の方が楽しめる」「観光客の方が優先」というように考えると思っていたのですが、熊本城マラソンの実例を聞いてとても納得できました。今後、観光や人々が楽しめることを考えるときには地域の市民一人ひとりがいかに楽しめるかを意識するのと、私達自身が広告という自覚を持っていこうと思いました。

市役所訪問は初めてだったということもあり、質問がなかなか出てこず、沈黙の時間が出来てしまったということが一番の反省点でした。しかし「失敗しても良い。次に活かせばいいんだ」という言葉を思い出し、この失敗を次に活かせるようドンドンチャレンジしていこうと思いました。 _



○指導課・学校改革推進課

・「何を指すのが良いのか」を決めるのは難しいことなんだろうと思った。市役所でお話を伺った方は「自走のできる人」を育むとおっしゃっていたが、僕にはあまりピンとは来なかった。ただ「市民の望む形」を造ることが大切なのは間違いないと感じた。やり方があっているのか、市民に納得してもらえるのかを考え、確認しながら政策を進めるのが大切。「これが市民に必要だ！これをやろう！」と決めつけて市民の意見をあまり反映できていなかったら、それは「個人の望み」になり、「一般論」ではなくなってしまうので、常に「全体の奉仕者であるという精神」が大切なのだと感じた。

・私は指導課に行きました。そこでは日本語教育や教育委員会、学校改革についての話を聞きました。日本語指導を受けた生徒数は年々増加していて、自分の周りにも外国にルーツを持つ子供と接することが増えると思いまし

た。指導者不足などの課題点が多くあることを知り解決されるにはどうすればいいのか考えることができた。

・市役所訪問で1番印象的だったのは、外国人にルーツを持つ子どもたちの日本語教育についてです。熊本にはさまざまな国の子どもたちがいて日本語教育を受けているそうで



すが、日本語教員の数は少なく、増員が必要となっていることがわかりました。それだけでなく、他にも様々な課題があるそうです。教員自体が不足しているこの時代、日本語指導の教員を増やすことはとても困難なことだと思います。だけど、外国から来た人でも、全員がより良い暮らしを送るために、日本語教育は絶対に必要だと思ったので、どうしたらその課題が解決できるのか考え続けたいです。また、JICAの任務期間を終えて日本語教員をしている方もいるとのお話を聞きました。私はJICAで派遣されたあとの進路をあまり考えていなかったのので、そのお話を聞いてより深く進路を考えていきたいと感じました。学校改革についてもお話を伺うことができ良かったです。学校改革は思っていたよりも悪いことばかりでなく、良い面もあることを知れたの



で、安心して学校改革を迎えられると思いました。他の生徒のみんなも学校改革について不安な点があると思うので、具体的な説明が必要だと思いました。

○熊本市現代美術館訪問における学びの感想

・絵に対する見方がガラッと変わった。絵1つで考え方が大きく変わるなんて正直思いもしなかった。現代の人が描いた絵だからこそ読み取れる背景や想いがあるって、それによって視野が広がり何か始めてみようというきっかけができることを知った。また、自分の個性を活かすことで、様々な意見がでて、広い視野で物事が見れるということが分かった。正しい、正しくないなんて関係無く、楽しさを追求することが大事という言葉が心に響いた。

・岩崎さんのお話を聞いて私は岩崎さんは型にとらわれないとてもかっこいい人だと感じました。先生の問いかけに対し岩崎さんが全員が積極的である必要は絶対でなく支える人がいるからこそその現代の社会であるという思考が新鮮だったのでとても時間があつという間でした。



・アートが人の感情に作用することで、人の考え方を変えたり、今まで持っていなかった意見が出るようになったりといったことが起きるといふことにとっても納得できた。そして、世の中には色々な人がいて、それぞれに幸せの形があるから、「他人の幸せの形を決めつけ、押し付けない」、「他人の不幸を否定しない」ことが大切だと思った。人それぞれなのだから。

・美術館は「心の整理」をする場所ということが分かりました。今まで美術館に対してそのような見方をしたことがなかったし、考えたこともありませんでした。岩崎さんがその言葉をおっしゃっていたときにすごく新鮮な気持ちになりました。考え方の一つで物事の見方が変わるということが納得できたし、私も悩み事があったら違う視点から見てみようと思います。

・とても興味深い講話でした。美術館は心の整理をする場所と仰っていて、もし何かに悩んでいたりしたら美術館にヒントを探しに行くのもいいなと思いました。人はそれぞれで型にはまらなくていいという話はとても心に響いて、私はもともと積極的なタイプではなくて悩むところもありましたが、積極的な人を支える側の人になって社会に貢献できることもわかったのでどちらにもなれるようになりたいです。

・型にハマらずに自分らしさを大切にすることを学ばせていただいて、とても関心が高まり考えを大きく広める事ができました。また、参加者全員の意見や考えを聞いてアートについても考えた事がなかったのでもいい機会になりました。

・美術館は「心の整理をする場所」と教わりました。私は展示されているものに興味をもち、面白いものが見たくて美術館を訪れるので、心の整理というのがよく分かりませんでした。展示物を見て、作者の心や考え方に触れ、自分ならどう感じるか考えてみることで、心の整理ができるのかもしれない。お話を聞いて心に残ったのは、正しいか正しくないかで物事を判断すると、生活は苦しくなるということです。合理性や効率性、常識のことばかり

気にして、自分のチャレンジを諦めるのはもったいないと気づきました。これからは、自分がしたいと思うことに自信をもって挑戦しようと思います。

・私は特に型にハマった考え方をしなくてもいいという言葉がとても心に残りました。私はあまり絵や美術に興味がなかったけれど、自分を感情や思いを作品に表せるということを知って美術鑑賞に興味を持ちました。

招待券をいただいたのでぜひ行ってみたいです！

・私は今回副館長の岩崎さんのお話を聞いて、あまり自分から美術館に行くことはなく、様々なアートを鑑賞する場として自分では捉えていたのですが、ただ鑑賞するだけでなく心の整理をする場としても成り立っているということ学びました。高校生になると勉強、部活、趣味をうまく両立することが難しく、中学生の頃はコロナで世の中が変化し、行事が何もかも制限され、やりたいことができなかったことがたくさんありました。今年卒業した兄がちょうどその頃だったため、今回頂いた招待券をプレゼントして大学に入る前にぜひ一緒に行き、心を安らぎたいと思います。

・現代美術館では、人生の生き方だったり物事の考え方だったりすることを考えることができたと思います。美術館は芸術が好きな人が行くところくらいだと思っていましたが、心を整理する場所というように聞いて見方が変わった気がしました。あと、積極的であることが良いという考えがあったけど、全ての人が積極的である意味はなく消極的でも悪いことではないと思えました。人生は楽しいと思えるようにしたいと思ったし、枠にとらわれる考え方はしないでいろんな方向から物事を考えるようにしたいと思いました。

・たくさんお話をしていただいた中で、ムーミンのお話や、美術館とは何たるかについてのお話が印象に残りました。私の父はギターの音楽講師をしており、よく「音楽に国境はない」と言っているのですが、好きな言葉でもあるようです。そして岩崎さんの「アートに国境はない」という言葉を聞いたとき、聞き馴染みのある言葉に少しびっくりしましたが、すぐに納得することが出来ました。またムーミンが作られた背景を知ることが出来たと同時に、辛いことをアウトプットするということが大事だということも学びました。辛いときでも必ずそばにいてくれ、紛らわしてくれる「アート」という存在はいつの時代でも、全国共通の娯楽であるんだと実感しました。



・生きていくうえでの考え方をたくさん学ぶことができました。本当に自分のためになる話ばかりで聞いてよかったなあと思いました。今まで何事にも挑戦しようと思っていて、現代美術館で「周りのことは気にせず、自分がやりたいことをやればいい」などの話を聞いて、何も気にせず挑戦しようという気持ちが強くなりました。また、物事を外からみていくこともしてみようと思いました。

・私は芸術クラスなのにも関わらず、あまり美術館を訪れたことがありませんでした。タネ探で現代美術館を訪れて、アートの役割や美術館の存在意義を知ることができて、美術館にとっても興味がわきました。美術館を訪れてアートを見るとき、その作品の背景や作者の心情を想像して見ると面白いだろうなと思いました。また、美術館のことだけでなく、生きていく上で大切なことを学ぶことができました。一つのタイプの人ばかりを目指すのではなく、様々な人がいてこそその社会なのだと実感できました。私自身も、考え方が変だとか、もっと積極的に頑張るなど言われ、きつく感じたことがありましたが、岩崎さんのお話を聞いて、心が軽くなったように感じました。ものの見方を変えること、多様な視野を持つことこそが今の社会や私達にとって必要なことなのだと思います。

・何事も面白いと思って取り組むと楽しく過ごせるというお話はずっと心に置いておきたいと思いました。面倒くさいと思って取り組むと本当にきつくなるし、面白いこともつまらなくなるなというのはとても感じました。個性は沢山あって決まった型にはまらなくていい、その時に決断したことが間違えてはないと聞いて、進路について悩んでいるので自分が思ったことを全部やってみようと思えました。自分の思いがないと心を動かさない、その思いが変わってもいいという感覚をもっと持ちたいと思ったし、その手伝いを美術館がしていると聞いて、素敵だなと思いました。

○熊本城訪問

・熊本城は熊本の文化財を守る大事な建造物だということが分かった。実際に案内されながら歴史を学んだり、熊本城に関する質問ができたりと為になった。石垣を直す作業には多くの時間と人手がいるし、高度な技術もいることが分かった。文化財は町づくりに大きく関わっていることを感じられた。

・まず熊本城が文化財であり熊本城の敷地内が特別史跡だということを熊本に住みながらよくわかっておらず知っているつもりでも全然知らないものだと感じました。また天守閣自体は文化財ではないということも知らなかったのではないことばかりでとても面白かったです。

・今までの生活でも、熊本城に行く機会や学ぶ機会は多くあったが、震災後のことや復興のことについてはあまり知らなかったのので、石垣をどんなふうに戻しているのかや、文化財・観光地としての役割を知れて、熊本城の凄さを再認識することができ、これからも熊本城とともに熊本を盛り上げて行きたいと思った。



・熊本城を復旧作業のために作られた橋は17億円もの費用がかかったということが初めて分かりました。しかし、その橋は文化財ではないので撤去されるということも初めて知りました。その橋を使用して熊本城を見て周れるので名残惜しい気もしますが、重要文化財のためにも協力しようと思います。地震でこんなに崩落しているとは知らず、周りを見ているときはビックリしました。一つ一つ手作業で直していくというところに私は愛を感じました。

・熊本地震の影響で崩れた石垣は元に戻すためにすべての石垣に石垣カルテが作られて保存されていることを初めて知って驚きました。木の遠くなるような作業を職人さんたちが時間をかけて行ってくれていることに感謝したいです。また今熊本城復旧のためにつくられているスロープは景観を壊していることになるため壊さないといけないことも驚きました。熊本城が国指定の重要文化財だということも知って重宝されるものなんだと感じました。



・熊本地震以来の熊本城は訪れたのが初めてだったので、大きく変化していた所や被災のままだった場所もあったので迫力が凄かったです。また、中に入ったのは初めてだったので1番上からの景色や中に展示されているものに歴史があり、とても趣がありました。

・熊本城をじっくり見たのは初めてで、大きなお城や石垣を見て、その雄大さに驚きました。熊本地震から、もう約7年経っていると知り、いつの間にかそんなに時が経ってしまったことに実感がわきません。崩れた石垣の修復のために、細かく時間のかかる作業が続けられていて、熊本城は、人々から大切に思われているのだと感じました。工事現場の人々には感謝しかありません。最後に、お城の天守閣に登り、熊本市の景色を一望できました。必由館も見ることができ、学校が意外と大きいことに驚きました。加藤清正もここで、街中を観

察していたのかもしれませんが。城彩苑では色々と美味しそうなものが売っており、ソフトクリームは我慢して、「オランダ揚げ」というコロッケを食べました。なぜ、「オランダ」と付けられているのか気になります。今度は友達を誘って、食べ歩きをしたいです。

・私は歴史が好きで今回の熊本城の訪問も楽しみにしていたうちの一つでした。地震前と地震後に一度ずつ行ったことがあったけど、その時とはまた別の視点で見ることができたし、地震後に来た時よりも復興が進んでいてとても驚きました。また、海外からの観光客の方もたくさんいて嬉しかったです。

・私は地震で熊本城が被災して中に
行ったことがなかったため、久しぶりの城内見学を楽しみました。事前に質問に書いていた石垣を組み立てる構造、観光客数を詳しく回答していただき、説明されなければわからなかったお話も聞くことができてよかったです。まだ被災して工事が進んでいない建物を見ると、当時の地震のことを思い出し、本震は夜に起こったため被災されたのは熊本城だけだったらしく、観光客が犠牲にならずに済み本当に良かったなと語り部さんとともに思いました。



・普段、熊本城は近いところにあって全然行く機会がなかったので行けて良かったです。熊本地震からの復旧についてや歴史についてなど多くのことを知ることが出来ました。今だからこそ見れる場所から熊本城を見ることも出来て楽しむことが出来ました。

・地震によって熊本城が崩れたときに、かなりネガティブな方向に考えていたのですが、内側にあったもう一つの石垣や、井戸に使われていたであろう大きな穴、石垣に使われていた観音菩薩など、新たな発見がどんどんされてきていることを知り、ロマンを感じました。熊本城の復興だけでなく、地震がなければ気が付かなかったものの調査も進んでいるのだと感じました。また石垣の黒い部分と白い部分のお話や、昔から使われてきた物のお話など、昔の方々の暮らしを覗いているようで、話を聞いていてとても楽しかったです。質問の時間があれば、他にどのような新たな発見があるのか、ぜひお聞きしたかったです。

・今までに行ったことはあったが、詳しく勉強しながら行ったのは初めてだと思うのでとてもいい体験ができてよかったです。上まで登れたし、話の内容が興味ぶかかったのでさらに楽しかったです。武者返しについて詳しく聞けた

・今までに行ったことはあったが、詳しく勉強しながら行ったのは初めてだと思うのでとてもいい体験ができてよかったです。上まで登れたし、話の内容が興味ぶかかったのでさらに楽しかったです。武者返しについて詳しく聞けた

し、話を聞きながら実際に見ることができたのでわかりやすかったです。熊本城を守るために工事のときにも橋などいろいろ工夫したり考えてあってすごいなあと思いました。熊本城は自慢できるものだなあと思いました。

・熊本城は地震前に行ったことがありました。今回タネ探で行っ

て、地震前のような姿に復元されていて本当に驚き、感心しました。このように元通りになっているのも熊本城のために尽力してくれた方々のおかげだと思うので、本当に感謝したいです。そして、熊本城周辺には観光客の方がたくさんいらっしやっていたように思います。熊本には観光客が少ないとずっと思っていたけれど、そういうわけでもないのだなと感じられて良かったです。熊本城はやはり歴史や工夫、地震による変化が見られて、一つ一つのことがとても面白くて興味深かったです。また、地震が起こってそのまま残っている部分もあり、心が痛みました。でも地震が起こって新たにわかったこと（壊れた石垣の内側にも石垣があったり）もあったそうで、地震のすべてがマイナスだったわけではなかったのだなと感じました。天守閣の上から眺める熊本市は本当に壮観でした。

・熊本城は歴史あって沢山の人がから愛されていることがとても伝わってきました。地震の影響で崩れた箇所もあるけれど、しっかり調査をして新たな発見をしながら復興を目指していると聞いて熊本が誇らしくなり、それだけ思いが込められていると知って大切にしたいと思いました。熊本城の土地自体が史跡で建物や塀など違う種類の文化財ということは今回初めて知りました。ガイドしてもらおうとただ見るだけでなく、歴史を知りながらまわることができて良いなと思いました。



○起業（企業）人から学ぶ

・スタハブでは色々な職業の人から話を聞くことができ、人との出会いから考えが広まった。人と会うことで人の面白さが分かったり、自分の知らない発

見にとり着いたりすることを知れて良かった。愛の強さで地域に貢献することやみんなの意見を聞くことの大切さ、ネガティブ思考をなくすための方法など、これから役立ちそうなことがたくさん聞けた。自分にできる熊本を元気づけるための取り組みを考えたい。



- ・スタハブ熊本を訪問して四人の熊本に携わる全然職種が違う大人たちを見てべつのやりかたで熊本を盛り上げていこうという行動力が凄まじいと思いました。また、るりさんの熊本が好きだからボランティアであっても観光客をガイドする姿勢に熊本に対する愛が感じられました。

- ・熊本を盛り上げるために活動している大人の人達の、普段は聞けないようなお話が聞けてとても良かった。そして、グループトークで代議士になるためにどんなことをしたほうが良いかのアドバイスを戴いたが、とてもためになった。興味のないことでも、触れてみれば興味の湧く面白いことかも知れないから、一度でいいからいろんなことに触れておいたほうがいい。そして、いろんな人に触れて考えをよく知ることが大事。特に現場に指示を出す人間は、現場のことをよく知る必要があるので、最初から政治の世界に身を置くのではなく、1度現場に身をどうじてみるとより良い政治家になれるだろうと、これからについてとてもためになる話をしてもらえた。

- ・型にハマった仕事をしなくても人生を歩んでいける。でもそこには情熱だったり、人との繋がりがあったり、度胸が必要だったり、愛が伴ったりしている。人それぞれ色々な生き方があるし、考え方がある。私の今後の生き方についても見直すきっかけとなった。たくさん仕事がこの世の中にはあるので、これからたくさんの方々と出会いたくさんの職業を知るきっかけとなりました。

- ・それぞれ仕事が違う四人の方々に話を聞いて、皆さん自分の仕事に誇りを持ってお仕事されているんだなと感じました。皆さんが共通して、たくさんの人と関わることが大事と仰っていて、どの仕事でも人との関わりは大切なんだなと思いました。特に印象強かったのが瑠璃さんで、熊本を本当に愛



していらっしゃる姿が短時間でも伝わったし私も地元をもっと好きになりたいと思いました。熊本についてもっと知っていきたいです。

・お話をして頂いた4方とも職業はそれぞれ違い、考えもそれぞれでとても深い内容を学ぶ事ができました。また1番大きかったのは、一人一人から直接お話を聞く機会があった事です。自分の職業に大きな自信を持って働いていらいらっしゃるのがとてもかっこよかったです。

・4人の方からお話を伺い、それぞれ多様な人生を歩まれていて、楽しそうだと感じました。社会人としての肩書きはいくつもあり、実際みなさんは色々な活動をされていました。話を聞いて、仕事をしたり、自分の夢を実現するためには、挑戦と、人との繋がりが大切だと知りました。前例のないことや自分がしたことのないことは、挑戦するのに勇気がいります。でも、挑戦する前にあれこれ心配しすぎず、とりあえずやってみよう！という気持ちで、前向きに挑戦していきたいです。私は人と関わるのがとても苦手で、誰かと話すときはずっと緊張しているのですが、少しずつ慣れていけたらいいなと思います。

・今回4人の方のお話を聞いてそれぞれ皆さんの経験やアドバイス等たくさんお話が聞けてとてもいい時間になったと思います。私はとくに瑠璃さんが県外出身にも関わらず、熊本の魅力や地域への貢献活動をたくさんされていてすごいなと思いました。私も熊本の魅力をたくさん伝えられるような人になりたいです。

・最初4人の方のお仕事のヒントをお聞きしたときは職業が詳しく理解できなかったのですが、お話を聞いたり、質問をしたりすることでだんだん分かるようになりました。一番の大事な学びは、4人の方のお話すべてに共通して「人との関わりを大切にする、やりたいと思ったことは失敗を恐れ



ず、まずやってみる」ことが社会で役立つために重要なことなのだと学びました。学校生活で置き換えると、信頼し会える仲間を作り、一生大切にすることが今の自分に大切なことだとわかりました。進級するまで残りの生活を大切にしていこうと思います。

・最初は話したりするのがとても緊張していました。初めて会う大人の方と近い距離感で話したり質問したりして普段の生活では経験出来ないことが出来たと思いました。元々人と話したりすることは得意じゃないけど、自分の意見を伝えたりできたのも良かったと思います。

・一つの職業のお話ではなく、様々な職業の方のお話を一度で聞くことが出来たのは、ものすごく良かったと感じています。また少数の組で一人の先生と話し合うことで、緊張も比較的しにくく、自分が思い浮かんだ質問をすぐに相手に聞くことが出来たので、とても有意義な時間でした。瑠璃さんは熊本の良さと同時に良くないところも把握してその改善に向けて行動しようとしている様子がとても印象的でした。またご自身の仕事を「黒子の仕事」と表現していた古池さんの「グイグイ前に行って活動するタイプの間人ではなく、影でサポートして横でニヤニヤ笑っている感じの間人です」というお言葉も印象的



です。私は前にガンガン行く仕事こそが一番いいと思っていたのですが、自分にあっただお仕事をするのが一番なんだなと思いました。たとえ、それがあまり目立つことのないものだとしても、良いのだということを知ってもらいました。

「将来のことは自分たちでも分からない。高校のときだってあまり決めていなかった」というようなお話を聞いて、将来の夢が決まっておらず焦っていた私でしたが、少し視野を広げてゆっくり将来の夢を探して行こうと思いました。

・4人の方たちの話で自分のためになったので聞いてよかったなあと思いました。ここでも生きていくうえでの大切にしたいことを学びました。一番印象に残っているものは、「人との出会いを大切に」という言葉です。この言葉はどの方も言われて印象的でした。また、「誰かと一緒に生活したら、より豊かになる」と聞いて、絶対大切にしようと思いました。

・私がスタハブで1番感じたことは、考え方や価値観が色々な大人がいることと、働き方や仕事は自分で作っていけるものだという事です。私たちは家庭や学校の限られた場所では大人に接することはなく、そのため考え方が似通った人が多かったように思います。こんなに色々な大人の方に一度に出会えたのは新鮮でした。どの方にも共通していることは熊本や社会を良くしたいという思いで、そこから自分で起業したり行動したりして本当にすごいと思いました。やはり、理想を持つだけでなく、そのために行動を起こすことが大切なのだと考えました。私も自分が社会のために何を行いたいかを考えて自ら行動を起こせるようにしたいです。

・今まで直接関わったことのない職業の方のお話を聞くことができ、仕事や起業することに対して少し身近に感じられたと思います。自分が持っている想

いを自ら発信したり会社を作ったりカッコいいなと思い、強い想があれば誰でも行動に移せるんだなと思いました。また、人と人の繋がりはとても大切なことだと改めて思いました。偶然でも少しだけでも繋がりがあるといつかまた繋がりが増えて人生が豊かになるなと思います。今回集まった生徒と先生ともこの機会です話そうできたのでそういった出会いを大切にしたいです。



○水前寺成趣園・ジェーンズ邸

・ここは観光客にもっと注目し

てほしいところだと思った。ここまで大きな庭園はなく、魅力あふれる場所で、よさがぎっしり詰まっていた。また、季節ごとに新しい景色が見られ、観光客も楽しめる仕組みになっている。鳥居を用いたり、能を楽しむ場を作ったりと文化にも触れられるので、興味を持つきっかけにもなるなと思った。

・まず私は駅などでしか水前寺という名前を聞いたことがなく、実際に行ったのは初めてで入ると、とっても広くて想像とは全然違ってとても楽しかったです。また中に歴史的な財産がたくさんあり熊本にとってとても重要なことがわかりました。

・水前寺地区にはあまりでかけたことがなく、全体的にどのような場所なのかをよく知らなかったが、かつては熊本の中心として栄え、現在はとても重要な文化財のある場所ということを知った。いまは震災の復興もかなり進んでいて、これから地域の人達に認知してもらえば今まで以上の盛り上がりになると思った。

5・水前寺成趣園には何回か訪れたことはありますが、あそこはいつ行っても感動します。特に初めて行ったときには今以上に「おー！」となりました。ずっと景観は変わらず、広くて管理が大変そうなのに綺麗に保たれていてすごいなと思います。水前寺成趣園は流鏝馬を行ったり、能楽を行ったりと様々な活用をされていていいなと思いました。

・水前寺成趣園に行ったのはほぼ初めてで中がこんなに広くてきれいに管理されていて感動しました。しかも管理しているのは熊本市ではなく水前寺成趣園の方だと知って驚きました。また、ジェーンズ邸では事前に学習していなければ知ることなかったし、和と洋が融合された



建物を見ることがあまりないので、当時の日本の大工さんの努力が感じられてすごくいい経験になりました。

- ・水前寺も初めて訪れました。熊本の都会の方にとっても自然豊かな場所があることに感動しました。鯉やスッポンなど普通ではあまり見られない生き物も見ることができてよかったです。プライベートでももう一度行って中をゆっくり回りたいと思いました。

- ・今回初めて、水前寺成趣園を訪れ、自然と建造物の美しさに感動しました。昔の日本人の自然を慈しむ心は素敵だと思います。それが現代の日本にも受け継がれ、今も地域特有の花の栽培や、水辺の生き物の保存がされています。自然環境について私達が抱えている課題はたくさんあるので、人と自然が共生できる社会を築くことが大切だと思います。

- ・まず、水前寺成趣園を訪れて一度行ったことがあったけど、あんなに隅々までゆっくり見たことがなかったので新しい発見や新しいことを知れて面白かったです。またジェーンズ邸は今回初めて訪れてみて、グラバー園とはまた違った魅力があり、素敵なところだなと思いました。ジェーンズ邸の魅力を伝えられるように、しっかりとアイデアを出していきたいです。

- ・水前寺成趣園では歴史的背景から見ての説明を聞きました。昔書かれた絵図を見ることができたりして楽しかったです。あと、ジェーンズ邸という文化財についても学ぶことが出来ました。事前に学習していたけど、実際にその場所へ行くことで気づくこともあり前の家の材料が今のジェーンズ邸にも使われていたり階段の作りについてだったり多くのことを知ることが出来ました。

- ・水前寺成趣園では歴史的背景から見ての説明を聞きました。昔書かれた絵図を見ることができたりして楽しかったです。あと、ジェーンズ邸という文化財についても学ぶことが出来ました。事前に学習していたけど、実際にその場所へ行くことで気づくこともあり前の家の材料が今のジェーンズ邸にも使われていたり階段の作りについてだったり多くのことを知ることが出来ました。

- ・成趣園に関しては、熊本にこのような場所があるんだという驚きと、あまりにもきれいな景色だったので、とても感動しました。しかし、コロナ禍に入ってから海外の観光客など、来場者数が急激に減ってしまったということでした。「今日はだいぶ多い方」と仰っていたのですが、何も知らない私からしたら少なく感じました。とてもきれいな場所だったので、もったいないと感じたとともにもっとアピールできたら良いのになと考えました。ジェーンズ邸では実際に中に入ることが出来き、家具はありませんでしたが、当時の暮らしの様子を身近に感じることが出来ました。また、熊本地震で崩れた木などの素材を見えるという貴重な体験も出来たので、とても良かったです。当時の大工さん

たちが、西洋の建物を和の技術で再現した貴重な場所なので、地域の方々・海外の方々に深く知ってほしいと思いました。

・熊本に住んでいても行ったことがない場所に行けたし、勉強できたのでよかったです。自分が住んでいる地域にあんなにも素晴らしいものがあった嬉しいし、すごいなあと思う。自分が住んでいる地域だからこそ、それぞれの街を盛り上げていきたいと思いました。

・水前寺公園もジェーンズ邸も、歴史や文化、伝統行事などあって、とても綺麗で素敵な場所だと感じました。正直、今まで熊本で過ごして来ているのに、どちらもあまり知りませんでした。初めて訪れてみて、もっと色々な人を知ってもらいたいと思いました。また、あれほど綺麗に受け継がれているのも市役所の方をはじめとする多くの方の力があってこそなのだと感じました。ジェーンズ邸については事前に学習もして、歴史などを知った上で訪れました。実際に訪れてみると、階段やベランダのてすりなど、昔の職人さんたちが手をかけて作っていることがより分かって良いと思いました。インターネットでジェーンズ邸を知ることはできるけれど、訪れてみないと分からない良さや味わいがあるので、それを広めることができると、もっと来場者が増えるのではと考えました。

・初めて水前寺成趣園に行きました。とても広く歴史のある場所で、知らなかったり来る人が少なかったりすることはもったいないなと思いました。とても魅力あるところなので、もっと人が来てもらえるように何かできないのかなと思いました。ジェーンズ邸と一緒に、たくさんの方が来てくれるような取り組みを考えてみたいと思いました。日本の美という感じで心が落ち着くなと思いました。また機会があったら花がたくさん咲く時期にまたゆっくり行きたいです。流鏝馬や能も興味があるので家族で見に行ってみたいと思います。



(イ) 全体感想

・多くの学んだことの中で全てに共通する学びとして、人との出会い・挑戦からうまれる発見が大事だということが分かった。やはり、実際に大人の方の話を聞いたり、そこから考えることで意識が変わるんだなあ実感した。旅の前と後で大きく考えが変わった。また、自分の個性を大切にしていきたいと思った。様々な方向から物事をみることで、自分の視点からは見えない気づき・発見があり、みんなが納得する案や考えが生み出されてよりよくなるのではない

かと思った。自分の知らない熊本の現状を知れたので、そこから自分に何ができるかを考えたい。今、求められていることはたくさんあるけど、最終的には人々の幸せが第一にあるから、それを踏まえて案をだしていきたい。

・この探究のタネを探すたびに参加して様々な熊本に携わる大人たちを見てとても刺激されました。枠にはまらず自分がやろうと思ったことを実行してやり遂げている姿がとてがかっこよかったです。このような自分の周囲の世界とはまた違った新鮮な景色を見ることができて参加してよかったと思いました。

・今回の旅で、自分はやっぱり「より多くの人が幸せになるやり方を探して、それを議論する」そういった仕事がしたい！と思った。そのために世の中のことをよく知り、どんな人達がいて、どんな事が必要なのかを考える必要があると思った。そしてそのためにはたくさん挑戦をして、自分をレベルアップさせることが大切だと感じた。今回の旅がレベルアップするきっかけになったと思えるようにこれからも頑張りたい。



・一つの物事に対して自分の意見をもつことができない、そもそも疑問に思わないといった自分の未熟さみたいなものを一番痛感できました。特に市役所を訪れた際には私が班長だったにも関わらず場を盛り上げることはできませんでした。担当の先生方は褒めてくださいましたが私は正直、微妙でこの先大丈夫なのかと不安になりました。ですが、様々な視点から見てみよう意識して見たら意外と疑問が浮かぶようになりました。この一泊二日で気づいた視点なのでまだ上手く使いこなせてはいませんが、そういう方法もあるということを知りました。また、たくさんの方々と知り合うことができたので新鮮だったし、考え方や私の中の固定概念みたいなものはガラリと変わったような気がします。熊本の良さにもたくさん気づきました。良さだけでなく、課題にも直面したので色々な方と力を合わせて解決していきたいです。学べることも、得られるものも多かった一泊二日で疲労もありましたが何より楽しかったです。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。



・今回の旅で一番成長したなと感じたのが人前で話すことです。あまり上手くいってないこともあったけれど以前

の私よりはかなり成長できたと思います。またいろんな人と出会い講話を聞いていろんな考え方に触れることができました。物事を色んな方向から見るためには自分では思いつかないような考え方に会うことが大切だと思うのもっといろんな大人の方からお話を聞きたいです。最後に、私は熊本に住んでいながら熊本を全然知らないんだなと思いました。もっと熊本についていいところも悪いところも知って熊本を大好きになりたいです。

・1・2年生ともに旅行をするのがとても新鮮でしたが、違う学年だからこそ考えが違うところがあったり話しやすい所があってとても良かったです。また各訪問先でも色々な価値観を得て、考えが本当に大きく広がりました。参加してとても良かったです。

・今回の旅を通して、今まで知らなかった熊本の魅力にたくさん気付くことができました。今ある熊本の自然や文化遺産をこれからも大切に、県外や外国のたくさんの人々にも知ってほしいと思いました。熊本で働く方々の話を聞いて、仕事に対する考えも変わりました。いろいろなことに挑戦し、常にステップアップできるよう励みたいです。

・今回の活動を通して思ったことは、話をしてくださった皆さんが心から熊本が大好きだという気持ちをととても感じ取りました。私はこの活動に参加して今までとは別の視点で考えたり、物事を見ることができるようになったと思うし、今まで以上に熊本が大好きになりました。今後この経験を活かして、自分の将来の進路に繋げていきたいです！

・今回初めて観光に関する仕事をしている方とたくさん交流し、観光はこういう職業でも繋がっているんだということ、人との関わりが一番大事だということがわかりました。例えば、観光名所のガイドボランティア、外国人観光客に向けてのツアー立て、イベントの企画などお話を聞かなければ築けないそれぞれの仕事の工夫があり、驚きました。私は将来CAになることが夢なので、ただCAになるために人と同じような一般的なやり方で頑張るのでなく、人と違った自分なりに工夫したやり方で将来の夢を追いかけていきたいと思います。今回は貴重な体験をありがとうございました。

・行く場所によって学べるものが全然違ったり、いつも通りの生活をしていたら絶対に経験出来なかったことばかりで楽しかったです。特に市役所は進路にとっても役立つことが多かったです。現代美術館やスタハブ熊本などは行き方や考え方について考えさせられる内容でした。今回学んだことの全てを一気に取り入れるのは難しいかもしれないけど、とても貴重な体験をすることができたので無駄にしないようにこれからの進路や考え方に活かしていきたいと思いました。

・今回の旅を通して沢山の方々とお話をする事ができ、視野が少し広がった気がしました。いろいろな人や考え方に触れることによって、自分だけでは得ることが出来なかったものにたくさん出会えることが出来たと思います。また、いままで触れ合ったことのなかった同学年の人たちや先輩方とも一緒に活動ができたので、嬉しかったです。特に先輩方の質問内容や、感想などはレベルが何段階も違いました。私も一年後にはこの様になっているといいなあと思うとともに、今後もこのような活動があれば是非参加させていただきたいと思いました。全体を通して印象的だったのはやはり「一億円より一人を大切に」です。この考え方は今までなかったのでとても斬新でした。将来観光に携わるかどうかは、正直まだわかりません。しかしこの考え方は観光においてだけでなく様々な場所で大切になってくる言葉だと思うので、この言葉を意識して行動していこうと思いました。今回の旅での反省点は、質問がすぐに出てこないことがあったことです。やはりどんどん質問するということが重要な旅でもあったので、質問が出てこず、無言の時間が出来てしまったことはものすごく反省すべき点であったと思います。ですので、今後は質問を考えながらお話を聞き、いざというときにすぐに質問ができるようになりたいと思います。そのためには実践を積むことが一番大事だと思うので、今後の活動に積極的に参加していこうと思いました。

・旅に参加してたくさんのお話を学びました。自分の中で印象に残ったことは、「正しいか、正しくないかではない、自分がやりたいことをやればいい」「人との出会いを大切に」「考え方一つで変わる」「物事の捉え方」など生きていくうえで大切なこと、人生が豊かになるための考え方です。本当にいい勉強になりました。市役所、熊本城、水前寺に行ったことで今まで自分が知らなかったことがたくさんあって、さらに学びたいと思ったし、熊本をもっと好きになったとおもいます。どの研修でも「すごい」という言葉でいっぱいでした。この旅に参加して、本当によかったなあと思いが終わってからもずっと思っていました。いい勉強になったし、楽しかったです。また機会があれば参加したいなあと思いました。

・私が今回の旅で得たことは数々の縁と熊本市に対する感謝と、人の話を多面的に聞く力です。私は自分の意見を伝えることが本当に苦手でした。けれど、今回色々な方から色々なお話を聞いて、私は私のままでいいのだと思えて、本当に気が楽になりました。そう思えた分、自分の得意なことである人の話を聞くことにより力を入れられたと思います。その中で、少しずつ自分の意見を述べられるようになったので、旅を通して成長できたとも感じます。また、私は生まれてから今までずっと熊本市にいて、この環境が当たり前だと勘違いしていました。今回の旅を通して、この環境があつて、それを当たり前だと思える

のはとても恵まれているのだと思いました。そして、今回の旅を通して、まだ発揮されていない新たな熊本市の魅力に気づくことができたと思います。これからは今の熊本の良さは残して、課題を見直し、より親しまれる熊本市にしていきたいと心から感じました。今回の旅で出会った方、貴重な体験をさせてくださったすべての方々に感謝したいです。

・自ら参加した人達と一緒に行動すると、一つ一つのことを真剣に考えることができ、楽しかったです。今の生活で関わるのが少ない大人の話を知ることができて、新たな考え方や仕事の広さを知ることができました。普段から何かするとき、どういう心構えをするのか、何事も楽しみ正直にいこうと改めて思いました。また、職業の多様性を感じたり、起業することは難しくないんだなと思いました。熊本の良さを新たに知ることができた旅でもあったと思います。住んでいるところでも自ら知ろうとしないと分からないこともたくさんあることが分かりました。今回の企画に参加してとても良かったし、このような機会を大切にしたいです。



3 外部有識者による講演会

趣旨：高校生が社会の一員として地域（熊本市）の課題を自分事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながら、解決していくための資質能力を育むことを目標としている。日常の生活の様々なところに課題があることを知り、今後の探究学習に役立てていく。

(1) 熊本保健科学大学 准教授 松原 誠仁 氏

ア 実施日時：令和4年11月22日（火）15：25～16：15

イ 演題：『身体運動を科学する・スポーツと健康領域における職業観』

ウ 講演概要

○コアとなる取り組み→人の動きを科学する

この活動を通して、「スポーツ、街づくり、地域創生、ものづくり、障害予防」

○大切にしていること

- ・心底楽しみ、やりがいや高揚感を大切にする
- ・自分が何者か？アイデンティティを意識する
- ・自分らしく生きる事をイメージして行動する

- ・受け身の人生ではなく、意識的に選択する

○研究の概要

「人の動きを科学する」

○パラリンピックでメダル獲得にチャレンジ

- ・センサー付きカメラで人の動きを計測。筋肉の一つ一つをモデル化。そのシミュレーション技術（車輪に係る力をベクトル、接線力、ロボット工学）を車椅子マラソンに応用



- ・メダルにチャレンジ！

マラソンでは4位だったが、100m走では銀メダルを獲得。

○抱っこひもを科学する

- ・どこに一番負担がかかるのか、抱えている状態や歩いている状態を計測。そのシミュレーション技術を応用して身体的負担を軽減する「抱っこひも」開発へ。
- ・世界初、腰パッド（現状より上に3cmあげた）
- ・GOODデザイン賞を受賞

○車椅子ナビゲーションの開発

- ・車いすの人にも優しいナビゲーションアプリケーションの開発。街中の筋活動計測技術を適応して計測。街中のよりよいバリアフリー化を進めていくために福祉のまちづくりに関する研究。

○疲労骨折を推定する

- ・本校出身者の生徒が中心となって研究している。走っている姿をハイスピードカメラで撮影し、シミュレーション、データ化。骨のどの部分に負荷がかかっているかを分析し、疲労骨折の原因を明らかにする。

○地方創生論～スポーツは地方創生に有効か～

- ・スポーツによる地域活性化事例の紹介。球磨郡水上村に新しく設営した1000mのクロスカントリーコース。全国の高校・大学・実業団の陸上選手が合宿を行い、誘致に成功。ヒト、モノ、カネが動き、地方創生につながっていく。

⇒人として得意な技術を伸ばしていくと、つながっていける。

⇒意外と身の回りには解決できていないことがたくさん転がっている。

⇒これまでスポーツと無関係と思われていた分野に新しい職業が生まれてくる可能性がある。

エ 生徒感想（一部）

- ・今日の講話で、人の動きを観察したり調べたりすることで、スポーツやものづくり、街づくり、障害予防、地域創生につながっていくことができるとわかりました。抱っこひもの話で、パッドの位置を3cmだけ変えることで負担を小さくで

きることに驚いたし、スポーツ合宿の充実によって地域が活性化することにすごいなと思いました。

・私たちが何気なく目にしているものや、身の回りに起きていることの裏には、こんなにも沢山の研究があったのだと驚いた。身の回りの疑問をそのままにするのではなく、調べて追求していくことが大切だということがわかった。また、研究をするには、多面的な考え方、豊富な知識が必要だとわかったので、改めて高校ではしっかり学ばなければならないと感じた。

・科学の力は本当にすごいと思いました。スポーツ、ものづくり、街づくり、地方創生、この5つにとっても役立てるからです。特にスポーツにおいて、細かく動作を分析して選手がメダルを獲得する手助けができる。私も将来仕事をする中で科学の力を使う時がくるかもしれません。その時は、個人に見合った方法で効果的に役立てていきたいと思えます。



 <p>コアとなる取り組み 人の動きを科学する事</p> <p>スポーツ 街づくり 地方創生 ものづくり 障害予防</p> <p>大切にしていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 心癒えし、やりがいや高揚感を大切に 自分が何者か？アイデンティティを意識する 自分らしく生きる事をイメージして行動する 受け身の人生ではなく、意図的に選択する <p>熊本保健科学大学</p>	<p>VISION 至高的運動の創造</p> <p>Concept 身体機能を可視化する</p> <p>Task</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 身体機能を知る ▶ 新たな行動変容 ▶ 医療とテクノロジーの融合 <p>Physical Therapy × Technology × Behavioral Change</p> <p>これまでの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車いすマラソン ▶ 抱っこ紐 ▶ 福祉の街づくり ▶ 地方創生論 <p>熊本保健科学大学</p>
---	--

<p>TOKYO 2020 + 1 でメダルにチャレンジ</p> <p>車いすマラソンの研究 ▶ モーションキャプチャ・ロボティクス・タイパシディ (NPO) 共同研究 (Tokyo Japan 2020 大会) 熊本保健科学大学</p> <p>車両技術 金メダル獲得も目指して</p> <p>何らかの原因によって、身体機能の一部を失った車いすランナーの「能力向上」のための研究です。車いすを速く走らせるための姿勢や動作を研究します。</p> <p>計測システムの構築 駆動時の速度・パワーなどを計測できるローラーセンサーを開発し、モーションキャプチャシステムと連携して計測します。高速で回転するホイールの計測に成功しました。</p> <p>センサー技術</p> <p>ロボティクスの応用 ロボット工学</p> <p>センサーホイールの作成 力の可視化</p> <p>プログラミング技術 ハンドパッドに入力された力を計測できるセンサーホイールを開発し、可視化することに成功しました。</p> <p>熊本保健科学大学</p>	<p>抱っこ紐の研究 ▶ モーションキャプチャ・子育て・予防 (Lucky Ind.-IP Land)</p> <p>赤ちゃんが生活する新しいライフスタイルの提案 赤ちゃんが生まれ、新しく始まった生活を快適にするための研究です。出産に伴い女性の身体機能は変化します。その変化に対応した Baby Carrier を研究します。</p> <p>計測システムの構築 赤ちゃんを抱っこした際の姿勢や動作を計測する方法を開発しました。さらに、抱っこ紐を装着したまま姿勢や歩行動作の計測に成功しました。</p> <p>運動学・運動力学・シミュレーション技術の活用 製品の応用</p> <p>腰パットの機能を検討することで、身体的負担を軽減できる事がわかりました。</p> <p>受賞しました。 reddot winner 2021</p>
---	--

(2) スクールコーディネーター 余島 純 氏

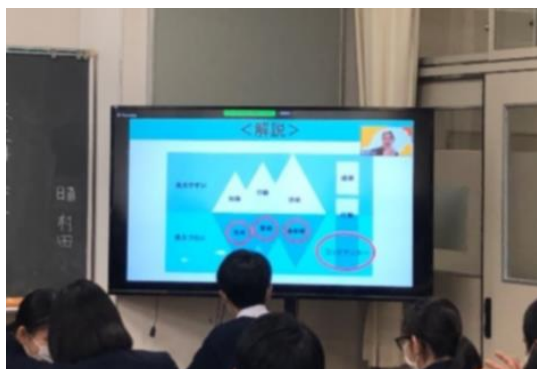
ア 実施日時：令和4年12月14日(水) 15:25~16:15

イ 演題：『これからの時代に必要な資質・能力、Ai GROW について』

ウ 講演概要

〈生徒対象〉

・1年学全員対象にこれからは、知識や技能、具体的な行動そのものだけではなく、これらにつながる「性格」「社会的情緒能力」「メタ認知能力」といったものも重要視させるようになることを講義及びグループワーク通して学ぶことができた。これまで、このような力がどれくらい身に付いているのか見えづらかった。



・Ai GROWでは基質診断（本人も認識できていない生まれ持った潜在的な性格）コンピテンシー（思考力・判断力・創造性・表現力・粘り強さや忍耐力）を数値化し可視化することができる。Ai GROWにより自分自身を知ることの意義やその活用の仕方を学んだ。



〈職員対象〉

・先生方自身の教育実践をアップグレードするために活用してほしい。
例えば、ここは足りているから現状維持で、ここはまだ足りないから意識して取り組もう。足りているけど全体的に余力があるからもっと伸ばそう。
・他人と比較・競うものではない。先生方を評価するものではない

(3) Y'sReading 代表取締役 熊本大学医学部 教授 中山 善晴 氏

ア 実施日時：令和5年2月8日（水）14：25～15：30

イ 演題：『「自己表現としてのプレゼンテーション20×20」

～ペチャクチャナイトを使ってプレゼンテーションを身に付けよう～』

ウ 講演概要

○プレゼンテーションについて勉強したことは？

実はほとんど勉強したという人はいないのではないかと。きちんと勉強しないと身につかない。

○ペチャクチャナイト→20枚のスライド×20秒の合計400秒でプレゼンする。

自分の思っていることを相手に伝えるための技法⇒人生が豊かになる。

①誰が？（わたし、私たち、会社、仲間）

②いつ？（入試、就職、恋愛、結婚、日常の様々なシーン）

③どこで？（対面、オンライン、グローバル）

- ④なぜ？（自分自身、夢、希望、意味、〇〇を伝えること）
- ⑤どうやって？（パワポ、紙、ムービー、ペチャクチャスタイル（20×20）で）

○ペチャクチャスタイル

- ・ルール

- 1スライド 20秒（伝えることの焦点化）

- スライド数 20枚（スライドは20秒で自動切り替え）

- 注意！ 文字は最低限、アニメーションも最低限、ビジーは×、スライド

- は補助、伝えたいことを明確に。

- ・ツール：ポストイットカード

- ①タイトル、②氏名、③夢の紹介、④きっかけ、⑤エピソード1、⑥エピソード2、⑦私これがしたい、⑧挫折1、⑨挫折2、・・・⑳



○中山氏の実演後、生徒全員で実際に体験活動

- ・20枚×10秒で実施。
- ・1年8組から代表3班で発表。

○楽しむことが大切

- ・このようなプレゼンテーション能力を身に付けることで、より充実した高校生活が送れる。
- ・自由に！周りは暖かい愛情で！
- ・全世界1400都市で実施。熊本市は中山氏が担当。本にもなっている。
- ・起源はデザイナーから。20年続いているイベント。

○質疑応答

- ・プレゼンのコツは？

- まずは「慣れ」。場数を踏むことでオーディエンスとの一体感が出てくる。最初は難しいが、一体感を目指すとよい。

- ・これは個人、グループ どちらでやるのか？

- 個人が多いが、個人でもグループでもできる。

エ 生徒の感想

・私はプレゼンをするときによく入
れたい情報が多くて情報の切り捨て
でいつも悩んでみ、結局原稿が長く
なってしまう事がよくありました。
でも1つのプレゼンを20秒で発表す
ることを意識したら本当に必要な情
報なのかよりしっかり考えることが
でき、よりわかりやすいプレゼンを



作ることができるとわかったので良かったです。3人のプレゼンもとても面白
くてプレゼンの作る楽しさと聞く楽しさを改めて感じました。

・高校生になってプレゼンテーションをする機会が増えて自分的には慣れた
気でしたがまだ原稿を丸読みしたり問いかけがなかったり何を伝えたいか
的確になってなかったりまだまだなところの方が多く中いい経験をさせても
らったなと思いました。20秒の20枚という限られた中で何を伝えるべきかそ
してどう伝えるか分からなかったことが分かって良かったです。少しずつこ
のプレゼンテーション形式を身につけて将来役に立つといいなと思いまし
た。

・自分が伝えたいことをより分かりやすく伝えるために、20枚のスライドを
1枚20秒で話すということは、これまで1枚だけに大量の情報を詰め込んで
ダラダラ話すよりも分かりやすく、単純なので今後ぺちゃくちゃでの方法を
使ってみたいと思いました。

・中山先生のお話を聞いて、一枚のスライドで20秒間話すのを意識したこ
とが今までなかったので、これからは意識して探究などのスライドの発表をし
ていきたいです。家族にも教えてあげようと思います！

・自分の考えを自由に喋っていい所が良いなと思いました。また一枚20秒
という区切りをつけることでだらだら話をしてしまうことを防いで、聞いて
いる人もわかりやすいのでいいアイデアだなと思いました。またプレゼンに
は話の順序や筋道が通っていることが大切なんだなと改めて思いました。み
んなで体験をしてみてとても楽しかったです。

(4) 津軽三味線奏者 山下 靖喬 氏

ア 実施日時：令和5年3月7日（火）

11：45～12：35（芸術コース音楽系） 14：25～15：15（普通科）

イ 演題：『三味線の魅力に迫る』

ウ 講演概要

日本の伝統楽器である三味線の存在を知らながらも、実際には触れる機会が少ないため、大変貴重な機会となった。三味線の楽曲だけでなく、ロックやジャズ、クラシックの音楽を三味線で奏でながら三味線の旋律や音を出す原理などを説明されるなど、生徒が関心をもって三味線の特徴を知る工夫がされていた。三味線音楽の可能性を感じさせる音の表現と、三味線独特の即興性や作法など、他文化からの学びを得る機会にもなっていた。コースにとっては、音楽表現の豊かさに生徒も驚いているようだった。惹きこまれる本物の演奏に集中して聴き入っていた。自らの専攻する音楽につながる学びになったと感じている。



エ 生徒感想

・こんな近くで三味線を聞くのが初めてで、津軽三味線の迫力を感じることができました。太鼓の部分を叩いてとても大きな音がなっていてすごいなと思ったけれど、犬皮を使っているのを聞いて驚きました。歴史と共に知っていくと面白そうだなと思います。

・今まで聞いたことのない三味線の演奏を生で聞くことができ本当に貴重な経験だったと思いました。三味線には3つの種類があることと、アドリブ、即興演奏だと言うことを初めて知りました。三味線は思ったより音が大きかったです。右手で叩くことによって音を出すものだと思っていましたが、すくったりはじいたりすることもわかりました。次演奏を聞く機会があれば、曲の途中でも技があったら拍手したいなと思いました。

・三味線の生演奏を聞くのは初めてで、私は日本の楽器は西洋などの楽器と比べて音が小さく割と細い音色なのかなと思っていました。でも実際に演奏を聞くとものすごい音量で迫力があって、自分の想像と真逆だったので驚きました。また三味線の楽譜はほとんどないと聞いて、自分でネットを使って調べてみたのですが、私がピアノとかでよく見るきもちがわるくなるほどの音符の羅列がなく、凄くシンプルでどうやって演奏すればいいのか全くわかりませんでした。

4 職員研修

(1) 東京芸術大学 教授 佐野 靖 氏

ア 実施日時：令和5年1月18日（水）10：45～17：00

イ 演題：『これからの芸術教育（音楽）』

ウ 講演概要

音楽のみではなく、芸術を学ぶ人として大切な価値を多様な視点から感じるこ
とのできる講義だった。特に、佐野副学長がかかわられる世界的な指揮者山田和
樹さんや大手企業とのやり取りなど、社会連携という立場から音楽を学ぶことに
ついて考えさせられたことが印象的だった。生徒は、今の自分の実技のみに集中
しがちだが、視野を広くもって音楽と向き合うことの大切さを学ぶことができ
た。

また、職員研修の中では、全国のコースをもつ高校や音楽大学のもつ課題を西
洋音楽、日本音楽などそれぞれの視点から具体的な例をあげながらお話を伺うこ
とができた。全国的に音大の受験生が激減している流れの中で、私たちの指導が
どのようにあるべきか、「当然こうあるべき」とこれまで私たちが経験してきた
音楽の世界の常識を見直すことの重要性など、不易と流行について考えるきっか
けとなった。

その後の打ち合わせでは、全国の中で音楽が盛んな地域の実践やキャリアを掴
むための資質を育てることなど、大変勉強になる話を伺うことができた。

エ 職員感想

音楽だけではなく、芸術コースに3つの系（音楽・美術・書道）があることを生
かす方法など、今後の学校の在り方についても話を深めることができ、大変充実し
た時間であった。

オ 生徒感想

- ・音楽が身近な存在ではない人から、音楽の良さや価値を感じてもらえるよ
うになることが大切だということが印象的だった。
- ・「音楽をやっていく以上、絶対にアンサンブル」という言葉から、普段は、価
値観が似たような人とばかり接しているが、価値が違う人と話すことによって自
分の幅が広がるということを聞いて実践したいと思った。
- ・自分は「運」がないと思っていたが、あると思って自分自身の人生を振り返
ると、たくさんの縁に恵まれて運がいいこともたくさんあったことに気づいた。さ
らに、自分もその中でたくさん努力してきたことを実感した。
- ・コースに入ってソロを学ぶだけでなく、部活やオーケストラで他の楽器との縁
に恵まれるようになった。出会いを大切にしていくこと、感謝することの大切さ
を学んだ。
- ・長所と短所が近い場所にあると教えていただき、自分自身の長所を知ることの
大切さや、短所をどのように長所として生かしていくかを考えるきっかけになった。

(2) 新渡戸高校 山本 崇雄 氏

ア 実施日時：令和5年1月20日（金）15：00～17：00

イ 演題：『学科の特徴を生かしたカリキュラム編成』

ウ 講演概要

(ア) 学び方改革

教えるから教えない（支援する）、一人で学ぶから協同して学ぶ、答えは一つから異なるアイデア、一つのことから複数のこと、長時間から短時間へと学び方は大きく変わってきている。



(イ) 学科の特性を生かしたカリキュラム編成

枠組み・システム：自立型学習者の育成

○新渡戸文化学園の事例：自立した探究が生まれる教師の支援とは

- ① カリキュラム（時間割）の工夫（クロスカリキュラムイメージ）
コア・バリューの考え方（子どもたちに身につけさせたい力）をベースに、カリキュラムを作成する。教科横断的な授業（数学と美術）
- ② 探究の年間スケジュール
 - ・ 1 学期：探究入門（生徒が体育祭企画を創る）
 - ・ 2 学期：自分の好きなこと探究（文化祭）
 - ・ 3 学期：誰かを幸せにするという視点を入れて（スタフェス（展示会））
 - ・ ハピネスブリッジ（地域の大人50人が協力）、スタディツアー
 - ・ 教師側は、子どもたちを勇気づけ、学びを待つことが必要
 - ・ ワークシートの工夫も大切
- ③ 子どもの心理的安全性を高める

エ 何より生徒との対話が重要

で、そこでの会話を通して生徒の好奇心や創造性、想像力、行動力を引き出していく。今の自分を起点にして社会を幸せにするゴールを目指して生徒たちは探究活動に取り組むことの大切さを学んだ。

時間	活動
9:00-9:25	朝礼 + 朝活動
9:30-10:20	Coaching
10:30-10:40	SP Self-clearing (学習計画)
10:40-11:30	Coaching
11:40-12:30	Coaching
12:30-13:20	新渡戸ごはん (給食)
13:20-14:10	Coaching
14:20-15:10	Coaching
15:20-16:10	Self Paced Learning

(3) 武蔵野美術大学 教授 三澤 一実 氏

ア 実施日時：令和5年1月26日（木）15：25～16：15

イ 演題：『これからの芸術教育（美術）』

ウ 講演概要

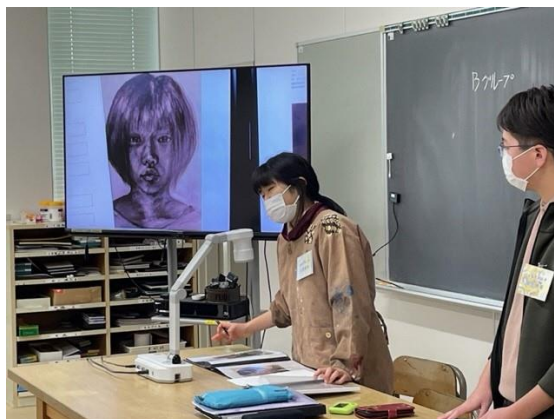
(ア) ワークショップ

・「旅するムサビ」と題した、武蔵野美術大学の学生によるアウトリーチ型プログラムで、学生作品の対話型鑑賞活動と意見交流。

・ドローイング体験（共同作品制作）による美術の可能性の再認識・再発見活動。

(イ) 講義・意見交換（職員対象）

・三澤教授による、これからの美術教育に関する講義。美術教育の持つ可能性や果たすべき役割等について講話いただき、他教科職員にも参考となる点が多々あった。講話の後には本校職員との意見交換を行った。



エ 職員感想

・小中学校の深く豊富な実践を視聴することができ、大変勇気づけられました。本校の他教科の職員（の一部）も「表現する力」を育むことについては関心が高まっており、その土台を作る「朝鑑賞」には強い関心を示してくれました。多様な意見感想を出し合い、多様な意見や感性を認め合うこと、課題研究のように様々な経験知識を組み合わせ工夫してよりよい作品づくり・表現をしていく姿には説得力がありました。また、朝鑑賞を通した先生方の変容も見られて良かったです。



・常々生徒の「しゃべる力」をつけたいと思っていたので、とても参考になりました。総合的な探究の時間の取り組みにも生かすことが出来そうなので、探究部の先生方にも話の内容を伝えたいと思います。もし可能であれば、次年度、全職員向けにお話を伺いたいと思いました。

オ 生徒感想

〈鑑賞活動〉

・作品を見て感じる人が違うということが分かりました。実際に作品鑑賞をしてみて、私が作品から感じたイメージや雰囲気、作者が伝えたいことはなにかを考察したことが他の人とは全く違って面白かったです。なので、作品鑑賞をして他の人の感性にふれることはとても勉強になるなと思いました。

・対話型鑑賞というものを初めて体験しました。同じ作品でも人の数だけ見方があり、とてもおもしろかったです。また、普段鑑賞するときは他の人との意見交流は出来ても、直接作者のお話を聞けることは出来ないもので、それも新鮮で良かったです。

・作品鑑賞会というものを初めてやった。最初は「木の絵だ」という感想しか持たなかったけど、鑑賞会を進めてみんなの意見を聞いていくうちにだんだん絵に対して感じることや、表現されていることに対する気付きが増えていって、絵に深みを感じていくのが面白かった。そしてみんなの意見と作者の意図がほぼあっていたことがすごいと思った。



〈ドローイング体験〉

・久しぶりに自由に表現できたなと思った。絵の具の量も筆も一人でやると制限がかかってしまっていたのでこうやって色んな人と自由に表現できたことに対してとても良かったです。夢というテーマで色んな人の作品が一つの紙に出来上がり、みんなで鑑賞できたのもまた良かったなと思った。とても楽しかったです。



・なかなか抽象画を描く機会が無く、というか描こうと思ったことがなかったので、夢をどう表現すればいいのか分かりませんでした。描いている途中で夢というテーマを見失ってしまったり、他の生徒の楽しそうに絵の具を使う様子を見て自分の表現力の無さに気付いたり、とても良い機会でした。また抽象画を自主制作してみたいと思いました。抽象画を描けと言われていたわけではなかったけど、抽象画っぽくなっていたのも面白かったです。



・絵の具をぶちまけたり筆を使わずに描いたりすることがめったにないことだったので楽しかった。大学生の方が感想で人の迷惑がかからないようにそれぞれのスペースの中で描いてしまっているというのを聞いて確かになとおもったし、合作は混ざり合うほどいいものになるのかなと思った。

5 視察研修

趣旨

先進的な取組を数多く取り入れている教育委員会や高等学校の視察訪問をとおし、本校の探究活動や地域連携のあり方また学科改編に向けた取組について参考とする。

(1) 北九州市教育委員会

ア 視察日時：令和4年10月31日（月） 9：00～11：00

イ 視察者：熊本市教育委員会事務局学校改革推進課

教育審議員（必由館高校改革コーディネーター）上野 正直

主幹兼主査 朽木 篤 主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 視察概要

(ア) 普通科改革に関する取組

- ・地域社会学科（「未来人材学科（仮称）」）

令和6年度に新設。

現行の普通科の一部は残しながら情報ビジネス科の再編を行い、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題への対応、社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するため、SDGsの視点から社会課題を捉え、探究活動と「産・官・学・民」の連携によって社会変革とビジネスの一致を目指すとともに、未来の社会や世界をけん引する力を備えた若者を育成する。

- ・学校設定教科（仮称「社会問題研究学」）を設ける予定（2単位／年）

企業や大学の協力と、情報ビジネス科との連携の下、社会問題・社会課題をビジネスの視点から着目し、解決に導くことを目指す。

地方創生、新たな産業の創出

- ・「市高タイム（仮称）」の導入

地域社会学科には、魅力ある学校づくりの一環として、生徒が個人の興味・関心や進路希望等に応じて、受講科目を自ら選択できる。

(イ) 意見交換

以下について、意見交換を行い、同じ市立として両市教育委員会が抱える課題を共有し、今後、情報交換を密にしながら互いに連携・協力していくこととした。

- ・コーディネーターの配置
- ・コースの設置
- ・高校職員、在校生、保護者、同窓会、地域、中学校への説明・周知
- ・部活動改革に向けた取組

(2) 京都市教育委員会

ア 視察日時：令和4年11月2日（水） 9：00～11：00

イ 視察者：熊本市教育委員会事務局学校改革推進課

課長 松永 直樹

教育審議員（必由館高校改革コーディネーター）上野 正直

主幹兼主査 朽木 篤 主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 視察概要

(ア) 普通科改革に関する取組

京都市教育の基本理念

「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」を着実に推進するとともに、
「子どもたち一人ひとりを徹底的に大切にする」

目指す子ども像

本市教育の基本理念の下、「SDGs」や「京都市レジリエンス戦略」等を踏まえ、本市学校教育の目指す子ども像である「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」の育成

(イ) 京都市立高等学校改革

第1期改革期（平成6年から平成15年）

市立高等学校21世紀構想委員会設置

京都堀川音楽高校 音楽高校として独立開校（平成9年）公立初の音楽科単
独校

堀川高校 新学科「探究科」設置（平成11年）

国公立合格者6名→106名

SSH指定（平成14年）

西京高校 新学科「エンタープライズ科」設置（平成15年）

第2期改革期（平成16年から平成22年）

工業高校改革（平成19）学科全面改編

新学科「創造技術科」「システム工学科」設置

日吉ヶ丘高校 新学科「国際コミュニケーション科」設置 英語科の発展型

塔南高校 新学科「教育みらい科」設置 全国初の教員養成学科

入学者選抜改革 通学圏の再編 特色選抜導入

第3期改革期（平成23年から）

西京高校 SGH指定（平成27）

京都工学院高校開校（平成28年）洛陽高校、伏見工業高校を併合

京都奏和高校開校（令和3年）伏見工業高校、西京高校を併合

堀川高校SGH指定（平成26年）SSH継続指定（平成27年令和2年）

日吉ヶ丘高校 単位制普通科に再編（平成26年）進学型単位制に

紫野高校 専門学科「アカデミア科」設置

開建高校開校（令和6年）

(ウ) 高等学校と外部機関との連携強化を推進

- ・高等学校コンソーシアム京都⇒高校生と社会をつなぐ

京都市立高等学校と産業界および大学との連携を推進し、高校生のキャリア教育、探究的活動を支援することを目的に、「産・学・公」が協力して平成12年（2000年）3月に設立された。高校と社会をつなげ、広い世界に羽ばたこうとする高校生が存分にその力を発揮できる機会と場所を提供している。

高校生にとって学びの場は学校の中ではない。学校の外に飛び出して、社会の仕組みを知ろうとすること、他校生徒や社会人、大学生などと一緒に何かに取り組むこと、未知との出会いにワクワクすること、すべてが高校生の力となる。社会とのつながりの中で学ぶこととは、学校の外へと学びを広げる貴重な経験を高校生に与える。

文部科学省高等学校普通科改革支援事業に係る運営指導委員、コンソーシアム構成員の人選に関して高等学校コンソーシアム京都に協力を仰いでいる。

(エ) 京都市委員会の普通科改革に向けた取組

- ・教育委員会事務局の組織改正令和2年4月1日付けで、組織改正を行った。
- ・「新普通科系高校開設準備室」の段置

洛陽工業高校の跡地を活用し、塔南高校を移転・再編し「新しい普通科系高校（京都市立開建高等学校）」の令和5年度開校を目指す。生徒に訴える魅力あるスクールポリシーや特色ある教育課程、選抜方法の改善など開校に向けた準備を学校と一体となって行うため、指導部内に「新普通科系校開設準備室」（課相当）を新設した。

新普通科系高校開設準備室の構成

室長－担当係長－担当係長－室員（5名） （全員、兼職） 指導主事（3名、うち1名教頭、1名主幹教諭）

文部科学省高等学校普通科改革支援事業に係る予算執行等の事務的手続きを行う。

(3) 兵庫県立御影高等学校

ア 視察日時：令和4年11月2日（水） 9：00～11：00

イ 視 察 者：熊本市教育委員会事務局学校改革推進課

教育審議員（必由館高校改革コーディネーター）上野 正直
主幹兼主査 朽木 篤 主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 概要

令和6年度開校に向けての取組

- (ア) 文理探究学科（仮称）平成19年に設置した「総合人文コース」を改編
文理の枠を超えた学びを通し、広い価値を創造する“Society5.0の時代に求められる生徒”を育てる

(イ) 育てたい力

「主体性」価値を見つけ生み出す感性 価値を見出す力・好奇心・発想力
「協働性」リーダー性・フォロワーシップ

「課題解決能力」 読解力・データリテラシー・数学的思考力・科学的思考力
現状分析力・実行力

「言語表現スキル」 発信力・対話力・創造性・構成力

「多様な認識」 文理の枠組を超えた高次の認識 多面的な認識. メタ認知能力

(ウ) 育てたい生徒像 これからの社会で活躍できる生徒

- ・未来の自分を見据え、自ら問いを立て、主体的に最後まで粘り強く取り組むことができる生徒
- ・価値観の多様性を認め、誰とでも力を合わせて協働し、社会のリーダーとして活躍できる生徒
- ・現状について正確に把握・分析し、見つけた課題を正しい知識や情報をもとに解決できる生徒
- ・力強い一歩を、情熱と知的好奇心とをもって踏み出し、失敗を恐れずに挑戦・発信できる生徒

(エ) 外部機関との連携

MIKAGE コンソーシアム

国際NPO (Color bath)

行政・地域NPO (神戸市東灘区役所 コミュニティサポート神戸)

大学 (神戸大学 甲南大学 京都大学 西南学院大学)

研究機関・博物館 (兵庫県立人と自然の博物館 兵庫県立自然・環境研究所
神戸市立森林植物園)

企業等 (株式会社ウエルアップライフデザイン研究所 FLAP 株式会社 ISA)

(オ) コーディネーター

学際的学びを新たに行うための高等教育機関や研究機関等との連携依頼や連絡調整、地域課題に係る探究活動充実のための行政機関や企業等との連絡調整、学科内容の周知・広報の検討、校内組織体制の整備等に加え、年数回開催予定のコンソーシアム会議・カリキュラム開発会議等、連携機関等との会議運営に携わり、学びの共創・事業全体の活性化に寄与する。

(カ) 学校設定科目 学科生全員履修の先進的な学びを取り入れた学校設定科目

『クリエイションⅠ』 (1年1単位)

デザイン思考講座、STEAM教育講座、データリテラシー向上講座

『クリエイションⅡ』 (2年1単位)

外国人留学生とのワークショップ (エンパワーメントプログラム)

ファシリテーション講座、グローバルリーダー論講座、ローカルリーダー論講座

『クリティカルシンキング』 (2年2単位、3年2単位)

『探究英語』 (2年2単位、3年2単位)

(キ) 国際的な取組や企業の取組等を学ぶ機会を積極的に提供

学際的課題を国内外の広い視野で考えるため、国際NPOによる途上国支援やSDGsに積極的に取り組む企業の取り組みを学ぶ。

(ク) ことばのカシンポジウム (各界で活躍する卒業生の講演)、フィールドワ

ーク（県外高校生徒との探究活動交流会）、御影セッション（学年を越えた学び合い）

(4) 京都市立開建高等学校

ア 視察日時：令和4年11月2日（水） 9：00～11：00

イ 視 察 者：熊本市教育委員会事務局学校改革推進課

課長 松永 直樹

教育審議員（必由館高校改革コーディネーター）上野 正直

主幹兼主査 朽木 篤

主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 視察概要

令和5年度開校に向けての取組

(ア) 学科名ルミノーション科

「光」を表す「luminous」+「彩豊かな成長」の思いを込めた「innovation」

(イ) 設立に向けた思い

多様化、グローバル化、情報化など、非連続的に変化し続ける予測困難な時代をいきいきと自らの力で歩いていける生徒を育てたい。自分の夢や希望、やりたいことに果敢に挑戦して、かつ社会貢献につなげてほしい。そして、自分にとっての「幸せ」とは何かを見出してほしい。

(ウ) 教育目標

より良い未来をめざし、個性を活かして社会を協創する生徒の育成

(エ) 育てる生徒像

自らの成長とともに他者と協働しながら、より良き未来社会の創造に取り組む人物（=協創者）

(オ) 育成する6つの資質・能力

・学び続ける力 ・対話力 ・協働力 ・思いやる心 ・貢献力 ・挑戦力

(カ) 開建高校の授業

開建高校で目指す学びの姿

「自分らしく生きていくために必要な、自ら考え自ら学ぶ力」をつける学び教育活動の三本柱

「自分について知る」「個性を活かして協働し、挑戦する」「自由な発想で、未来を創る」

問からはじまる学び

授業は思わず考えたくなる「問い」から始まる。「問い」に向き合うことで様々な「考え方や学び方」を学んでいく。

対話・協働の学び

授業は「問い」をベースに対話・協働で学ぶ。開建の授業では、対話・協働することで、新たな「価値観」を創りだす。

個に応じた学び

学びの楽しさ、成長の目標は生徒それぞれ違う。自分に適した学び方。

自分で目標を立て、達成する学び、「個に応じた学び」を修得する。

授業で目指す生徒の姿

「学んでいることが、楽しい」「考えていることが、楽しい」

⇒「自ら考え、自ら学ぶ」

(キ) 「総合的な探究の時間」を中核とした学び

より良い未来社会の創造を目指して、「探究に必要なスキルや手法の修得」

「未来の創り手となる志」「自己を成長させるマインド」を育む。

社会課題意識を持ち、あらゆる機会を学びの機会と捉えて、「成長することが成功だ」という成長マインドセットにつなげる学びの場面。

(ク) 大学入学試験の得点だけを意識した視野の狭い受験勉強に注力しない。

生徒自身が興味・関心を活かして学び、創造力や問題解決に必要な柔軟な思考力、豊かな人間性等を主体的に学ぶ取組に注力する

(ケ) 研修旅行 探究学習の延長にある。

そこにしかない“ホンモノ（ひと、もの）”に五感で触れる。教室ではできない学びを自分たちで創造する。

どこに行って、何をして、何を学ぶか出会いや体験にチャレンジする学び

(コ) 教育課程

1年次 週34単位

(「総合的な探究の時間2単位」、学校設定教科科目「協創基礎」2単位)

2年次 週33単位(「総合的な探究の時間2単位」)

3年次 前期週33単位(「総合的な探究の時間2単位」)

後期週29単位とし学校という枠にとらわれず、主体的に社会に出て活動できる時間を設定する。

(サ) 施設設備

学習スペース L-pod (エルポッド)

16m×16mの広い空間 机、イスは可動式

壁が全てホワイトボード

4つの普通教室サイズに区切ることも可能

多様な形態がとれる新しい学習空間で、「生徒の数と同じ数の学びと進路がある」という考えのもと、生徒自身が設定した目標に向かって、自分に適した方法で学ぶスタイルを生徒と教員で創る。

ホームルーム活動は生徒80名と複数の担当教員で行う。

(シ) 校章作成プロジェクト 未来の学校の姿を想像・創造

生徒が開建高校の特色を表せるような校章を創りに参画する。

デザインのプロフェッショナルパナソニック

デザイン京都と協働

(ス) 入学者選抜について

グループワーク (30分程度)

○か×かといった決まった正解がなく、多様な価値観の存在が認められる時代では、みんなで考え、悩んで創り出していくことが必要
困難な状況にも協働して立ち向かってほしい

評価の観点

協議への参加意欲や姿勢、態度

得意・不得意に関係なくグループワーク活動に意欲的に取り組む姿勢
グループワーク後の文章作成(30分程度)

グループワークを振り返って、良かった点や反省点等

入学後、自身にとっての学びのあり方、及び開校での教育活動に対する意欲
集団面接(20分程度)

活動実績報告書や入学後の希望についての質問に口頭で答える

(セ) 広報活動

令和4年9月17日(土) 学校説明会を実施

(ソ) 準備室の設置

室長 指導主事 教頭 主幹教諭 室員(教諭5名)

室員(教諭)の授業持ち時間数を減じ開校準備のための業務時間を確保。

(タ) 普通科改革事業

コーディネーターの配置

大学教授、高大連携推進室部長、企業役員で構成

運営指導委員会の設置 コンソーシアムの設置

高校学校コンソーシアム京都と協力

(5) 長崎県立松浦高等学校

ア 視察日時：令和5年2月3日(金) 13:30~15:30

イ 視察者：熊本市立必由館高等学校

教頭 坂本和歌子 教諭 清家有希(学校探究部)

教諭 中野友加里(教務部・国際コース主任)

教諭 森田 勇(学校探究部部長)

熊本市教育委員会事務局

指導課 主査 大山 法治

学校改革推進課 主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 視察概要

(ア) 松浦市(人口2万人)との連携について

・市からの支援が年間1500万円あり、検定や模擬試験、下宿及び交通費等の補助が出ている。H25年に統廃合(市内2校➡1校)。市に学校が無くなることに危機感がある。

・平成29年度より「まつナビ(課題研究)」における市職員の学校への派遣を行い、市の課題をプレゼンし、それに応じてグループ編成を行い、地域創生に取

り組んだ。（生徒が市の特産品の鰯を利用し、学校近隣のジョイフルレストランでアジフライの販売を発案。全国で松浦店のみ販売）

・学校としては、今後も市から人材や財政等の支援を受けるとともに、まつうら高校応援団（人材バンク）やまつナビサポーターの委嘱（まつナビに取り組んできた卒業生）に取り組み、生徒が学問的に地域を捉え、学びたい学問を地域の課題とリンクさせ、探究活動に取り組んでいける教育を構想している。

（イ）カリキュラム及び時間割について

○45分授業、週33時間（月水木7時間、火金6時間）を実施中。

・5、6時間目の間に掃除（15分間）を入れ、心身のリフレッシュを図っている。

・7月26日頃まで1学期。8月22日頃から2学期開始している。（39週を1単位）

・45分授業にすると教師も生徒も放課後に時間が取れる。生徒はその時間を利用し検定や部活動等に励んでいる。職員も生徒の質問を受けたり教材研究や会議等に利用できたりしている。

・45分授業の実施については、各教科での対話及び行事の精選、実施時の検討が必要となる。

・朝は朝読書10分、SHR10分を実施し5分休憩ののち授業開始。

・終礼廃止を検討中。Teamsで午後までに配信。

○水曜6限目まつナビ（学校設定科目）+水曜7限目総合的な探究の時間

・学校設定科目は各担当者が5段階評価を実施している。

・総合的な探究の時間は文章で評価。

○朝課外、夕課外は今後廃止予定。夕課外は希望者で継続していこう。

・本年度共通テスト受験者は15名。推薦で法政大に1名合格。

・今後は国公立とともに、有名私立大への進学を提案していく方向性。

（ウ）新学科設置及び名称について

○地域科学科の名称については、新聞報道で普通科廃止と掲載したことも重なり、中学校及び保護者への周知に苦勞した。名称は大切であり、中学校への説明を丁寧にしていくことが望まれる。カリキュラムから説明し、学校設定科目と総合的な探究の時間で総合型と推薦に対応し、教科で大学進学に対応しているので、両方大丈夫ということを中学校や保護者へ示す必要がある。

（エ）探究活動及び組織体制について

○プロジェクトリーダーは若手（2年目）を登用した。ベテランがバックアップする体制を構築している。主任は社会科（3年生地理と現社を担当）。担任

は無い。学校設定科目と総合的な探究の時間を担当。授業改善は教頭が担当し、研修は学校長が外部講師を招き数回実施している。

○長崎大学教授が毎週水曜日 5 時間目に来校。それに合わせて総合的な探究の時間のミーティングを実施。職員間の対話を促し、自立した組織を目指したい。

○ICTに強い若手人材がいると良い。学校活動のPR等もSNSで拡散したい。

○地域課題の解決に向けて取り組む生徒の意欲喚起に努めている。地域創生という観点のみではなく、生徒が学びたい学問を生かし、学問を通して地域を捉え、企業や団体と連携し、地域課題に取り組んでいく探究テーマに発展させていかせたい。

(6) 福岡県立八幡高等学校

ア 視察日時：令和5年2月9日（木）10：00～12：00

イ 視察者：熊本市立必由館高等学校

教頭 坂本和歌子 教諭 森田 勇（学校探究部部長）

教諭 嶋田誉志（学校探究部）教諭 大坂勇士（進路指導部）

熊本市教育委員会事務局

指導課 主任指導主事 大山 法治

学校改革推進課 主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 視察概要

(ア) 新学科（知の統合科）設置について

・八幡東区の東側に位置しているが、学区制の為、隣接する戸畑区・小倉北区から生徒募集できない。また、過去の中学校卒業生数と入試志願倍率の傾向の分析及び今後の中学校卒業生数の減少を検討した結果、学区の不平等を乗り越える必要性を痛感しておられた。そこで、新学科設置にあたり、これまでの伝統を継承しながらも新学科（通学区域は全県一区）を設置し、教科科目横断型授業と夢現∞プロジェクト（SDGs探究活動）を学校が目玉として推し進めていっていることを、我々に学校長自ら熱弁された。中学校や保護者用リーフレットとそれを生徒用にわかりやすくまとめたリーフレットを作成されていた。それらを使って新学科及び八幡高校のことを丁寧に広報活動されている印象を強く受けた。我々も中学校や保護者だけでなく、市民や生徒に対して丁寧かつ明瞭な広報活動の必要性を感じる。

(イ) 日課の工夫

- ・ 50分授業、週34時間（月火水金7時間、木6時間）を実施。
 - 6、7時間目の間に掃除（15分間）を入れ、心身のリフレッシュを図っている。木曜日はSHR無しで放課。
 - ・ 令和元年より朝課外を廃止した。それに伴い減少した学習時間を年間10日間の長期休業短縮
 - ・ 7時間授業を週4日実施することで補填した。
- これにより、授業に対する集中力、従来以上の授業・学習の充実、朝に追われない生活リズムの獲得ができた。
- ・ 6、7時間目の間に掃除を入れることは生徒総会から上がってきた。学校行事の内容や実施等も含め、教師の想いだけでなく生徒の意見も取り入れる雰囲気を感じた。

(ウ) 学びの特徴

- ・ R4進学実績は国公立大157名、私立大280名、大学校2名（北九州市立大34名、九州工業大学23名は日本一の合格者数）。総合型・推薦による進学割合は約2割。しかし、学力偏重ではなく、教科科目横断型授業や探究活動を通して未来を創る力を身に付けていくために、学校全体で、主体的・対話的で深い学びを進められている印象を受けた。
- ・ 夕課外については、週4回（木曜日以外）、放課後90分間実施している。課外費を集めている。勤務時間外。実施教科は1、2年生国数英、3年生国数英社理。強制ではないが、3年生は公務員、就職希望者以外の9割が受講している。1、2年生も希望者に実施している。現在は30～40名が受講中。難関大向けということで募集し、課外の内容は、模試の過去問を解き解説まで。
- 1教科8回×3教科。16:45開始。18:15終了。

(エ) 教科科目横断型授業について

- ・ 1つのテーマに関して複数教科・科目で捉え、多角的な考え方を育む授業。多岐にわたる学問領域が複雑に関連し合い成立している現実世界に対して、広い視野から、解無き問いに向かう姿勢を育てる。年間計画の中には位置付けていない。必要性を感じた時、各教員が連携して取り組む。今年度は1コマ実施した。（R4.7月に3年生対象）。主たる教科科目に横断する教科科目が入る。
- 例：現代文の山月記における「月」の役割に関する講義（国語科）・・・10分
李徴と袁慆の出会いと別れの風景（社会科）・・・15分
学習後の感想文を書く（国語科）・・・20分 ※導入3分、まとめ2分
- ・ 打合せの時間の確保等の配慮は無く、休み時間や空き時間に職員室等で教員同士の雑談の中から生まれると説明された。生徒用リーフレットには週1回年間3

5回とある。教師の力量・熱量により成り立っている。八幡高校の教科指導の良き伝統と対話及び教師の高い専門性を感じた。

(オ) 総合的な探究の時間、普通科「夢現∞(むげん)プロジェクト」と理数科「課題研究」について

- ・普通科は「夢現∞プロジェクト」として、北九州SDGsの会員として、探究活動の中でSDGsのアクションプランを考察している。

- ・理数科は「課題研究」として大学や近隣施設と連携した実験や研修に取り組んでいる。

- ・年間計画に沿って、1年次に探究活動の基礎を学び、1学年末にゴールに対する興味関心のアンケートを取り、学年を25班(6～9人)に分ける。決定した班の移動はさせない。

- ・2年次では、各班で班長、副班長を決め、班ごとにテーマを決定する。

- ・3年次では2年次で探究した内容をまとめ深化させ、個人の進路に応じた探究活動を行う。

- ・プロジェクトリーダーの先生が25班を統括。各班の担当教師が班でGoogle classroomを利用し、提出書類のテンプレート(計画、スライド、レポート等)を生徒とやりとりし、管理する。

- ・班長は教師とともに指導案を共有して班ごとの学習を進めていく。班のリーダーの資質は大切。

- ・うまくいかななくてもそれも学びとなっている。コーディネーターが外部との連携を全て担っている。企業等への依頼文書発送、外部へのアポイントメント等。アンケートやフィールドワークについては、活動計画書を生徒が作成し、担当教師が起案、松尾先生がチェックし把握。コーディネーターが発送する流れが確立されていた。実施の際も、生徒がGoogle classroomで安否確認(開始と終了)を担当教師へ行うようにしていた。このことについては、非常に参考になった。

- ・コーディネーターの採用は不可欠であると感じる。人件費の問題はあるが、教員が兼任するのは難しい。

- ・11月に外部から審査員を招いて、校内で発表会を実施。10月に選考会を行って、優秀3班を決定。最優秀班は外部への発表会へ参加することも、年度当初に生徒へ周知していた。(調査書等への実績作りにも利用可能なためということを生徒にも伝えている。)発表会では、選考会の段階から、1年生が2年生の発表を見ることにより、次年度の自分たちが取り組むことが明確になっていると感じた。活動の見通しが持てることは非常に有効である。

(4) 京都市立開建高等学校

ア 視察日時：令和5年3月20日（木） 15：00～17：00

イ 視察者：熊本市立必由館高等学校

教頭 坂本和歌子 教諭 森田 勇（学校探究部部長）

教諭 古川かおり（学校探究部） 立野隆一教諭（学校探究部）

熊本市教育委員会事務局

指導課 主任指導主事 大山 法治 指導主事 西村良記

学校改革推進課 主任指導主事 佐藤 宏一

ウ 視察概要

(ア) 高校改革に向けての取り組みについて

①開設準備室及び校内校務分掌組織

- ・開設準備室とは別に校務分掌で改革推進グループがある。
- ・開設準備室は20～30代の若手が抜擢されていた。（教頭44歳）
- ・準備室の先生方は週4時間担当（教科3、総探1）
- ・担任も校務分掌。学年付き副担任が各学年2～3名（熊本市立中と同形態）。

一人一分掌

- ・開設準備室は委員会3，学校3，事務方2で構成。コア会議（室中心）、拡大会議（コアに主任等を加える）を開催。年間90回実施。
- ・市立高校9校で異動。教職員が定数より多いため、多い分は市が負担。
- ・委員会からやることリスト（Excel）で可視化しチェック。職員の開校への意識も向上。
- ・校舎デザインと教育目標に取り掛かる。教頭を中心に目指す教育を形作り、教職員が具体化

②目指す教育の実現に向けての取り組みについて

- ・目指す教育のコンセプトは「やってみたいをやってみる」
- ・進学校を目指さない。今は進学校。（国公立14、関関同立26）就職1，公務員50
- ・教育課程は3年前に着手。標準単位に収めた。教科書が終わらない/難しいとの声があったが管理職や準備室が熱心且つ丁寧に説明や研修を行い未来志向で進めていた。
- ・準備室の先生方が他の先生方に目指す授業づくりや新校舎を想定した授業をやってみせ研修し、訴えかけ続けることにより職員の意識も大きく変化した。
- ・終日研修に費やす日もあった。7月には教師を生徒役にして目指す授業を研修。→変化あり。
- ・文系、理系は無くして選択。社会、理科が裏コマ。なんでも生徒に任せて良いのかという声はあるが、個別の進路指導を丁寧に行うことにより対応を目指す。
- ・3年生はやりたいことをできる時間を増やすために単位数を減らした。

- ・前後期制。夏休みの減少等の意見は出たが抵抗は少なかった。（塔南高校は3学期制）

- ・単位数は違うが、チャイムの時間は揃っている。

- ・50分7時間授業

③進路指導、入試、広報、校則、校章/校歌について

- ・進学実績を問わない。出口補償は考えていない。「この大学に行きなさい」を言わない。

生徒が「やってみたいをやってみる」を応援。進学校を目指していない。

- ・前期入試ではグループ面接を実施。学校側の想定をはるかに上回る生徒の様子が見られた。

- ・30分グループ面接、30分評価。面接時間を指定。午前中、午後と受験生の登校時間を分けた。

- ・広報に一番時間をかけた。

- ・委員会の予算で広報動画作成

- ・京都の入試システムによるが、倍率は前期（熊本で言う前期）5倍、中期（共通）3倍だった。

- ・以前よりも県内外の多地域からの受験者が増加。（今後分析が必要）

- ・生徒指導関係の校則（生徒心得）は4行しかない。「～をしない」は無い。

- ・制服無し。ただし、式典時等は標準服を着用を義務化。体育があるから今日はジャージ等。

- ・茶髪、ピアスも指導しない。ピアスは体育では危険だから外す等の指導。

- ・納得のいく生徒心得を考えていつている途中。

- ・現塔南高生（23年生）と開建高校生（1年生）が混在。23年生には理由を持って考えていくことと塔南高校生としてのプライドを持った生活を目指してもらおうよう指導する。

- ・23年には心得等を変えていく過程も生徒にとっての学びや成長になると教師側が認識している。

- ・校章のデザインや校歌の歌詞も生徒がワークショップ等を実施して考えた。

- ・デザインや歌詞にどんな思いを持って作るかに時間をかけた。

- ・校章はパナソニックデザイン京都が具体化、校歌は京都市内の音楽学校の作曲担当に依頼。

(イ) 開建高校の学びの特色

①New Horizon Day

- ・「やってみたいをやってみる」時間。
- ・体育館施設の開放（バドミントン大会や部活動生の他種目の参加）やアイドルグループを普及させる会などの企画を生徒が応募し、教師が検討ののち、生徒が運営に着手。
- ・基本は生徒が企画運営。今年度は教師が企画したものもある。
- ・参加は任意。参加せず帰宅する生徒もいる。
- ・年間3回実施。（今年度はコロナの為2回）放課後90分（15:30-17:00）部活動は一旦停止。部活をするならそのあとで実施可。
- ・感想は概ね良好。課題は部活動生の活動希望があったことや今後は生徒会で運営させたかった。
- ・生徒たちの夢中になれる活動を今後も課外活動の中で取り組んでいく方向性は不変。

②ボランティア活動

- ・なぜボランティアをするのか？社会に繋がることで、視野を広げ仲間と社会に貢献する。
- ・防災ボランティアリーダー。防災について生徒たちが中心となり考えていく。
- ・避難訓練を生徒が計画。

③未来デザインプログラム（総合的な探究の時間）

- ・インターンシップではなく、職業についてのインタビュー。働く、未来を創るとはどう行くことが生徒が考える機会。課題をもらうだけでなく、違うやり方や自分ならではのアイデアを考えさせることを目指す。
- ・1年前期で基礎スキルを獲得。1年後期で京都探索や若者就職支援センターやコンソーシアムのメンバーに依頼してキャリア教育を実施。
- ・2年生から3年生にかけては、良い意味で生徒に任せる。生徒自らが大学や企業等へアポをとる。
- ・基本は生徒が出ていく。来校しての講話は数年前に実施したが、講師等の謝礼や交通費は無い。
- ・生徒の様子がどうだったのかを大学企業等から聴く機会を実現し、意見や聴きたいという要望有り。
- ・外部への訪問しに行く時間は教育課程内ではなく、放課後。12月に午前中授業を実施。開建高校では、2コマ連続+時間割変更をして教育課程内で行くことを想定中。

④コアスキル

- ・16のコアスキル。（生徒に付けてほしい力）を設定。4つの分野（解釈、分析、探索、表現）
- ・コアスキルカードを生徒へ配付。
- ・先生方に意識した授業づくりを依頼。教科と連動し、今日はこのコアスキルの獲得をしていることを意識した授業を作る。

エ 所感

「協創者」、「やってみたいをやってみる」等のコンセプトが明確で徹底されていると感じた。そのコンセプトのもと、コアスキルや教育課程、校舎の設計等がなされており、新しい学校を創っていくという準備室や改革グループをはじめとする教職員の一体感があつた。準備室の設置や、説明だけでなく先生方に授業公開を実施し、「やってみせる」研修を数回重ねて100名近い教職員の共通理解を図っている行動力と若手を中心とした組織の機動力に熊本市教委と必由館高校との課題を痛感させられた。京都市と熊本市の違いがあるため一概には比較できないが、今後、未来志向でこの高校改革を進めていくために私たちにできることを洗い出し取り組んでいきたいと思う。

ウ 視察概要

学校改革プロジェクトチームの取組

(1) カリキュラムの検討

日時 令和4年12月20日（火）15:30～17:00

目的 令和6年度スタート予定の新学科について、これまでの校内議論と教育委員会における報告内容等を確認し、今後の教育課程編成に向けた方向性について整理する。

検討事項

- ①「生活デザインコース（仮称）」の方向性（進路想定、教育内容等）について
- ②「文理コース（仮称）」の方向性（進路想定、2年次以降の類型等）について

(2) カリキュラムの検討

日時：令和5年2月13日（月）15:00～17:00

目的：運営指導委員会、コンソーシアム会議及び各研修の内容等を踏まえ、教育課程編成を含めた学校改革の方向性について整理する。

検討事項

- ① 学科改編の特色（コンセプト）について
 - ※必由館高校が大事にすること
- ② 特色を最大化するために必要な教育課程について

※カリキュラム、学校行事、類型ほか

③ 教育課程編成をはじめとする今後の準備スケジュール（プロセス）について

(3) スクール・ポリシー策定に向けて

日時：令和5年3月28日（火）15：00～17：00

目的：スクール・ミッションは学校教育目標を実現するために必要な教育活動の方針である。これをもとにスクール・ポリシーを策定していくことを踏まえ、教育委員会が示すスクール・ミッションの案について学校としての考えを整理する。

検討事項

- ① ミッションを示すことで、学校の教育活動が見えてくるようなものにする。
- ② 中学生やその保護者が見ることを想定し、分かりやすく、見やすい文言にする。

V 評価分析

1 成果目標の達成状況

【実施計画書(普通科改革支援事業)別添2】

ふりがな	くまもとしりつひつゆうかんこうとうがっこう
学校名	熊本市立必由館高等学校

令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業） 目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値(年度)
a	<p>(成果目標)</p> <p>少人数編成による学習の効果として、多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力が、身に付いたと肯定的に回答した生徒の割合を見る。 ※少人数学級は令和6年度入学生より実施</p>					
	AiGrow 学校コンピテンシーの スコア	最大値	80			
		最小値	34			
		平均	57			
<p>目標設定の考え方:少人数編成による学びを展開し、効果検証として「他者に関する寛容性」、「自己に関する自己効力」、「認知に関する創造性」等の資質・能力の伸長を経年経過及び学年別等において調査する。</p>						
b	<p>(成果目標)</p> <p>熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習を実施することにより、社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力が、身に付いたと肯定的に回答した生徒の割合を見る。</p>					
	AiGrow 学校コンピテンシーの スコア	最大値	78			
		最小値	28			
		平均	55			
<p>目標設定の考え方:地域・社会の課題について探究的に学ぶことを通して、「認知に関する課題設定」「自己に関する興味」「コミュニティに関する地球市民」等の資質・能力の伸長を経年経過及び学年別等において調査する。</p>						
c	<p>(成果目標)</p> <p>各教科及び探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力が、身に付いたと肯定的に回答した生徒の割合を見る。</p>					
	AiGrow 学校コンピテンシーの スコア	最大値	81			
		最小値	23			
		平均	56			
<p>目標設定の考え方:探究活動等においてデータを科学的に分析したことにより、「認知に関する論理的思考」「他者に関する表現力」等の資質・能力の伸長を経年経過及び学年別等において調査する。</p>						
d	<p>(成果目標)</p> <p>教師・生徒が主体的に学ぶ授業を実施したことにより、自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力が、身に付いたと肯定的に回答した生徒の割合を見る。</p>					
	AiGrow 学校コンピテンシーの スコア	最大値	78			
		最小値	32			
		平均	58			
<p>目標設定の考え方:主体的に学ぶ授業を実施したことにより、「自己に関する個人実行力」「自己に関する決断力」「自己に関する成長」等の資質・能力の伸長を経年経過及び学年別等において調査する。</p>						

令和5年度は複数回調査を実施し、データの比較から生徒個人及び学校全体としてのコンピテンシーの変容を分析し、伸長につなげる。

2 Ai GROW（評価分析ツール）の概要

本委託事業における取組をとおして、生徒及び教員の資質・能力の変容や、教育活動の教育効果を正確に測定し、可視化することで、客観的な評価分析を行うため、以下のツールを活用した。

名称	Ai GROW
提供事業者	Institution for a Global Society 株式会社（以下「IGS（株）」）
受検対象者	本校1学年生徒 357人、教員 70人
当該ツールの特徴	IAT（潜在バイアス測定）技術を活用した気質診断と 360° コンピテンシー評価に AI の補正を加え、最大で 25 のコンピテンシーを定量的に測定することができ、本委託事業による成果を科学的な根拠に基づき検証することが可能となる。
計測内容	本委託事業の成果目標として設定している指標を検証するため、以下の内容について計測を行った。 ○気質（5項目） <ul style="list-style-type: none">・内向性⇔外向性・保守性⇔開放性・平穏性⇔繊細性・独立性⇔協調性・自由性⇔自律性 ○コンピテンシー（15項目） <ul style="list-style-type: none">・認知系：課題設定、解決意向、論理的思考、創造性・自己系：個人的実行力、自己効力、成長、興味、耐性、決断力・他者系：表現力、共感・傾聴力、寛容、影響力の行使・コミュニティ系：地球市民・その他：主体性、協働性、リーダーシップ、創造的思考力、協働的思考力

※実施結果については次項以降参照

《令和4年度実施結果》

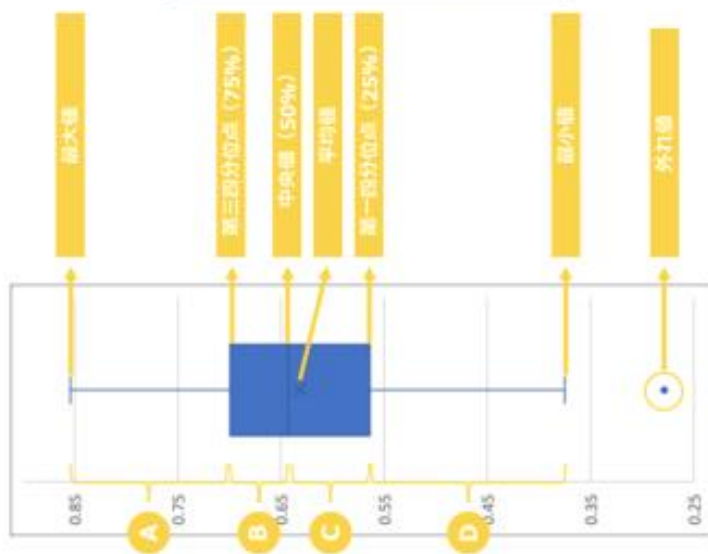
本委託事業をとおして身につけさせたい資質・能力（＝成果目標）を、「学校コンピテンシー」と定義し、以下のように計測・分析を行った。

学校コンピテンシー

	分野	コンピテンシー
①少人数によるクラス編制の実施による効果 →多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力		
(1)自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容する態度が持てる能力	他者	寛容
(2)何らかの課題に直面しても、「自分ならできると自信を持って物事を進めることのできる能力	自己	自己効力
(3)他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力	他者	影響力の行使
②「学校設定科目必修学」の新設 熊本市役所(各課・室)、国内外NPO及び民間事業者等、地域社会の資源を活用した課題探究型学習の充実 →社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力		
(1)状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力	認知	課題設定
(2)興味のない分野のことであっても、情報を積極的に収集することのできる能力	自己	興味
(3)自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力	コミュニティ	地球市民
③探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成 →分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力		
(1)道理や筋道に即して物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力	認知	論理的思考
(2)自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力	他者	表現力
④教育効果を外部に還元するシステムによるエージェンシー・スクール →自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力		
(1)何らかの課題に直面しても、「自分ならできると自信を持って物事を進めることのできる能力	自己	自己効力
(2)自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	自己	個人実行力
(3)自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	自己	決断力
(4)どんな難題に対しても「自分の成長につながる」と信じて積極的に取り組むことのできる能力	自己	成長



【参考】箱ひげ図の見方について



■ 箱ひげ図の基本

- ・ 箱ひげ図はデータの分布状況を見るためのグラフです。
- ・ A～Dの各区分に25%ずつのデータが含まれています。
- ・ BとCの区分を合わせたエリアに全体の50%のデータが含まれています

■ 各区分の範囲の長さ

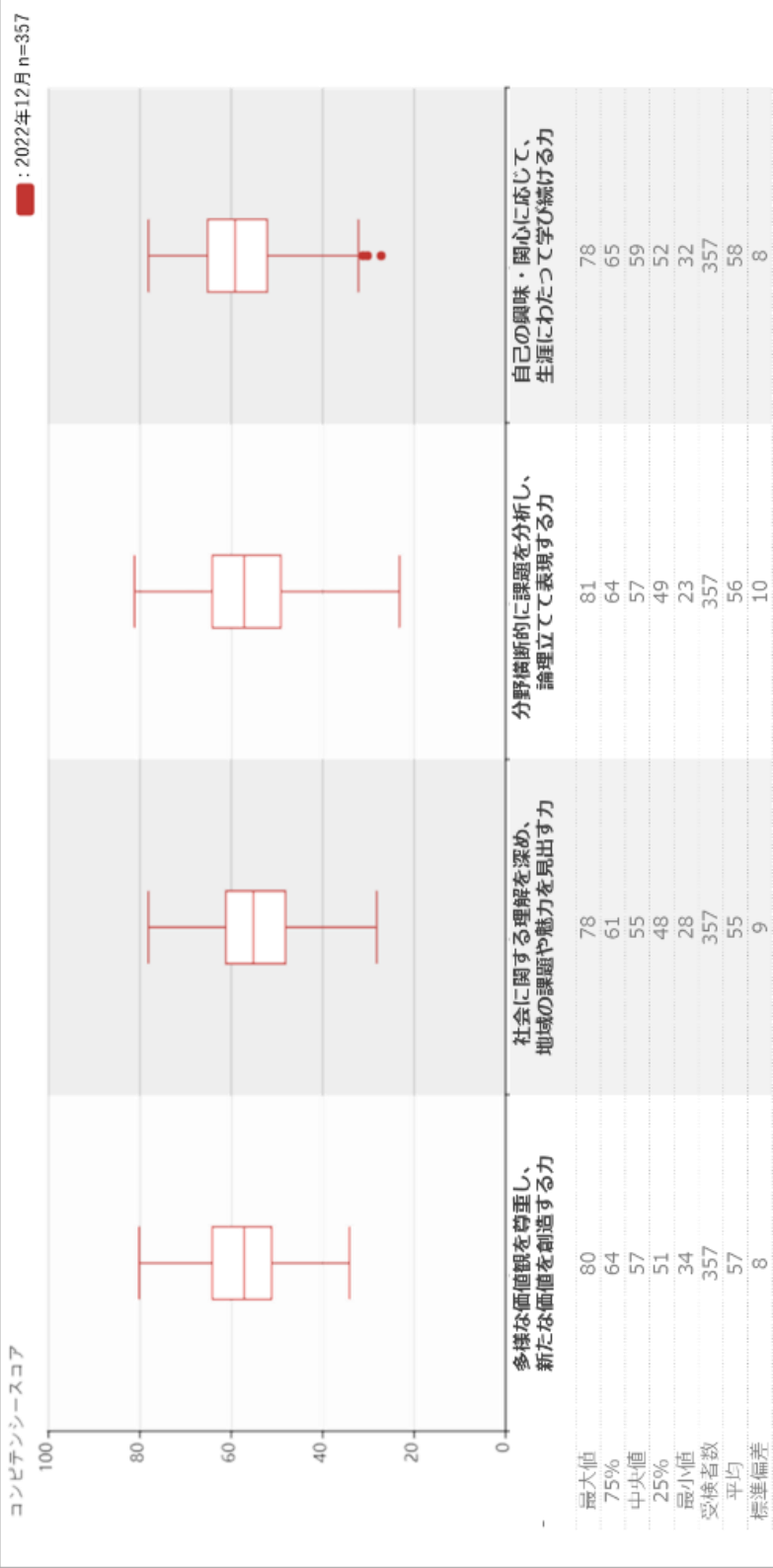
- ・ 各区分の範囲の長さがデータのばらつきを意味します。

■ 外れ値について

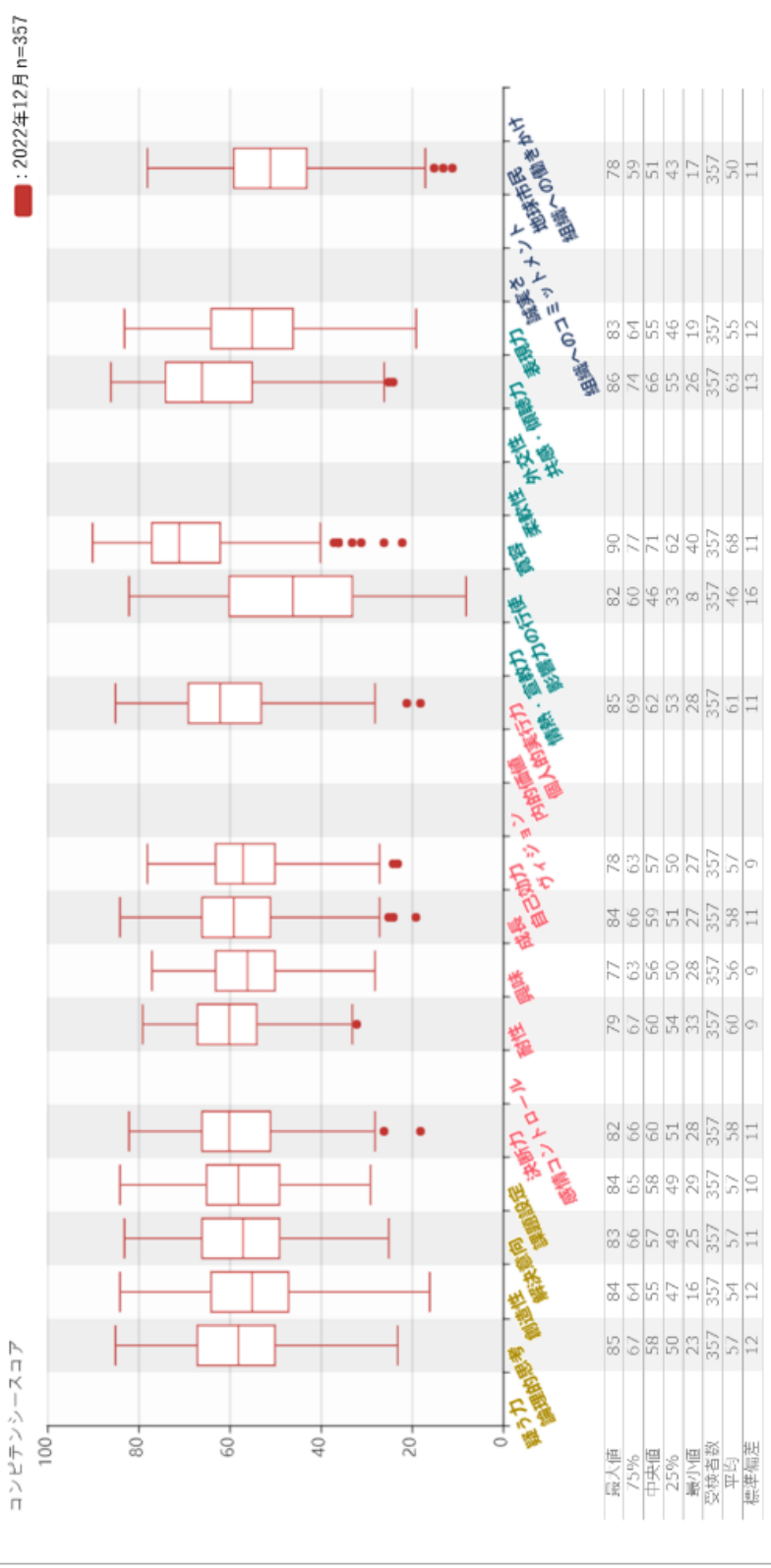
- ・ 外れ値は集団のデータと比較して高すぎたり、低すぎたりする場合に、そのデータを点でプロットしたものです。

①生徒の受検結果

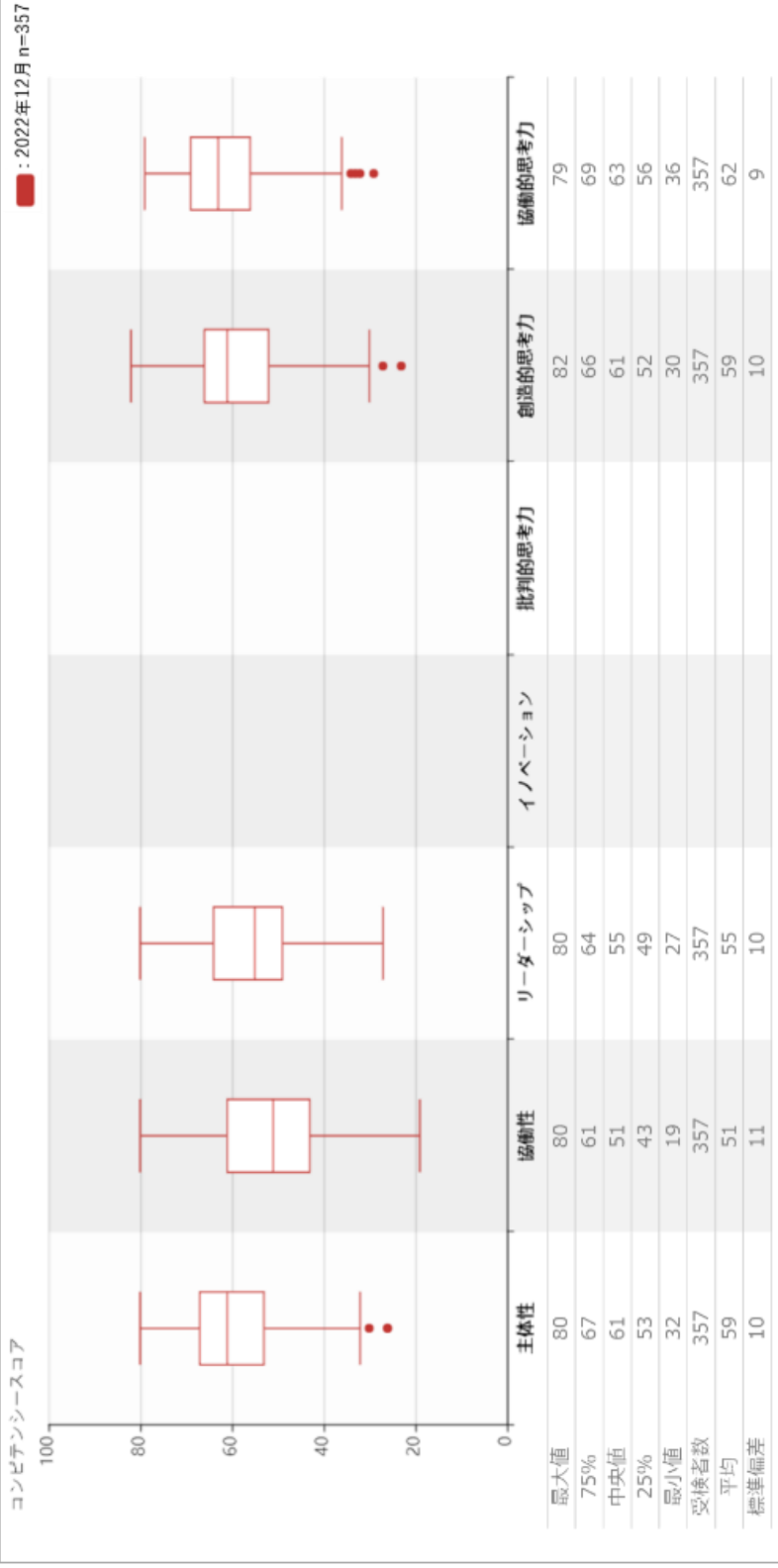
学校コンピテンシー分布：1年生



コンピテンシー分布：1年生



その他のコンピテンシー分布：1年生

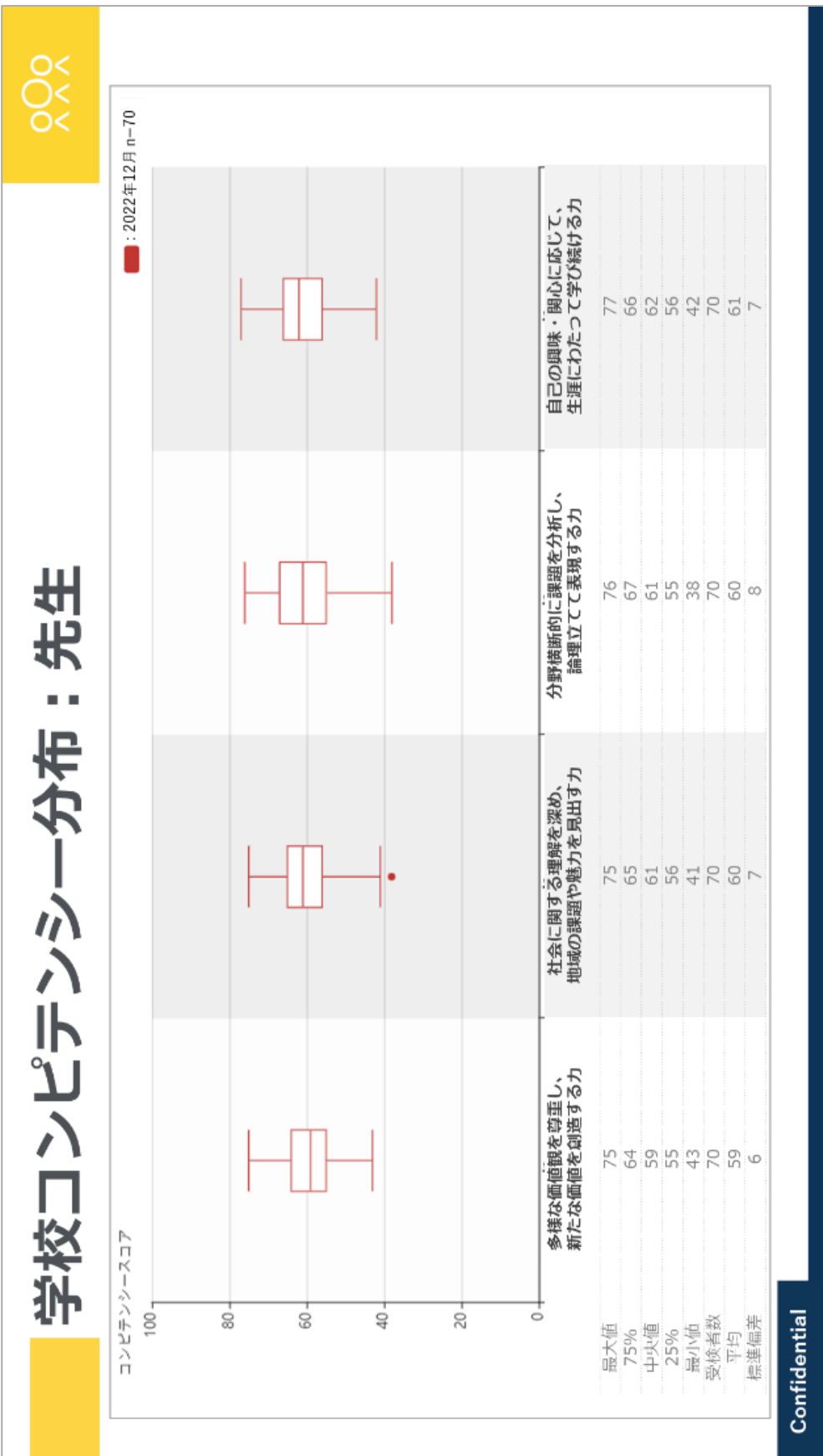


受検結果サマリー（生徒）



- ▶ 学校コンピテンシーは4項目とも差が無いなか、一番分布が大きいのは「分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力」であり、その要素である「論理的思考力」「表現力」両方の分布のバラつきが表れています。このコンピテンシーを伸ばすためには論理的思考のプログラム実施やプレゼン発表をすることが考えられます。また、分布が大きいことから、効率的に伸ばすためには底上げのための働きかけが適していると考えられます。
- ▶ コンピテンシーを見ると「寛容」「共感・傾聴力」の中央値が他と比べて高く、一方で
- ▶ 「影響力の行使」の中央値が低く分布も大きくなっています。多様性のある環境の中で他者の許容や尊重の能力はありますが、自分の考えを伝えつつ相手と協働する力を伸ばすことが必要だと考えられます。このためには多様性のあるグループで、同じ目標を達成するような取り組みが有効となります。

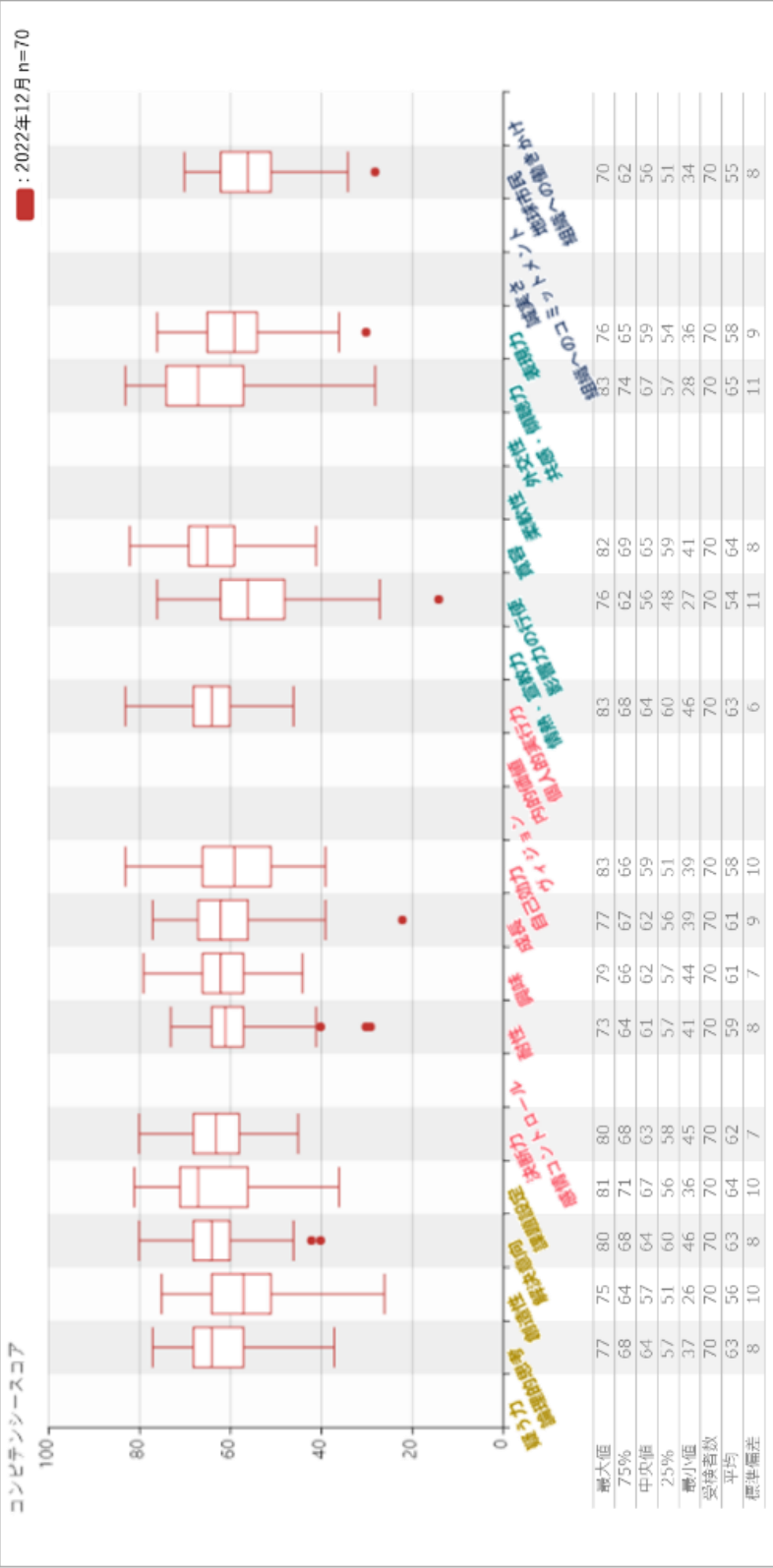
②教員の受検結果



Confidential



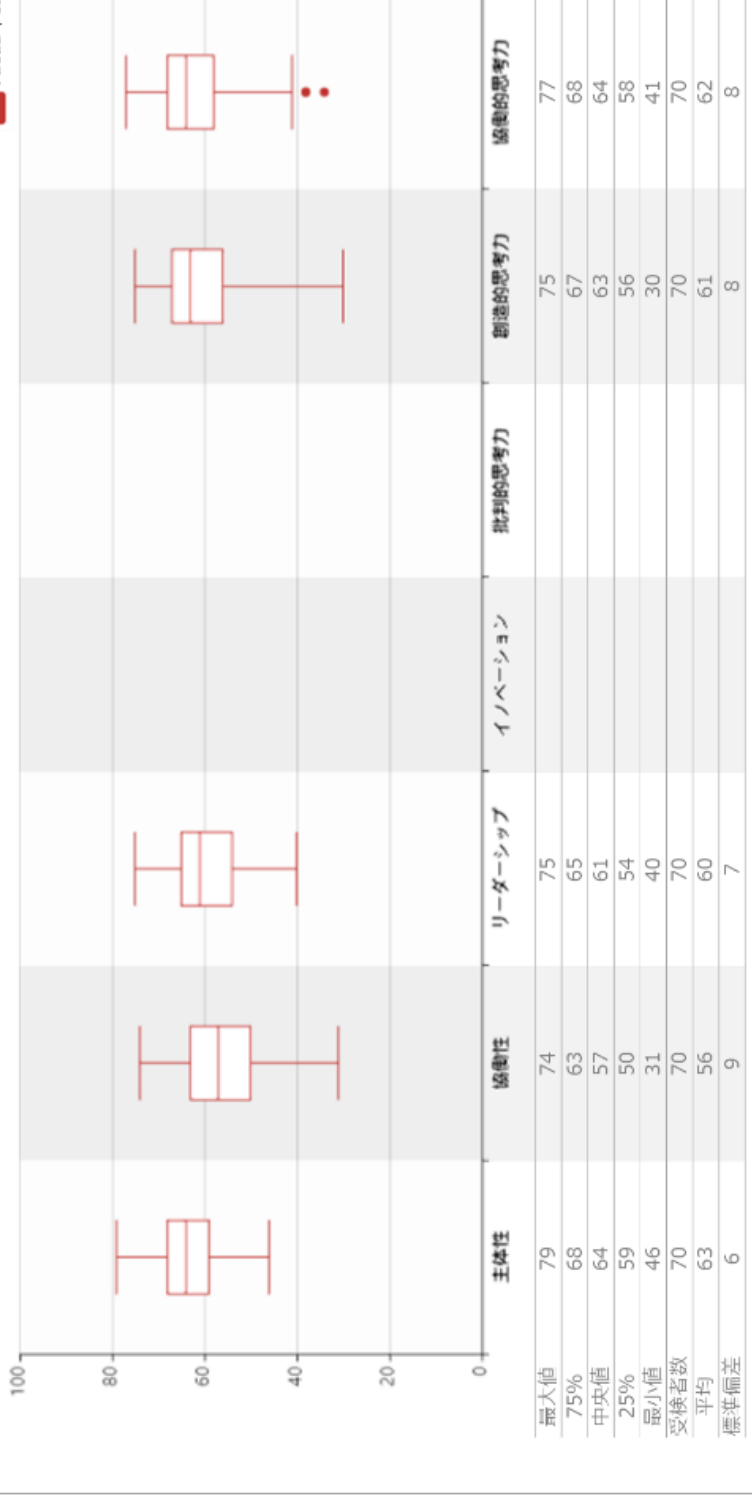
コンピテンシー分布：先生



その他のコンピテンシー分布：先生



コンピテンシースコア ■ : 2022年12月 n=357



受検結果サマリー（先生）



- ▶ 学校コンピテンシーを見ると、高いスコアで分布も小さく、先生の能力が揃って発揮されているように見受けられます。
- ▶ 要素となるコンピテンシーをみても、比較的高いスコアでまとまっている傾向があります。その中では「決断力」「興味」「個人的実行力」が高い傾向があります。
- ▶ 生徒同様に「寛容」も高い傾向にありますが、他と比較すると「共感・傾聴力」の下方に伸びた分布に加え、「創造性」「影響力の行使」の中央値が低く、また分布も下方に伸びています。このことから、多様性の受け入れはできていないもの、協働の中で相手を深く理解したり、自らアイデアを出して一緒に物事を進める機会が少ないことが伺えます。



コンピテンシー 育成事例

年間を通じた取り組み（長期施策）

「創造性」の育成

グループピングを意識して組む

（4人、男女ミックス、多様性、単元毎、心理的安全性を考え同質性も取り入れる）

「自己効力」の育成

みんなが見えていないところを、**毎日先生が帰りの会で1人をほめる**

（常に先生が見てくれているという安心感と代理成功体験）

「共感・傾聴力」の育成

男女仲が良く心理的安全性がある状態で、グループ活動を行い、**意見を否定せずほめ合う先生役や1年生役など相手の立場になりきる活動も実施**

測定期間内の取り組み（短期施策）

「論理的思考」

市で取り入れたプログラムや思考ツール、ICTを活用し**結論を導いた理由やプレゼンする時間**を設ける

「個人的実行力」「決断力」

今までにやったことのない役割（例：新イベント立ち上げ、縦割り活動のリーダー）を**1人1人主体的に行っていく活動**

3 評価分析を踏まえた次年度の取り組み

今年度の調査結果から、生徒のコンピテンシーについては、「論理的思考力」や「影響力の行使」の分野を伸ばしていく必要性がわかった。

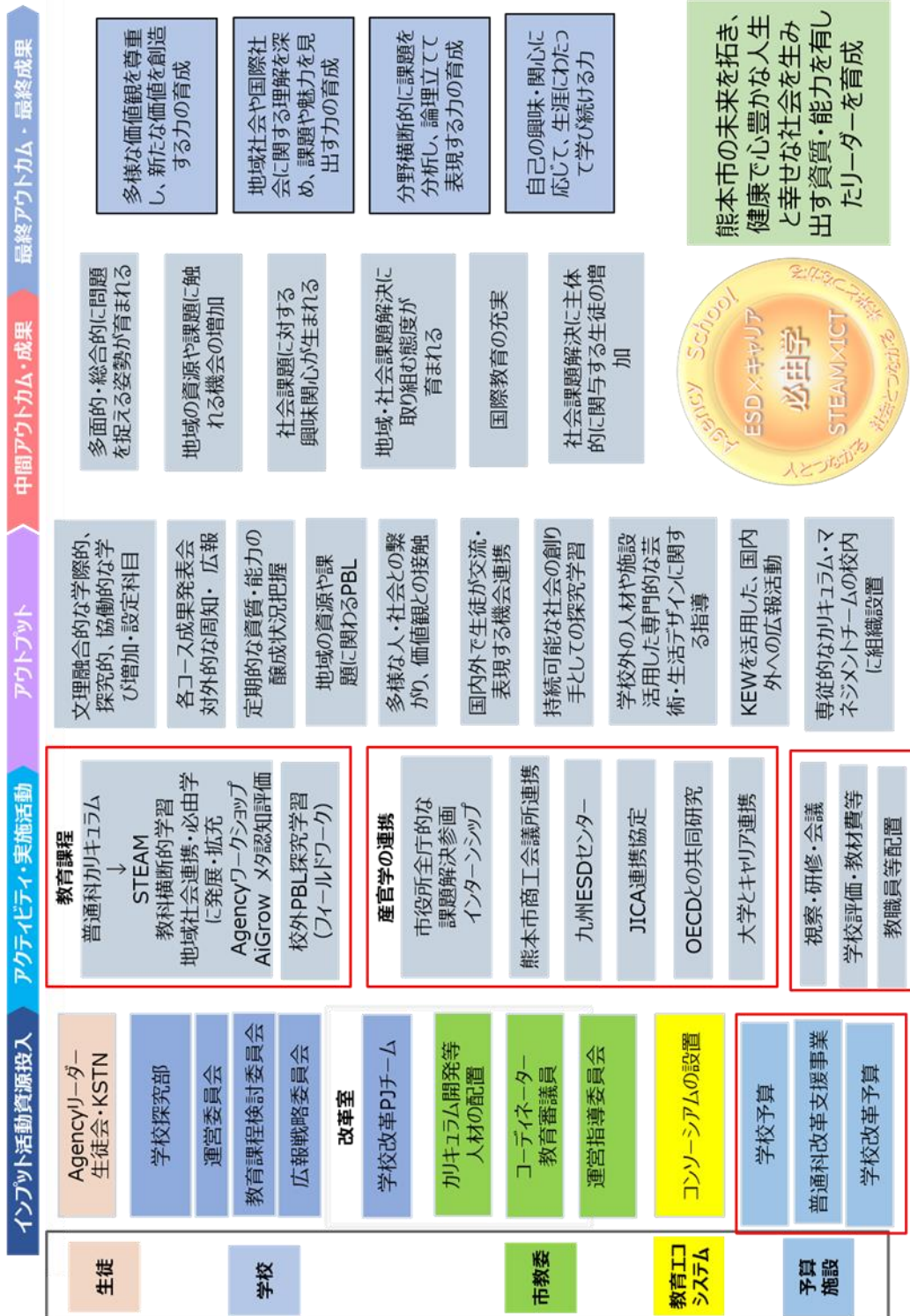
そのために、次年度は、「論理的思考のプログラム実施」や「プレゼン発表」をするとともに、総合的な探究の時間を通じて様々な分野の外部講師による講演や授業を体験することで生徒たちが多様な考え方に触れ、知的好奇心を持つ機会を設ける。また、熊本市役所と連携し、各部署の仕事を理解することで、地域社会の一員としての自覚を促すなどの取組を行う。また、自分たちの学んだ内容について、クラスや性別等に捉われない様々な形態のグループで意見をまとめ発表する取り組みを行い、共通の目標達成に向けて共同して取り組む体験を増やしていく。その他、各種学校行事で多くの生徒が活躍できるよう、学年集会やLHR活動を通じて生徒の自己効力を高めるよう教員から働きかけを行う。

V 実施事業一覧

項目	内容	対象	日程
生徒講義	講義「身体運動を科学する・スポーツと健康領域における職業観」 熊本保健科学大学准教授 松原誠仁氏	生徒	11/22 (火)
生徒講義	講義「ICTを活用した映像表現力を身に付ける」 (株)映gent Ro.man 中川典彌氏	生徒	12/2 (金)
生徒講義	講義「Ai GROWについて」 スクールコーディネーター 余島純氏	生徒	12/14 (水)
運営指導委員会	第1回運営指導委員会	運営指導委員	1/18 (水)
職員研修	職員研修「これからの芸術教育」 東京芸術大学 教授 佐野靖氏	芸術科職員	1/18 (水)
職員研修	研修「学科の特徴を生かしたカリキュラム編成」 新渡戸高校 山本崇雄氏	教育委員会 職員	1/20 (金) ～21 (土)
生徒講義	講義「高等学校改革について（座談会）」 どぎゃん！高校改革～高等学校の今と未来～ 熊本大学 特任教授 前田康裕氏 新渡戸高校 山本崇雄氏	生徒 職員	1/21 (土)
職員研修	職員研修「これからの芸術教育」 武蔵野美術大学 教授 三澤一実氏	職員	1/26 (木)
先進校視察研修	長崎県立 松浦高校視察訪問	教育委員会 職員	2/3 (金)
コンソーシアム	第1回コンソーシアム	コンソーシアム 構成員	2/8 (水)
講演	講演「ESDカリキュラム」 福岡教育大学 教授 石丸哲史氏	運営指導委員 職員	2/8 (水)

生徒講義	講義「医療とDX」 Y'sReading 代表取締役 熊本大学医学部 教授 中山善晴氏	生徒	2/8 (水)
先進校視察 研修	福岡県立 八幡高校視察訪問	教育委員会 職員	2/9 (月)
生徒現地研 修	「サステイナブル ブランド国際会議」 2泊3日(東京)	教育委員会 職員 生徒	2/14 (火) ~16 (木)
運営指導委 員会	第2回運営指導委員会	コンソーシアム 構成員 運営指導委員職 員	3/7 (水)
コンソーシ アム	第2回コンソーシアム会議		
講演	講演「学科の特徴を生かしたカリキュラ ム編成」 東京大学 教授 鈴木寛氏		
コーディネ ータ研修	コーディネータ研修・フォーラム等	教育委員会	3/9 (木) ~11 (土)
先進校視察 研修	京都市立 開建高等学校視察訪問	教育委員会 職員	2/20 (月) ~21 (火)
生徒現地研 修	生徒探究活動 熊本市内フィールドワーク 「探究のタネを探す」	生徒 職員	3/3 (金) ~4 (土)
生徒講義	講義「三味線の魅力に迫る」 東京芸術大学卒 津軽三味線奏者 山下靖喬氏	生徒	3/7 (火)

熊本市立必由館高等学校 新学科カリキュラムマネジメントロジック案 R5～R6年度



【熊本市立必由館高等学校】地域社会学科（令和6年度設置予定）

教育理念：自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校を目指す

革新的な教育活動の実践

《育成する資質・能力》

- I 多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- II 社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- III 分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- IV 自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

《特色・魅力ある先進的な教育の取組》

①少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組み

多様な生徒へのきめ細かな指導、支援を実現1クラス30人または35人の少人数によるクラスを編制(令和6年度入学生から)。生徒が主体的・協働的に学ぶことのできる授業づくり

②「学校設定科目 必由学」の新設

持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育み、「Well-being」としての社会情動的な能力などを醸成

③熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実

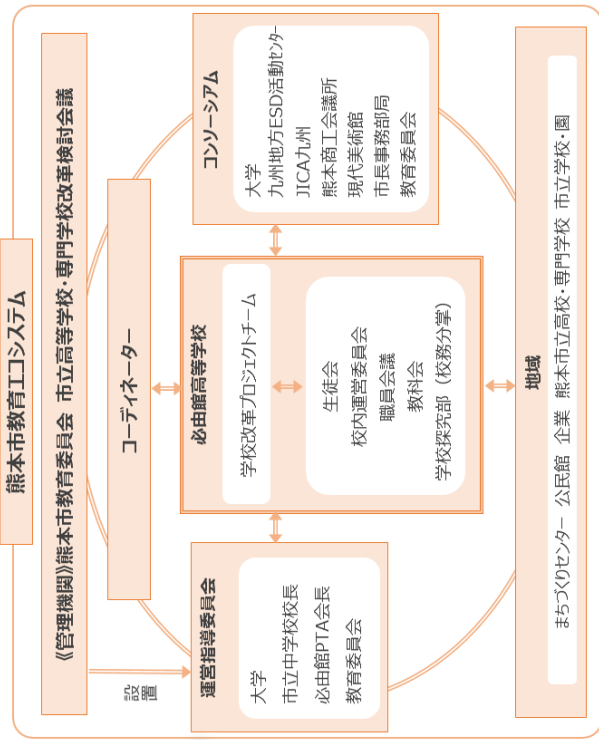
市役所の全面的な協力体制のもと、市立ならではの教科等横断的・探究的学習

④探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成

ICTを活用することにより、課題解決に向けデータを科学的に分析・検証し、表現する力を育成

⑤生徒・教師が主体的に学校づくりに参画するAgency School

生徒が授業づくりや校則の策定・見直しなど、生徒が学校創生に参画教育実践及び教育的効果を積極的に国内外に還元するとともに、自らの学びは自らが創る Agency School



令和4年度の目標

- 職員研修・生徒研修の充実
- 学校設定教科設置に向けた探究的学習の充実
- 外部機関との連携体制の構築
- 教育課程の開発研究
- 先進校等に学ぶ
- 生徒の資質・能力の測定

令和4年度の取組と課題

県内外から有識者を招き職員および生徒に向け講義、実践実習を実施した。またKumamoto Education Weekでの発表、観光庁・未来の観光人材育成事業 成果報告会に参加/研究の外部への積極的な発信を行った。さらに、市役所との連携し高校生が社会の一員として地域（熊本市）の課題を自当事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながら、解決していくための資質能力を育むための活動に取り組んだ。日常生活の様々なところに課題があることを知り、今後の探究学習に役立てていく。

運営指導委員会コンソーシアムを2回開催。これからの10年を見据えた魅力ある学校（自らの学びは自ら作るAgency School）を目指し、必由館等学校の現状、課題を踏まえ課題解決に向けた取組を協議した。校内プロジェクトチームで協議を行っており、教育課程を具現化に向けて引き続き検討を進めていく。

先進的な取組も数多く取り入れられている高等学校や教育委員会への視察訪問を通し各機関の様々な取組やその取組の中にある課題を学んだ。今後、必由館高等学校の探究活動や地域連携のあり方また学科改編に向けた取組について参考としていく。

「AI Grow」による調査は12月から1月にかけて1回のみ実施しており、生徒のコンピテンシーについて現状を把握するに留まった。来年度は年度当初と年度末に少なくとも2回は調査を実施し、2点観測によるデータの比較から生徒個人及び学校全体としてのコンピテンシーの変容を分析し、その伸ばしにつなげる。